

## 011209その他の金属製品製造業における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
2022	1	14 ～ 16	被災者は同僚2名と定格荷重2.8トンの門型クレーンを使用し、トラックの荷台に鉄骨材を積込み作業を行っていた。他の労働者がクレーンを運転し、鉄骨材を吊り上げたところ、荷ぶれし、被災者の胸部に接触したため、荷台から転落した。	211	6	30 ～ 49
2022	1	10 ～ 12	被災者は発注先へ搬出する鋼管製品の仕上がり寸法を確認するため、鋼管架台に配置された鋼管を、手で回転させながら採寸していたところ、架台から鋼管が落下して被災者の腹部を直撃し死亡したものの。	521	4	100 ～ 299
2022	2	14 ～ 16	工場内で一人で円盤状ワイヤーブラシを取り付けた手持ちドリルにて排水管継手の溶接による焼け部分を磨き取る作業をしていた被災労働者が、首に黒い布を巻き付けて血を流して意識を失い倒れているところを発見される。布は手では解けず、工業用ばさみで切断し取り外したが、意識は回復せず、搬送先の病院で数日後に死亡した。	153	7	1～ 9
2022	2	8 ～ 10	塗装設備の運転に際して、エラーメッセージが出ていたため、被災者は機械を停止し、内部に立ち入り、復旧作業を行っていた。他の労働者が機械を起動したところ、カウンターウエイトが降下し、内部にいた被災者が挟まれ、死亡したものの。	169	7	100 ～ 299
2022	3	12 ～ 14	被災者は単独で天井クレーン（つり上げ荷重2.8t）を操作して、H鋼（重量1.1t、全長5.5m）を移動させる作業を行っていたところ、H鋼の下敷きになっている状態を同僚に発見された。	372	4	1～ 9

2022	4	14 ～ 16	工場内の入出庫ヤードにて、最大積載量14.4トンのトラックの荷台に積んだデッキプレート等の荷下ろし作業中、高さ1.3メートルの荷台から墜落して頸椎を損傷し、病院で治療を受けていたが、後日多臓器不全により死亡したもの。	221	1	10 ～ 29
2022	4	14 ～ 16	工場内で不要となった閉止板（耐圧試験に使用する円形のふた板）を整理する作業で、廃棄しない閉止板（重さ1.2トン）を空いた保管場所へフォークリフトで移動させていた時、別の作業をしていた被災者が作業中のフォークリフトの前方に立ち入り、積荷の閉止板と工場建屋との間に挟まれた。	222	7	50 ～ 99
2022	5	14 ～ 16	工場内において、仮止め溶接した鉄柱を本溶接するため、天井クレーンを用いてつり上げて東側に横行していたところ、仮止め溶接した鉄柱が高さ約2.5メートルの位置から落下し、つり荷を抑えていた被災者が下敷きになったもの。	211	4	10 ～ 29
2022	6	8 ～ 10	工場内でトラックに束ねた鋼材（長さ9m、幅20cm、厚さ11mm、重さ169kg/1枚）を積み込む作業中、トラック脇に積み上げていた鋼材（高さ1.76m）が倒壊、当該鋼材に手をかけていた被災者が下敷きとなり胸部を圧迫され、死亡したもの。	611	5	10 ～ 29
2022	8	14 ～ 16	ホイスト式天井クレーン（定格荷重：2.5トン）の走行用トロリ線からクレーン本体へ電気を引き込むために設けられた設備（集電子）の一部がトロリ線から外れて接触していない状態になることが多いため、被災者は集電子付近の状況を確認するために建屋の柱を登った。しばらくして、他の労働者が休憩中にクレーンガーダ付近を見上げたところ、ガーダ付近で座り込んでいる被災者を発見したもの。	351	13	10 ～ 29
2022	8	10 ～ 12	鉄製コイル11個を保管している置き場から、前から10番目にあるコイルを取り出す作業において、被災者が単独で7.5t天井クレーンを使用して1番目から9番目のコイルを順に前に寄せ、9番目と10番目のコイルの間に立ち入ったところ、8番目と9番目のコイル（合わせて約3.75t）が倒れ、挟まれた。	521	5	30 ～ 49

2022	10	14 ～ 16	工場内の金属部品を製造ラインにおいて、被災者が圧接機と自動送材機の間上半身を挟まれている状態で発見され、収容先の病院で死亡が確認された。当日、被災者は、工場内の機械設備の構成部品の型式や品番を確認する作業を単独で行っていた。圧接機と自動送材機の周囲は安全柵で囲われていたものの、メンテナンス用の扉にはインターロックが設けられていなかった。	159	7	50 ～ 99
2022	10	12 ～ 14	被災者は発生日時において、成型加工の試運転作業を行っていた。当該作業中、成型機の上型部分に成型中の加工品（ゴム製品）が張付いた状態となり、取り外そうと成型機の前で作業を行っていたところ、自動運転中だったロボットアームが製品を取り出そうと成型機側に稼働してきたためアームに押され、アーム先端部と下型との間に頭部を挟まれ、その際に下型側より製品取出し用のピンが上昇し顔面に刺さった状態となったもの。	169	7	1～ 9
2022	12	16 ～ 18	被災者は、金属製パイプ内部の付着物を削り落とす装置（事業主の自作）で、パイプ内部に付着したモルタルを除去する作業を一人で行っていた。午後、同装置のシャフトと呼ばれる回転軸（長さ約600センチ）の先端に取り付けられたプロペラ状の刃（直径約12センチ、幅約11センチ）に被災者の腹部付近の上衣が巻き込まれた状態で倒れているのを、事業主が発見した。	121	7	1～ 9
2022	12	16 ～ 18	自動運転中の鋼材加工用機械に注油するため、機械の囲いの中に立ち入り頭部が作動中の装置にはさまれたもの。	152	7	1～ 9
2021	2	10 ～ 12	ショットブラスト装置で製品（レンチ）の研磨作業中、被災者はショットブラスト装置のバケットで製品を投入後、バケットを下に降ろすため下降スイッチを押した。直後にバケットからこぼれ落ちた製品を見つけ、これを拾おうとバケットの下方に立ち入ったところ、下降してきたバケットと鉄箱に上半身をはさまれた。	159	7	30 ～ 49
2021	2	16 ～	ホイスト式天井クレーンの整備作業中、地上から約7mの高さの2本の	211	1	50 ～

		18	ガーダ間開口部からコンクリート敷き工場内地面へ墜落し死亡したもの。			99
2021	4	6 ～ 8	被災者は出勤のため駐車場内を乗用車にて走行していた際に、他の者が運転していた乗用車が停車位置を調整するためにバックしてきたため、当該乗用車後方部と、被災者の運転していた乗用車の右側面部が接触した。被災者は被災当日に打撲や擦り傷等の傷病がなく、体の不調を訴えることもなかったが、交通事故発生から5日後に「頭が痛い」と申し立て、翌日自室で死亡しているところを発見された。	231	6	1～ 9
2021	5	16 ～ 18	ショッピングカートの金属枠の溶接・組立等を行う金属加工業。カップブラシを取付けた手持式グラインダーを用いて溶接箇所の仕上研磨を行っていた労働者が、首にエプロンと当該グラインダーが巻き付いて気を失って倒れている状態で発見された。社長がエプロンの首紐を切る等して救出し救急搬送するも窒息による死亡が確認された。エプロンは被災者が購入した家庭用のデニム地のもので、右下に大きく皺が寄り右の腰紐が切れていた。	153	7	1～ 9
2021	5	8 ～ 10	事業場内の洗浄工場において、コイル状の鉄線の洗浄作業を行っていた被災者が、リューベ槽に転落し、全身が水温約70度の強アルカリ性の溶液に浸かったもの。	416	1	50 ～ 99
2021	5	8 ～ 10	ストレッチャと呼ばれる機械を用いてアルミの型材を延ばした後、同材の確認のため、レール内に立ち上がったところ、ストレッチャが被災者の方に動き出し同機械の下部に巻き込まれて死亡したもの。	159	7	50 ～ 99
2021	5	16 ～ 18	昼食時に食堂で新型コロナウイルスに感染していた同僚の隣の席で食事をしていたため、新型コロナウイルスに感染して死亡した。同僚が陽性を確認され、被災者はその数日後、身体の痛み等を訴え、PCR検査を実施、翌日に陽性と確認される。入院し、治療を続けていたが重症化して死亡した。	911	90	10 ～ 29
2021	6	20	高速道路の追越車線を4tトラックで運転していたところ、前方走行車線を走っていた大型トラックが前方の車線規制に従い、急な追越車線への車	221	17	50 ～

		22	線変更をしたために避けることが出来ずに衝突したものの。			99
2021	6	10 ～ 12	被災者が、工場から約200メートル離れた塗装場から、塗装する製品を取りに行くため、工場に向かって、公道（道幅4.9メートル）上を、最大荷重2.5トンのフォークリフト（ナンバー付き）で荷を積まずに走行していたところ、公道脇にある水路にフォークリフトが横転し、ヘッドガードと水路の壁（コンクリート製）の間に被災者の頭がはさまれたものの。	222	17	10 ～ 29
2021	6	8 ～ 10	特殊な形状のH形鋼を製作する工程で、高さ70cmの台上に置いた鋼材（長さ3.63m）にレバブロックを取り付け、締め付けて変形させる作業を行っていたところ、仮溶接部分が破断し、鋼材の一部（重さ610kg）が落下して、当該鋼材の下敷きになり死亡したものの。	363	4	30 ～ 49
2021	7	16 ～ 18	個人住宅において、以前事業場が納品した網戸の寸法が合わなかったことから、新しい網戸の納品に伴う設置作業を行った（発注者より事業場が直接請負った業務）。事業場に戻るために、橋上を走行中、被災者が運転する車が対向車線に飛び出し、対向車線を走行していた大型トラックと正面衝突した。被災者は心肺機能停止状態で病院に搬送されたが、数時間後に死亡が確認された。	231	17	10 ～ 29
2021	7	16 ～ 18	被災者は建設中の物置の骨組みとなる鉄骨を設置するにあたり、右足を脚立の踏ざんに、左足を設置済みの鉄骨にかけて鉄骨をつなぐL型金具を留める位置決めを行っていた。作業を終えて脚立から降りようとした際にバランスを崩して、脚立から転落し、頭部をコンクリート床に強打した。災害発生日翌日に頭部の手術後に意識不明となり、そのまま数日後に死亡した。	371	1	30 ～ 49
2021	8	8 ～ 10	鉄骨コラム材等の製缶作業を被災者を含めて4名で行っていたところ、被災者が、つり上げ荷重2.8tの橋形クレーンの修理を行うために、ライン上に走行しているつり上げ荷重7.5tの天井クレーンの歩道に乗って移動しようと、高さ約6.3mの天井クレーンの乗込み口（台）に上がっているところ、天井クレーンが走行した際に、はしご道上にいた被災者が	211	6	10 ～ 29

			サドルとはしご道の柱の間に挟まれたもの。			
2021	9	14 ～ 16	高速道路上の多重衝突事故で、衝突されたトラックの運転手が死亡したものの。製品配送の帰社途中の事故。	221	17	50 ～ 99
2021	10	8 ～ 10	被災者は、建築用鉄骨柱部材（空洞状の箱物（以下「加工材」という。）60cm角、長さ70cm、重量約500kg）の溶接加工を行っていた。その際、空荷の10t天井クレーン（フックにつりチェーン及びハッカー取付）を操作したところ、加工材を載せていた台座（H鋼と空洞状鋼材を組合せたもの）が倒れ、同時に当該加工材が被災者の腹部に落下し、下敷きとなったもの。	372	4	50 ～ 99
2021	11	10 ～ 12	伸線機を使用して直径5.5mmの鋼線を直径3.2mmにするための段取り作業中、被災者は右足で寸動のフットスイッチ踏み、左手で鋼線を押さえながら少しずつ巻取りしていた。何らかの要因により自動運転スイッチが「入」となり、鋼線を押さえていた左手が鋼線に引っ張られ、機械と鋼線の間で顔から頸部がはさまれたもの。	159	7	10 ～ 29
2021	11	10 ～ 12	保冷倉庫の金属製扉を自社製造の新品に交換するため出張作業中、外した古い扉（3.36m×3.17m×0.13m、重さ約350kg）を積載形トラッククレーンに積もうと、同車のクレーンで吊上げ旋回中、玉掛けロープをかけていた扉部材（ピン止め金具）が外れ、扉が落下した。被災者は玉掛け後、手で扉の揺れを抑えつつ歩行中、落下・接地して倒れてきた扉の下敷きになった。	611	4	1～ 9
2021	12	8 ～ 10	ローラーコンベアに載せられ自動供給されるH鋼に、穴あけ加工を行うNCドリルマシンの操作を、被災者は一人で行っていた。この際に、被災者は何かしらの原因により、NCドリルマシンの穴あけ加工を行う加工部に左手を入れ、H鋼に穴あけを行うドリルに巻き込まれて被災したものの。病院に搬送され、心肺は回復したものの意識不明の状態が続いていたところ、後日死亡が確認されたもの。	152	7	10 ～ 29
			自社で製造し、外国の工場に設置された熱処理炉の運転等の方法を指導す			

2021	12	8 ～ 10	<p>るため、同工場に出張していた被災者が、アルゴンガスを注入した同熱処理炉の内部で倒れているところを発見され、医療機関に搬送されたが、死亡が確認された。</p>	714	12	100 ～ 299
2021	12	0 ～ 2	<p>被災者は、フォークリフトでコンテナを運んでいるところを目撃されていたが、その後現場リーダーからの無線に応答がなかった。現場リーダーは、被災者の携帯電話に電話し応答がなかったため、設備を停止し、同じ直で作業をしていた作業員と捜索したところ、派遣作業員がベルトコンベヤーの下の床でトンボを持った状態で倒れている被災者を見つけた。</p>	224	3	100 ～ 299
2021	12	14 ～ 16	<p>被災時、係長Aが鉄板（横7, 214mm、縦1, 179mm、厚さ22mm）を、垂直に立てた状態（上下を機械で固定）で開先加工機へ投入し、開先加工を行っていた。その際、上の固定がうまくいっていないことに気づいた工場長Bが、スイッチを押下することによりうまくいっていない上の固定を外したところ、鉄板が倒れ、近くで清掃作業を行っていた労働者Cが被災した。</p>	521	6	10 ～ 29
2020	2	10 ～ 12	<p>工場長が南側のつり上げ荷重5.1トンの天井クレーン、被災者が北側のつり上げ荷重2.02トンの天井クレーンを操作し、計2台の天井クレーンを用いて、重さ約10トンの金属製タンクの向きを90度回転させるため、当該タンクを共づりし、2点つりでつり上げた際、当該タンクが揺れ、被災者の顔面に激突し、死亡したもの。</p>	211	6	1 ～ 9
2020	2	12 ～ 14	<p>工場内で、被災者及び労働者Aがつり上げ荷重5.1tの天井クレーン（つクランプが3個掛けられている）を用いて、ローラーコンベアー上のH型鋼（高さ0.8m×幅0.25m×長さ約11m：重量約2t）の向きを変える作業を行っていた。被災者がクレーンを巻上げたところ、起こしてあったH型鋼のフランジ部につりクランプがひっかかり、同鋼材が倒れて被災者が下敷きとなった。</p>	372	5	10 ～ 29
2020	2	8 ～	<p>ラムと呼ばれる1本の棒状のアタッチメントを取り付けたフォークリフトを使用して、重さ約2トンの荷（コイル状に巻かれた鋼線）を運搬する作</p>	521	7	50 ～

		10	業に従事していた被災者が荷とラムとの間にはさまれているところを発見され、医療機関に搬送されたが、外傷性窒息により、同日死亡した。			99
2020	5	16 ～ 18	引込みクレーン（つり上げ荷重300t。つり荷なし。）を、ジブを南に向けて北方向に走行させていたところ、走行レールの北端（海側）のエンドストッパーに激突した。これにより、当該クレーンの支柱内部の旋回体を含む上部構造部分が北側に倒壊するとともに、運転士が運転席から岸壁に投げ出され死亡したもの。	211	5	300 ～
2020	5	12 ～ 14	工場内で開先加工機を使いH鋼加工をしていた。昼の休憩後、工場の作業場に戻り加工機の横の通路を歩いているのを約10m離れた材料の間から同僚が目撃していたが、その後、姿が見えないことに気付き、近くに行ったところ、コンクリートの床の上に倒れていた。すぐに救急車を呼び病院に搬送され、後日死亡したもの。	521	2	1～ 9
2020	6	16 ～ 18	巻取りロール機により巻き取った鋼帯コイルをスチール製の結束バンドで手作業により結束する作業を行っていたところ、コイル端部が押えロールから突然外れ、スプリングバックによりはね戻ってきたコイル端部が被災者の頭部に激突した。	163	6	50 ～ 99
2020	7	16 ～ 18	夕方頃、半屋外の出荷スペースで突然倒れ、救急搬送されたが回復せず、当日死亡したもの。	715	11	1～ 9
2020	7	14 ～ 16	工場内において、プレス機械の金型を交換するため、被災者が金型を載せたフォークリフトをプレス機械正面に停車させ、運転席から降りてプレス機械スライド下面の清掃を行っていたところ、フォークリフトが突然動き出し、プレス機械とフォークリフトに載せられた金型との間に被災者の腹部が挟まれたもの。フォークリフト停車時にはエンジンは停止しておらず、ギアがロー（前進）に入れられ、サイドブレーキは掛けられていたもの。	222	7	1～ 9
		16	被災者は、といしの直径18cm用の携帯用研削盤を用いて、卓上に置いた金属部材を研磨していたところ、回転中の研削といしが右上腕部に当			10



2020	8	～ 18	たつて切創し、出血多量で倒れているところを他の労働者に発見されたもの。	153	8	～ 29
2020	9	～ 18	県内で機器の搬入と設置を終え、帰社するため高速道路を走行中、トンネル内の非常停止帯で車両が左側に寄り、そのままトンネル壁に激突したものの。	221	17	1～ 9
2020	10	8 ～ 10	同僚労働者が始業するとき、サプライターンテーブル（鉄線巻きを回転しながら送り出す装置）の脇で、被災者が脳脱の状態で見つかったもの。なお、被災者は所定の始業時刻前に早出し一人で作業を行っていた。	169	7	100 ～ 299
2020	10	14 ～ 16	被災者は、船舶の部品（軸受け。直径約50cmの半円状で重量72kg。）を製作するため、NC旋盤（横中ぐり機）を用いて表面加工を行っていたところ、当該旋盤の回転部分に巻き込まれ、頭部損傷及び左腕切断により死亡したものの。	151	7	30 ～ 49
2020	10	～ 18	コンピュータ制御のパレットチェンジャーの加工パレットと当該加工パレットを牽引するトラバーサとの間に胸部をはさまれた労働者が低酸素脳症に至ったものの。	159	7	10 ～ 29
2020	11	16 ～ 18	作業台の上に置かれていた鉄骨の上を歩いて作業場所を移動していたところ、鉄骨から作業台（高低差20cm）に下りた際に、バランスを崩して、高さ79cmの作業台から墜落したものの。事故後、被災者は首から下が麻痺している状態で、意識はあったが、災害から2ヶ月後に亡くなった。	521	1	1～ 9
2019	1	～ 12	制作した鉄骨を床上操作式橋形クレーンを使用して、トラックの荷台に積み込む作業をクレーン操作者とトラックの荷台から指示を出す者の2人で行っていた。鉄骨をつり上げ、トラックの荷台の位置に合わせるために鉄骨の位置を調整していたところ、調整とは逆の方向にクレーンが動き、つり上げていた鉄骨がクレーン操作者の胸部に激突した。	211	6	10 ～ 29
2019	1	14 ～	金属やプラスチック等の廃品を回収加工して販売している事業場内で、被災者がフォークリフトを運転していたところ、何らかの理由で傾斜のある	222	2	1～

		16	路肩に乗り上げて、フォークリフトが横転し、座席から投げ出された被災者がフォークリフトのヘッドガードと地面に頭をはさまれた。			9
2019	3	20 ～ 22	バケットローダーが上昇しショットブラストに材料（鋳物、160個、500kg）を投入後、バケットが下降した。被災者はバケット内に残品がないか確認するため、バケットの稼働範囲内に侵入しており、バケットの台座とそれら機構の支柱との間で胸を挟まれ死亡したものの。	159	7	30 ～ 49
2019	3	16 ～ 18	事業場内ヤードにおいて、被災者が2.8t天井クレーンを使用して鉄骨（7.6m×0.8m×0.25m、1.2t）を移動させるときに、当該鉄骨が落下あるいは倒壊して被災者に激突したものの。	211	6	1～ 9
2019	3	8 ～ 10	工場棟の仮置きしていた動力運搬機（軌道付き電動台車）を東方向に移動させようとリモコンで操作したところ、当該動力運搬機が西方向に移動したため、電動台車が被災者に激突し、引戸と台車の間にはさまれたものの。	229	6	10 ～ 29
2019	3	16 ～ 18	使用していなかった機械設備を倉庫に移動するため、装置のハンドルを持ち、引っ張っていたところ、倉庫入り口で機械（質量：推定200kg）が転倒して被災者が下敷きとなった。倉庫入り口には約5cmの段差があり、スロープとしてベニヤ板が敷かれていた。	612	5	50 ～ 99
2019	4	8 ～ 10	被災者1人で工場兼倉庫の屋根の補修作業中、作業床に利用していたコイル状に巻いた鉄筋材（高さ1.6m）から転落し、頭部をコンクリート床に強打したものと推測される。その後、病院に搬送され入院加療中であったが、後日死亡した。なお、被災者は、屋根の補強材（C形鋼）を溶接する予定であったとのことであるが、溶接の作業は確認できていない。	521	1	10 ～ 29
2019	5	10 ～ 12	工場内で、最大荷重15トンのフォークリフトを使用して、母材コイルの運搬作業をしていたフォークリフトの運転者が、梱包を外す作業のためフォークリフトを降り工場内を歩行中に安全靴が落ちている事に気付き、確認したところ当該フォークリフトの車体の真下に倒れている被災者を発見した。その後、病院へ搬送されたが死亡した。	222	7	30 ～ 49
		8	天井クレーンのフックに吊りクランプを掛けた状態で、クレーンを操作して積み上げたH型鋼の上方を通過させようとした際に、吊りクランプがH			10

2019	6	～ 10	型鋼の最上部に引っ掛けて当該H型鋼が落下し、落ちていた番木を拾おうとして当該通路に入った作業者がH型鋼の下敷きとなった。	211	4	～ 29
2019	6	14 ～ 16	被災者1名で4.8tホイスト式天井クレーンを用いて0.7tと1.2tの長尺鉄骨(約7.8m)を14.8t構内搬送用トレーラーに積み込み作業中、荷台に積み込んだ0.7tの鉄骨が、既に積み終えていた1.2t鉄骨に倒れかかり将棋倒しのようになって、荷台から落下し、二つともFLで当該クレーンを操作していた被災者に激突して、頭部等を負傷し死亡したものの。	211	4	10 ～ 29
2019	9	～ 14	12 自社工場の屋根に上がり、同僚2名と雨樋の補修作業を行っていたところ、被災者がスレート屋根を踏み抜き、9メートル下の工場床面に墜落したものの。	415	1	1～ 9
2019	9	～ 16	工場において、単独で橋形クレーン(片脚式、つり上げ荷重2.827ト)を用いて運搬した約660kgの鋼材を作業場所に縦置きし、鋼材に掛けていた二つのハッカーを外した後、当該クレーンの巻き上げを行ったところ、ハッカーの一つが鋼材の上フランジに引っかかったことにより、鋼材が倒れて下敷きとなり死亡した。	372	5	50 ～ 99
2019	9	14 ～ 16	被災者は、鉄骨資材(長さ約6m、重さ約600kg、四角辺約20cm)の部品取付作業を、出張先の資材置場にて作業として行っていた。被災者が、重ね置きされていた2本の鉄骨の部品部分(約1mのT字型)に足を掛け跨ごうとしたところ、部品が梃子となり、鉄骨ごと傾き、部品が胸部に激突、衝撃で背後に置かれていた鉄骨に背中が当たり、鉄骨に挟まれる状態となった。	521	6	1～ 9
2019	11	10 ～ 12	ユニック車の車載の移動式クレーンを用いてグラウンドアンカー(橋の補強に使う鉄骨)を吊り上げ、移動させようとした際に、車体が傾き、荷台に積んでいた別のグラウンドアンカーが滑り落ち、被災者の背中に滑り落ちたグラウンドアンカーが激突し、事前の作業で置かれていたグラウンドアンカーとの間に挟まれた。	212	4	1～ 9

2019	11	10 ～ 12	工場内で2回程大きな音が聞こえたため、音が聞こえた方を確認すると、8段に積まれていた鋼材（トラス材）が崩れ落ち、近くにいた被災者が鋼材の下敷きとなり、右側頭後頭部から出血しているところを発見されたものの。発見時、崩れた鋼材（トラス材）の上に床上操作式天井クレーン（2t）が別の鋼材（V材）を吊った状態で止まっていた。	521	5	～ 29	10
2019	11	10 ～ 12	個人住宅の敷地内において、雨除けの屋根が台風によりはがれたため、雨除けの解体を依頼され、脚立（天板から地面までの高さ2m）を使用し、アセチレンガスによる溶断を行っていた被災者が何らの原因で脚立から転落し、後頭部から地面に落ち、頭蓋骨骨折により死亡したものである。	921	1	1～ 9	
2019	12	8 ～ 10	被災者は天井クレーン（つり上げ荷重10t）で吊っていた缶体（直径210cm、缶厚60cm、重量370kg）を反転機の片側に定置させ、玉掛を解いた後、無線式コントローラーで同クレーンを横行させている際、同缶体が倒れて下敷きになったもの。	521	5	～ 299	100
2018	1	12 ～ 13	集じん機の金属製ケーシングの製作中、同ケーシングの上に乗し、同ケーシングに取り付けたフランジのボルト穴を拡げる作業を行っていた被災者が約2.5メートル下の床に墜落し、頭部を打ち、医療機関に搬送されたが、翌日死亡した。	416	1	～ 29	10
2018	5	8 ～ 9	事業場内土場において、平置きされたクレーンガーダを、作業スペースの確保のため3段（約3m）積み上げ、その横で部材のペンキ塗りをしていたところ、積み上げたクレーンガーダが崩れ落ち、被災者2名にクレーンガーダが激突し、1名が重傷、1名が軽傷を負ったもの。その後、重傷者の容態が悪化して死亡した。	521	5	1～ 9	
2018	5	10 ～ 11	自社敷地内にてホイスト式片脚クレーンのホイスト交換作業中、クレーンで吊り上げた足場の上から約5メートル下の地面に転落した。	211	1	1～ 9	
2018	7	8 ～	被災者は、工場内で建築用鉄骨（H250×250長さ4.9m）7本を玉掛けし橋形クレーンにて移動した。当該鉄骨を作業台に降ろしたところ、当該鉄骨が被災者側へ倒れ、作業台の梁と鉄骨に腹部を挟まれ死亡し	611	5	1～ 9	

		9	た。			
2018	7	12 ～ 13	事業場内において、昼休憩後、叫び声がしたので確認したところ、1階と2階を繋ぐ屋内階段の地上部分で倒れている被災者を発見、救急搬送されるも「外傷性くも膜下出血」により、搬送先で死亡したもの。なお、発生時の目撃者はいない。	413	1	10 ～ 29
2018	8	16 ～ 17	終業時間前の労働者が、事業場内更衣室前の廊下の壁にもたれかかり、朦朧とした状態で発見されたもの。発見時には、かろうじて意識があったが、直後に意識を失い救急搬送され、搬送先の病院で容態が悪化し死亡。	715	11	300 ～
2018	8	14 ～ 15	階段下で被災者が下記状況で倒れているのが発見されたもの。・ヘルメットが外れ、飛んでいた。・汗をたくさんかいていた。・左頭部うしろに擦り傷があった。声をかけると自分で立ち上がり、制御盤の前まで歩き座ったが、意識が朦朧としていた為、救急車で病院に搬送。脳挫傷により死亡。	413	1	1～ 9
2018	8	14 ～ 15	被災者が、クレーン（ホイスト式／つり上げ荷重不明）のボタンスイッチの交換・長さ調節のため、当該クレーンのガーダーに溶接された点検台（1.6m×1.1m×地上高6.5m／手すり等墜落防止措置なし）の上で作業をしていたところ、地上まで落下し、死亡したもの。当該作業は、被災者と電気工事業者1名の計2名で行っていた。また、災害発生時、被災者は安全帯と保護帽を着用していなかった。	211	1	10 ～ 29
2018	8	10 ～ 11	被災者は形鋼加工ラインにおいて作業中、H形鋼自動開先加工機の隣に設置されている切粉搬出用コンベアの回転部に切粉が詰まって動かなくなり、この切粉を取り除く補修作業を行うため、切粉搬出用コンベアのプリーカバーを外した際、モーター取付け部の200V電線が破損し、モーターの筐体及びコンベアの金属筐体に電流が流れ、それに気付かず補修作業を開始したところ、電流が体内に流れ込み感電したものと推定される。	159	13	10 ～ 29
		14	台風により倉庫の屋根が破損したため、雨漏り防止用シートを敷くために、被災者と同僚がスレート拭き屋根上に上がり、2名で屋根端部から丸			1～

2018	9	～	めたシートを広げていたところ、被災者が棧と棧の間のスレートを踏み抜き、約5m下に墜落したものの。屋根には歩み板、防網は設けられておらず、被災者は保護帽、安全帯を使用していなかった。	415	1	9
2018	9	8 ～ 9	工場において、被災者がホイスト式天井クレーン（つり上げ荷重4.843t）を用い、仮置きしていたH鋼（幅20cm×長さ785cm×高さ60cm、重量800kg）を、積み上げられたH鋼の上（高さ127cm）に移動させた後、H鋼からクランプを外しクレーンを巻き上げていたところクランプがH鋼に引っかかり、バランスを崩して倒壊したH鋼と床との間に被災者の胴体が挟まれたもの。	211	5	10 ～ 29
2018	9	16 ～ 17	鋼棒表面加工工場にて、出荷前製品置場の金属製ラックの中に、盤木を介して4段積みされた丸鋼の最上段の丸鋼（長さ3.067m、直径16cm、重量480kg）1本が1.14mの高さから転がり落ち、そばにいた派遣労働者が下敷きとなったもの。	521	4	30 ～ 49
2018	9	8 ～ 9	被災者は、ロッド（直径19mmの鋼線が、直径約1m、幅約1mの円柱状に巻かれているもの。重さ2トン）を酸洗するにあたり、ロッドを横置きにして立てかけ、鋼材をきつく固定していたバンドを切って、酸洗のため鋼線が重ならないよう、巻きを緩め、鋼材がバラバラにならないよう番線でロッドを緩めに縛る作業を行っていたところ、立てかけていたロッドが被災者側に倒れ、被災者は下敷きとなり死亡したもの。	521	5	10 ～ 29
2018	10	14 ～ 15	解体を行う鉄製の台船において、同船の甲板の下の槽内の排水を行うための準備作業を行っていたところ、蓋の開いた当該槽内に立ち込んで倒れたもの。	714	12	1～ 9
2018	10	14 ～ 15	解体を行う鉄製の台船において、同船の甲板の下の槽内の排水を行うための準備作業を行っていたところ、蓋の開いた当該槽内に立ち込んで倒れたもの。	714	12	1～ 9
2018	10	16 ～	製品である建築用鉄骨（長さ8.7メートル重さ約2.6トン）を橋形クレーンにて、構内運搬用のトラック荷台に4本積み込む作業中に発生したもの。最後の1本を積み込み、玉掛け用ワイヤロープを外し、フックを巻	211	4	100 ～

		17	き上げたところ、当該鉄骨が崩れ、落下し、橋形クレーンを運転していた被災者が当該鉄骨と、背後に積まれていた鉄骨に胸部等を挟まれた。			299
2018	10	14 ～ 15	洗浄槽内に洗浄した部品が落ちていないか確認に行った被災者が戻ってこないため、同僚が探したところ洗浄槽内で倒れている被災者を発見した。被災者は心肺停止状態で救急搬送され、搬送先の病院で蘇生したものの低酸素脳症と診断を受け、入院加療していたが後日死亡したもの。被災者発見時、洗浄槽底部は洗浄液であるジクロロメタンの残液で濡れている状態で、再現による酸素濃度測定では約13%であった。	714	12	100 ～ 299
2018	12	14 ～ 15	石油ストーブの間近で、エタノールを使用し、椅子に座りながら製品の洗浄作業を行っていたところ、椅子に敷いてあった座布団がストーブに接触していたことから、座布団から身体に燃え移り、火傷を負ったもの。後日死亡が確認された。	391	16	10 ～ 29
2018	12	12 ～ 13	3泊4日の取引先への営業回りのため、労働者が社用車で本社を出発し、営業所所属の被災者と合流し取引先をいくつか訪問した。取引先へ向かう途中の道路上で、自車がスリップして対向車線にはみ出し、対向車線を走行していたタンクローリーに正面衝突した。助手席にいた営業所所属の労働者は死亡、運転していた本社所属労働者も骨折した。	231	17	1～ 9
2018	12	14 ～ 15	工場内において、直立ボール盤の主軸に作業服の襟とエプロンが巻き込まれて、被災労働者の首が絞まり、窒息し、死亡したもの。	152	7	1～ 9
2017	1	0 ～ 1	被災者は、事業場内出入口付近の傾斜地に駐車したフォークリフトが動き出したため、停車しようと飛び乗ったが停車できなかった。その後、当該場所をとった労働者が事業場出入口の門が破損していることに不審におもい上司に連絡し付近を捜索したところ、敷地外の側溝に落ちた被災者と横転したフォークリフトを発見した。	222	3	300 ～ 499
2017	2	8 ～	横梁ウェブパネルの組立作業において、横梁ウェブ（鋼板）の上に仮付溶接された大型リブが、組立溶接の準備作業を行っていた被災者の上に倒れ、被災者は頸椎と脳幹部を損傷し、病院に搬送された。その後病院にて	521	5	100 ～

		9	死亡した。			299
2017	2	14 ～ 15	被災者と代表者の二人で、コンクリート二次製品用鋼製型枠の改造作業（サイズ変更）を行い、その後、被災者一人で当型枠本体に型枠の開閉部分の鋼製の部材（重量約100kg）を締付チャック・ボルトで固定作業中、この開閉部分の鋼製部材が倒れ、もう一つの型枠の間に胸部をはさまれた。	521	5	1～ 9
2017	2	18 ～ 19	被災者は、資材置場において天井クレーン（つり上げ荷重4.843t）を使用してトレーラーの荷台からH型鋼材（長さ約9m、重さ約2.7t）を架台の上に設置した際、H型鋼材が倒れ隣のH型鋼材との間に挟まれた。	211	6	50 ～ 99
2017	2	14 ～ 15	被災者は、屋外の借地において、既にスクラップとなった移動式クレーンの上部旋回体や上部フレーム等の大型金属部材を、客先の要望に応じた大きさに細分するため、一人でガス溶断作業を行っていたところ、上部フレームをガス溶断で断ち切ったとき、ガス溶断した部材が被災者の方向に倒れ、その部材の下敷きとなって被災した。	521	6	30 ～ 49
2017	4	10 ～ 11	資材置場において、水門用のH鋼の溶接作業を行っていた。溶接作業終了後に、クレーンでH鋼（重量約2.0t）を3cm程度つり上げたところ、H鋼のバランスが崩れ、被災者の首付近に当たり負傷した。	521	6	10 ～ 29
2017	4	8 ～ 9	商用により社用車にて出張中、ビジネスホテルを出発し、取引先に商談に向かう途中、高速道路の中央分離帯ガードレールに激突し、社用車が大破し、運転者（被災者）は意識不明のまま病院へ搬送され、死亡が確認された。	231	17	30 ～ 49
2017	4	22 ～ 23	被災者は会社の歓迎会の幹事業務終了後、A駅から同僚と電車に乗り、B駅からは同僚と別れた。C駅で下車するものと思われたが、翌日の午前5時過ぎ、駅の線路側溝に倒れているところを発見され、病院に運ばれたが死亡が確認された。	419	1	10 ～ 29
			被災者と取締役の2人は、修理を依頼されたトラックの荷台に設置された			



2017	5	18 ～ 19	グラップル操縦席横のアームを取外し、溶接補修を行った。溶接補修終了後、荷台に乗った取締役がアームを操縦席横に取付けようとしていたところ、手伝おうとした被災者が、トラック脇に設置されたうまを昇り荷台に移動しようと、操縦席に手をかけた際、操縦席が動き、被災者はうまの4段目（高さ1.72m）から墜落した。被災者は保護帽未着用であった。	371	1	1～ 9
2017	5	14 ～ 15	橋形クレーンによる荷下ろし作業後、被災者が吊り荷であるH形鋼から玉掛け用具（つりクランプ）を外し、同僚労働者がクレーンを操作してフックを巻上げたところ、H形鋼になんらかの外力が加わり、H形鋼が被災者の方に倒れ被災者胸部に激突した。その後搬送先の病院で死亡した。	211	5	10 ～ 29
2017	6	22 ～ 23	同僚と2人で製品のワイヤロープに張力をかけて初期伸びをとる機械の操作をしていた。ロープをサプライドラムから送り出し、緊張側のチャックでつかみ、さらに約240m離れた固定側チャックでロープ先端部をつかんで段階的に張力をかけていたが、20tから27tに張力を上げていたときに緊張側のチャックでロープが滑ったため、サプライドラムと緊張側チャック間のロープが跳ね上がり、近くにいた被災者に激突した。	169	6	50 ～ 99
2017	7	10 ～ 11	推定2.8tの床上操作式クレーンを用いて、鉄板（長さ2495mm、幅180mm、厚さ2.3mm）41枚を、ベルトスリング1本で高さ約1.5mの位置につり上げ走行させていた。クレーン走行中に鉄板が荷崩れを始め、荷を押さえていた被災者の顔にベルトスリングから外れた鉄板が激突し、飛ばされてコンクリート製地面に転倒した。	611	4	10 ～ 29
2017	8	16 ～ 17	被災者は、盆休業前の清掃作業に際し、工場内天井クレーンの清掃を行っていたところ、当該クレーンのガーダ付近から、約8メートル下の工場床面に墜落した。	211	1	100 ～ 299
2017	9	16 ～ 17	工場内の壁面パネルを外す作業を一人で行っていたところ、高さ約1.1mの脚立から墜落し、頭を強く打って死亡した。終業時間になっても被災者が引き上げてこないため探しにいったところ、床上に倒れている被災者を発見した。	371	1	30 ～ 49
			工場の敷地内において、2名でトラック荷台からH鋼を門型クレーンで荷			

2017	10	8 ～ 9	降ろす作業を行っていたところ、玉掛けのため、荷台に上ろうとし荷台上のH鋼又はその下の端太角につかまったところ、H鋼（約750kg）が被災者側に崩れ、被災者の胸部に落ち、下敷きになり、心臓破裂により死亡した。	521	5	10 ～ 29
2017	10	6 ～ 7	作業場に仮置きしてある鋼製の箱（幅61cm、奥行91cm、高さ62cm）に資材を収納するため、事業者がドラグ・ショベルを運転して、玉掛用具によりつり上げて箱を移動させようと、箱の上方にバケットを移動させ、被災者の指示によりバケットを下降させたところ、被災者の頭部にバケットが当たった。なお、被災者は保護帽を着用していなかった。	141	6	1～ 9
2017	10	8 ～ 9	工場内において、被災者が鉄板（3m×4m、約500kg）にハッカーを掛け、2.8t天井クレーンの無線操作を行ったところ、天井クレーンの中心と荷の重心がずれていた為、吊り上げた荷が被災者の方に振れて、鋼材の山と吊荷に被災者が挟まれた。	211	6	10 ～ 29
2017	11	14 ～ 15	賃借している倉庫の雨樋修理を1人作業で行っていた被災者は、はしごを使用してあがったスレート屋根上を移動中に、歩み板を踏み外してスレート屋根を踏み抜き約5m下の倉庫内コンクリート床まで墜落し、頭部を打撲し頭蓋骨骨折により死亡した。	415	1	10 ～ 29
2016	2	14 ～ 15	工場内で天井クレーンを操作していた作業者が、フックがH鋼に引っかかった状態に気付かず天井クレーンをつり上げようとしていた。そのため、フックが引っかかっていることに気付いた被災者（応援のため本社から来ていた）が外そうとしたところ、作業者が天井クレーンをつり上げたため、H鋼がバランスを崩して倒れてきて、被災者がH鋼の下敷きになった。	211	5	10 ～ 29
2016	2	14 ～ 15	被災者は工場内において、局所排気装置（塗装ブース）内に設置していた高さ47センチメートルの鋼製踏み台の上で中量ラック棚板（製品）を吹き付け塗装を行っていたところ、踏み台後方に降りた際、作業床に置いていた吹き付け塗装の溶液ホースに足を引っ掛け転倒し頭部骨折の治療のため入院していたが腎不全にて死亡した。	391	2	10 ～ 29

2016	2	13 ～ 14	被災者は、第二工場内の25ヤードにおいて、床上操作式天井クレーン（つり上げ荷重5.07t）にて山留材（約3.3t）を運搬中であった。クレーンが停止したままの状態なので不思議に思った同僚が確認したところ、床に倒れている被災者を発見した。	521	1	10 ～ 29
2016	2	12 ～ 13	被災者は、ばねの表面処理装置（自動運転）を使用して、処理前のばねが入ったステンレス製容器（カゴ）を装置にセットし、処理した後、同容器を装置から取り出す作業を行っていた。昼休憩になり、同僚は昼食のため現場から離れ、被災者は一人で作業を行っていた。同僚が現場へ戻ってきたところ、被災者が装置の柱（H鋼）と搬器（ねじの入ったカゴを移動させるもの）に上半身を挟まれた状態で発見された。	391	7	50 ～ 99
2016	3	9 ～ 10	工場の建築資材用トラス梁（以下「梁」という。）の製作において、高さ1.2m、長さ7.6m、幅25cm、重量約1tの梁を定格荷重2.0tの片脚橋型クレーンで立てたまま移動させ、玉外し後にクレーンの巻上げ操作をしたところ、玉掛け用具が立てていた梁に引っかかり、倒れて来た梁とクレーン脚部との間に被災者が挟まれた。	372	5	10 ～ 29
2016	3	14 ～ 15	被災者は、鋼製部品の内面に肉盛り溶接を施した箇所の凹凸面を滑らかに仕上げるため、スロッター加工機（立削り盤）を運転し、切削加工を行っていたとき、加工範囲が特殊であったことから、当該鋼製部品の上面側より、切削加工の状態を立位の姿勢で見下ろしながら目視で確認していたところ、下降してきたラム（切削工具を取り付けた往復運動する部分）の下面と鋼製部品の上面との間に頭部をはさまれ被災した。	152	7	30 ～ 49
2016	3	8 ～ 9	敷地内において、ドラグ・ショベルを使用して鋼管杭の蓋をつり上げる作業中、ドラグ・ショベルの右脇に近接していた鉄柵を番線で結束していたところ、当該ドラグ・ショベルが左旋回した際、上部旋回体と鉄柵の間に挟まれた。	142	7	10 ～ 29
		11	作業場の庇（鉄骨造・スレート張、縦1.63m、横5.08m、地上からの高さ4.67m）の上で、同僚2名と共に作業場外壁の塗装作業を行っていた被災者が庇のスレート部分を踏み抜き、地面（コンクリート舗			1～

2016	3	～ 12	装)に墜落した。災害発生時、被災者他2名は、庇に「歩み板」2枚(幅24cm、長さ2m、厚さ4cm、木製)を敷いて作業を行っていたが、被災者は、板が敷かれていない箇所のスレートを踏み抜き墜落した。	415	1	9
2016	3	～ 12	11 自社工場のスレート屋根の修繕作業を行っていたところ、被災者がスレート屋根を歩行中に屋根を踏み抜き、高さ約5メートル下のコンクリート床に墜落し、死亡した。	415	9	1～ 9
2016	4	～ 14 15	建屋内にて鉄骨加工物の塗装作業において、つり上げ荷重2.8トンの天井クレーンを操作し加工物を地上から1.6mの高さまでつり上げたままの状態加工物の下部を塗装していたところ、2点づりで玉掛けしていたワイヤロープのうちの1本が天井クレーンのフックから外れ、加工物が落下。塗装作業の補助を行っていた下請の労働者の右肩から背中に当たり、上行大動脈断裂により死亡した。	372	4	1～ 9
2016	5	9 ～ 10	出荷ヤードにおいて、天井クレーン(20t)でつり上げた薄板コイル(重量5,558kg)の梱包作業中、クレーン運転者の操作により、天井クレーンの走行方向で待機していた被災者につり荷である薄板コイルが激突し、定置されていた別の薄板コイルとの間に挟まれた。	211	6	1～ 9
2016	5	～ 11 12	被災者が構内の製品ストックヤードで別の請負事業場の労働者2名と建築用鉄骨柱(500mm×500mm×8,740mm、重量:約2t)のケレン(塗装前処理)作業中、架台鋼材上に置かれた鉄骨柱の張り出し部分に乗ったところ、鉄骨柱が回転し、その柱にある別の張り出し部分が被災者の頭部に激突した。	521	6	1～ 9
2016	6	～ 15 16	屋外の資材置場において、工場内で製造した鋼材(重量約3.5t、長さ約12m、幅約0.4mのH型鉄骨支柱)を移動式クレーン(ラフテレーンクレーン:つり上げ荷重70t)でトラックからつり上げて降ろしていたところ、つりクランプが外れて鋼材が落下し、被災者(玉掛け者)が下敷きとなり死亡した。	372	4	10 ～ 29
		11	天井クレーンで台車上に鉄骨を移動させた後、玉掛け者は荷外しされた			

2016	6	~ 12	ハッカーをフックにかかった状態で鉄骨脇に束ね、被災者はハッカーの状態を見ずにクレーン操作をしたところ、ハッカーが鉄骨に引っかかったことによりつり上がり、鉄骨が被災者に向かって倒れた。	211	4	1~ 9
2016	6	~ 15	工場内において、被災者がホイス式天井クレーン（つり上げ荷重5.07トン）を南側方向へ移動させていたところ、クレーンフックに掛けてあった玉掛用ハッカーが床に置いてあった二段積みの鋼材のフランジ部分に引っ掛かり、二段目の鋼材がバランスを崩し傾いたところ、横に置いてあったH型鋼との間に被災者の頭が挟まれた。	211	5	30 ~ 49
2016	6	~ 14	被災者は、トラックで搬入された50枚の鉄板束（重量約2685kg）をホイス式天井クレーン（定格荷重2t）で所定位置に運搬させるため、被災者とトラック運転者がトラックの荷台上で玉掛けし、クレーンを走行させたところ、鉄板束が被災者の上に飛来・落下し、被災した。	372	4	10 ~ 29
2016	6	~ 17	被災者は橋形クレーンを用い、自ら玉掛けし、H鋼（約10.3×0.9×0.3m、約1~2t）をH状に置かれた状態からI状に起こしていた。被災者がH鋼を起こし終わり、荷外したクランプを起こしたH鋼から十分に離さないままクレーンの操作をしたことでクランプがH鋼のフランジに引っ掛かり、H鋼がつり上げられたところでクランプが外れ、H鋼が倒れて被災者の腹部がはさまれた。	211	4	10 ~ 29
2016	7	~ 10	長さ3.12メートル、幅0.5メートルの金属製構造物（ステージ床面の枠組）をアーク溶接により一人で組立作業中に心肺停止状態で発見された。救急搬送先の病院で災害から5日後に蘇生後脳症により死亡した。	332	13	10 ~ 29
2016	7	~ 16	スリッターラインのリコイラー（切断した鋼材をコイル状に巻き取る機械）の設置箇所において、被災者がドラムサポーター（アームが上下に可動し、リコイラーのドラムを保持する役割）の下方を通り抜けようとしたところ、ドラムサポーターのアームが下降し、ドラムサポーター本体とアームの間にはさまれた。	159	7	30 ~ 49
		15	普通旋盤を使用して、機械器具の部品（外径76.3mm、長さ2712mm）を製造していた被災者が、チャック側の端部の溝切削加工部のバリ			30

2016	7	7 ～ 16	取りのため、金属板に取り付けたサンドペーパーを押し当てて研磨作業をしていたところ、身体が巻き込まれ死亡した。	151	7	7 ～ 49
2016	7	16 ～ 17	ショットブラストから出てきた縦置き状態のH鋼を、2.8トンの橋形クレーンでH鋼置き場Bに移動させる準備作業を行っていたところ、倒れてきたH鋼の下敷きになった。	211	5	10 ～ 29
2016	8	9 ～ 10	被災者が一人でスリットコイル（幅：30～125mm、直径：1050～1200mm、コイル数：10個、全重量：3610kg）の結束作業中、コイル転倒防止ポールを作業位置の後方に移動させ、スリットコイルと転倒防止ポールの間で、下部の結束バンドを締め付ける作業を行っていたところ、スリットコイルの6～7個が被災者側に転倒し、被災者はスリットコイルと転倒防止ポールに挟まれ、胸部を圧迫されて死亡した。	611	5	30 ～ 49
2016	8	7 ～ 8	H鋼をアセチレンガスを用いて開先加工していたところ、何らかの原因により衣服に着火し、気道熱傷により死亡した。作業箇所から10mほど離れた屋外で倒れていた被災者を、出社して来た社長が発見した。	331	11	1～ 9
2016	9	21 ～ 22	鉄鋼コイルを6分割に切断して巻き取る工程において、コイルの切断面の確認作業を行っていたところ、深さ2.2メートル（底部に水深0.2mの汚水が滞留）のピットに転落し2日後に混合水の誤嚥による化学性肺炎により死亡した。なお、被災者は、転落時に意識を失ったが、同僚労働者が水面から抱き起したところ、意識を取り戻し自力で地上まで昇った後、救急搬送されていた。	414	1	30 ～ 49
2016	9	17 ～ 18	1.5tトラックに1枚約200kgの鋼製扉7枚を立掛けて積み込んだ。事業者が扉の倒壊防止の本締め用クランプを取り付けようとして仮止め用のL字型クランプを外した時に扉がバランスを崩して被災者のいる方へ倒壊した。被災者は頭部を負傷し、搬送先の病院で同日、死亡した。	221	5	1～ 9
2016	9	16 ～ 17	被災者が天井クレーン（つり上げ荷重2.8t）を運転し、建築用鉄骨部材（1.2t）を玉掛けし、移動させようとしたところ、玉掛け用具から外れ建築用鉄骨部材が落下し、被災者に当たった。	211	4	30 ～ 49

2016	11	9 ～ 10	移動式クレーンで鉄骨をつり上げたところ、つり上げた鉄骨が積み重ねていた隣の鉄骨に接触し、積み重ねられていた鉄骨の上にいた被災者とともに落下した。被災者は鉄骨と鉄骨との間にはさまれ、死亡した。	212	1	1～ 9
2016	12	8 ～ 9	被災者が所属するラインの作業開始前ミーティングの後、当該ラインで製造している鋼管の原料となる幅10cmの鋼板がドーナツ状に巻かれたコイルの置場において、被災者が何らかの作業のため立てて保管しているコイルの倒れ止めを外したところ、厚さ10cm、直径164cm、重量1520kgのコイル1巻が倒れて、被災者が、当該コイルと床面の間に挟まれた。	521	5	10 ～ 29
2016	12	15 ～ 16	被災者は、構内で他の事業者が施工している工事現場を社用車でパトロール中、内港の角付近にいつも他の事業者の安全担当者と情報交換している駐車スペースがあり、そこへ社用車を止めようとしたところ、アクセルとブレーキを踏み間違え、車止めを乗り越え社用車もろとも海中へ転落した。	231	10	50 ～ 99
2015	8	13 ～ 14	工場内で、溶接ヤードから大きな音がしたので、不審に思った作業者が近づいたところ、床に倒れている被災者を発見した。倒れていた箇所は、製品の鉄骨を置くためのリン木（H400×300）を並べているところで、リン木の上には鉄骨（H600×300、長さ4.6m）が置かれていた。また頭上には10t天井クレーンがあった。死因は「頸椎骨折、脳挫傷」。着用していたヘルメットにも大きな傷が付いていた。	372	4	10 ～ 29
2015	11	17 ～ 18	被災者はバリ取り、研磨、搬出の作業を自動で行う機械を使用して、鉄板（1メートル×2メートル）の表面を研磨していたところ、研磨機の作業台と搬出装置との間で胸部を挟まれたもの。	167	7	10 ～ 29
2015	9	0 ～ 1	平成27年9月5日0時40分頃、事業場1階の工場に設置されている集塵機のケーブルが短絡し、火災が発生した。事業場2階の休憩室にいた被災者が火災により発生した煙を吸い込み、病院へ搬送されたが、平成27年9月6日に死亡した。	514	12	1～ 9
			片脚橋形クレーン（つり上げ荷重2.0t）でH形鋼（50×30cm、			

2015	9	16 ～ 17	長さ10.05m)を移動している際に、積み上げに使用していた枕木(幅7.5cm、厚さ6.0cm、長さ105cm)が、切断し、H形鋼が崩れたため、片脚橋形クレーンの支柱とH形鋼に腹部を挟まれたもの。H形鋼は、2段積んだ上に枕木を乗せ、その上に5段積んでいた。5段積んだ重量は、約6t。	521	5	10 ～ 29
2015	2	8 ～ 9	鉄工場において、作業員3名(うち1名が経営者)が金属製の鉄板を加工して非常用発電機用の煙突を作成していた。煙突は長さがあるため、いくつかのパーツに分けて組立られ、作成しながら次の工程で使用する鉄板の移動も行っていった。鉄板は14枚が鉄工場内に立てかけられ、そのうちの4枚を移動しようと3名で引きはがしていたところ、14枚全部が倒れ3名の上半身がはさまれた。	521	5	1～ 9
2015	10	9 ～ 10	薄板コイル研磨ラインにおいて、薄板を研磨するバフの回転軸に左腕が巻き込まれている被災者が発見された。	121	7	50 ～ 99
2015	10	14 ～ 15	家庭用物置の製造工程において、被災者が別の作業員と二人一組で、当該物置の壁材を梱包する作業に従事していたところ、途中で自動梱包機(壁材端部を段ボールで梱包する機械)に不具合が発生して機械が停止した。復旧後、一緒に作業していた作業員が当該機械を再起動させたところ、当該機械の可動部分を囲っている内枠と自動梱包機の全体を囲っている外枠柱の間にいた被災者が頭部をはさまれ被災したものの。	169	7	10 ～ 29
2015	7	13 ～ 14	被災者は建築用梁材の補強リブ等を溶接する作業を行っており、片面の溶接が終了し、裏面の溶接を行うため、ホイスト式天井クレーン(4.842t、無線操作)を用いて、梁材を反転させようとしていた(推定)。その際に、作業中の梁材にホイストを近づけようとクレーン操作をしていたところ、被災者の後方から梁材が倒れてきて、作業中の梁材との間に挟まれたもの。	211	7	30 ～ 49
		15	工場で作成したダクトについて、フォークリフトを使用して工場に隣接した倉庫の中2階へ運び、中2階に上がってダクトを整理していたところ、			1～



2015	8	～ 16	約3 m下のコンクリート面へ墜落し、約2時間後に死亡したもの。（推定15時発生を15時40分に発見したもの。）	416	1	9
2015	9	～ 16	被災者は金網マルチスポット溶接機 of 材料搬送装置の修理作業中に、同装置が作動し、同機械に設けられた通路と同装置にはさまれ死亡した。	332	7	1～ 9
2015	5	～ 11	工場において、被災労働者が、鉄筋自動溶接機にて作業を行っていたところ、鉄筋自動溶接機附属の門型の支柱と引張装置に頭部をはさまれ、頭蓋骨骨折により死亡したもの	339	7	10 ～ 29
2015	10	～ 16	被災者は工場内に長さ6 m、重量200 kgの河川設置用柵を6列、自立させて並行に並べ、1列目の壁側に立って塗装作業を始めたところ、何らかの原因により奥側6列目から柵が次々に被災者側へ倒れ始め、被災者は柵と共に床に倒れ、頭部を打ち付けた。同僚らが直ちに救助し病院へ搬送されるも、意識不明になり、8日未明に死亡が確認された。作業時に保護帽の着用はなかったもの。	521	5	1～ 9
2015	10	～ 17	門型クレーンにて鉄骨（約2 t）を移動させていたところ、当該鉄骨が倒れ、その下敷きになったもの。	211	5	10 ～ 29
2015	7	～ 16	天井クレーンのトロリとトロリ線の接触不良のため、修繕しようと建屋梁及び筋かいをよじ上って作業しようとしたところ高さ約4メートル墜落したもの。（推定）	415	1	1～ 9
2015	1	8 ～ 9	鉄骨材13本（総重量約5.5 t）を被災者が玉掛けし、同僚が運転する天井クレーン（定格荷重2.8 t）で吊って運搬していたところ、玉掛けしていたワイヤーロープが切断し、鉄骨材が地面に落下し、その反動で跳ねた鉄骨材が被災者に激突したもの。	372	4	10 ～ 29
2015	6	～ 10	被災者は、橋形クレーン（つり上げ荷重30.404/10.173 t）の補巻でH鋼（692×300重量約2 t）をクランプ2点吊りですり上げ、ショットブラスト装置への搬送用コンベヤーに載せた後、玉掛け用ワ	211	4	10 ～

		11	イヤロープを緩め、クランプを外し、H鋼に沿ってクレーンを走行させていたところ、片側のクランプがH鋼に引っかかり、H鋼の端部が20～30cm浮き上がりコンベヤーから落下し、被災者の腹部に激突したもの。			29
2015	11	13～14	被災者は、沈殿槽に堆積するコンクリートスラッジを取り除くための装置である脱水機のろ布（フィルター）の取替え作業に社長と同僚の3名で従事していた。すぐ隣で別会社の社長と労働者2名が脱水機のくみ上げ用電動ポンプの修理を行っていたが、修理が終了したので試運転のため電動ポンプを動かそうとしたが誤って脱水機を動かしてしまい、脱水機の中に入って作業していた被災者が機械に挟まれ死亡したもの。	169	7	1～9
2015	11	9～10	切削機械で鋼材（L＝2m、φ20mm）の端部を加工中、回転している鋼材に手を出してしまい、その反動で後方に飛ばされ、床面または棚に後頭部を強打したと推定される。一人作業であり、災害を目撃した者はいない。加工する側と反対側の鋼材が折れ曲がって、床面に打ち付けられていたのを不審に思った同僚が近寄ったところ、仰向けで倒れている被災者を発見した。	151	6	30～49
2015	6	16～17	解体したクレーンの鉄屑をガス溶断していたところ、溶断していた鉄板が倒れて、災害当日に死亡したもの。	521	5	30～49
2015	2	14～15	平成27年2月3日、総務部長が長さ112cm、直径112cm、重さ880kgのファーストケーシングの修理を依頼をし、依頼を受けた被災者は、構内で1人修理作業を行っていた。2月4日の午前8時頃、出勤してきた者が被災者の車が駐車場に置いてあることに気づき、構内を確認したところ、ファーストケーシングに胴体を挟まれている被災者を発見したもの。	143	7	1～9
2015	1	1	被災者単独でガス容器（300リットル、φ355.6、長さ5170ミリメートル）の洗浄作業（溶剤（主成分：1-ブロモプロパン）を注入した後、機械設備で回転させた後、同溶剤を抜き取る。）のうち、溶剤抜き取り作業をピット（深さ約5メートル、強制換気未実施。）内で行っていた	514	12	100～

		2	ところ、何らかの原因で意識を失い倒れていたところを発見され、同日病院で死亡が確認されたもの。			299
2015	5	11 ～ 12	被災者一人で、資材ヤードから工場内に10tトラックでH鋼材を運搬するため、資材ヤードに設置している橋形クレーン(5t)を使用して、長さ4mのH鋼材(重量388kg/本)5本を交互に積み重ねた状態でつりチェーンで玉掛けしたものをトラックに積み積む作業を行っていた。11時15分頃、職場の巡視を行っていた工場次長が、荷くずれしたH鋼の脇で頭から血を流し、10tトラック東側に倒れている被災者を見つけた。	372	5	30 ～ 49
2015	2	6 ～ 7	レールを切断する鋸断機のカバーを開けて鋸断機とカバーの間に立っていたところ、鋸断機横の台車(自動運転)が動き出してカバーを押し、鋸断機とカバーの間に全身をはさまれた状態で発見されたもの。	159	7	300 ～ 499
2015	4	13 ～ 14	工場内に積み重ねられた建設用資材(H鋼)(以下「荷」という。)を積み替えるため、クレーン操作者が床上操作式天井クレーン(つり上げ荷重2.8トン)を使用して、仮置き場所に運搬し、地切り状態で荷の周囲の確認を行っていたところ、クレーン操作者と共に荷の積み替え作業をしていた被災者の叫び声が聞こえたため振り向くと、崩れ落ちた荷に胸部及び腹部を挟まれた状態の被災者を見つけたもの。被災者は翌日死亡した。	521	5	1～ 9
2015	10	13 ～ 14	被災者がL型の柱(長さ:4.9m×2m、重量:約1t)の研磨作業をしていたところ、柱が被災者側に倒れてきて、被災者の頭部に激突したものの。柱は、H鋼(横25cm×高さ45cm×長さ1000cm)に二点支持で設置されており、一点には水平にするための枕木を使用していた。	521	5	1～ 9
2015	1	13 ～ 14	レーザー切断機のレールの間で、材料の平板に玉掛けされたハッカーを取り外す作業をしていたところ、後方からレーザー切断機が被災者に向かって走行し、レーザー切断機と平板の間に挟まれたもの	159	7	10 ～ 29
2015	3	14 ～	工場で作成した金属製の扉を現場で取り付けようとしたが、寸法が合わなかったことから一度工場へ戻り、再加工後に再び一人で現場へ戻っていた	921	90	10 ～

		15	ところ、仰臥位で心肺停止となっている状態で通行人に発見された。搬送先の病院で死亡が確認され、死因は心停止。			29
2015	10	7 ～ 8	労働者はフォークリフト（最大荷重3トン）を運転して、倉庫内に製品を搬入した後、倉庫から出るときにシャッターを閉めようとフォークリフトに搭乗したまま体を乗り出して、出入口横にある開閉ボタンを押そうとした。その時にブレーキペダルの踏み込みが完全ではなかったため、労働者が体を乗り出したままフォークリフトが前進し、シャッター前の衝突防止用ポールとフォークリフト左後部にはさまれ死亡した。	222	7	100 ～ 299
2014	3	6 ～ 7	被災者は、ワイヤーの撚り機の先端部にて、ワイヤーロープの芯線を交換する作業を行っていた。災害発生状況を現認した者はいないが、手を撚り機の先端部の回転軸に巻き込まれているところを発見された。この撚り機には通常は覆いが設けられているが、当該作業時にはこの覆いは開けられていた。	121	7	100 ～ 299
2014	1	13 ～ 14	鉄骨に番号札を取り付ける作業を行っていた被災者は、作業中に頭部を打撲し、脳挫傷等により死亡した。	416	2	1～ 9
2014	2	7 ～ 8	アルミニウムと不純物を焼成分別するロータリーキルンの点検後、被災者は、ベアリングにグリスアップする作業を開始した。同僚が異音に気付いて見に行ったところ、左腕をキルンとキルンを回転させるためのローラーとの間に挟まれ、頭部から左肩にかけてキルンに押し付けられた状態の被災者を発見した。	341	7	1～ 9
2014	2	6 ～ 7	被災者は、建築資材等に用いる鋼管を製造する工場内の、帯鋼をローラーで丸め溶接し鋼管に加工するラインにて、製品に線状の傷が入っていることに気づき、原因を確認するためラインの中に入ったところ、加工用のローラーに動力を伝えるシャフトに衣服ごと巻き込まれ死亡した。	159	7	100 ～ 299
2014	2	17 ～	被災者は、業務終了後事業場ヘトラックを運転して帰社途中、トンネル内で走行車線を走行していた際、走行車線の前方を走行していた大型トラックに追突し被災した。追突時、大型トラックの荷台に積まれていた鉄骨	221	17	10 ～

		18	(荷台から1メートル程はみ出していた)が左胸に激突し、折れた肋骨が肺に刺さり死亡した。			29
2014	3	15 ～ 16	6尺旋盤の清掃作業をしていたところ、稼働中の機械に片腕を巻き込まれ、病院へ搬送されたが、死亡した。	151	7	1～ 9
2014	5	15 ～ 16	コイルの検品作業中、被災者がクラブトロリ式天井クレーンにてコイルをつり上げ、アンコイラーのセグメントに取り付ける作業を行っていたところ、玉掛用ワイヤロープが切れ、アンコイラーに取り付けようとしていたコイルが落下し、被災者の足の膝下がコイルと床に挟まれた。	372	4	50 ～ 99
2014	5	16 ～ 17	研磨用の産業用ロボットの作業数を数える装置(カウンター)の取付け中、カウンターと産業用ロボットのコントローラをコネクター(電線)をはんだ付けにより接続後、コントローラーの主電源を入れた際、コントローラーの後ろ側から火花が走り、消火砂をかけたところ、火が広がり、爆発した。	391	14	30 ～ 49
2014	5	10 ～ 11	床上操作式天井クレーンを使用し、ショットブラスト装置の搬出側ローラー架台上の鋼材をつり上げ、横転させようとした際、玉掛けをしていたクランプが外れ、鋼材とローラー架台との間に胸部を挟まれた。	372	7	10 ～ 29
2014	5	12 ～ 13	長時間の時間外労働により、昼休憩中に突然倒れ、死亡した。	921	90	100 ～ 299
2014	5	9 ～ 10	鉄骨を橋形クレーンで移動させ、接地させた際、鉄骨が倒れ、運転していた被災者は、隣にあった別の鉄骨との間に挟まれた。	521	5	10 ～ 29
2014	8	13 ～ 14	貨物自動車の荷台から転落し、荷台上から落下した梁の下敷きになった。	221	1	50 ～ 99
		11	加熱用電気炉内の電線補修作業中、熱中症により、炉の中扉にもたれかか			1～

2014	9	～ 12	り、意識の失った状態の被災者が発見された。	715	11	9
2014	9	7 ～ 8	橋形クレーンが設置された資材置き場内にて、結束された鉄筋の束の下敷きになり、俯せの状態で見えているところを、同僚に発見された。	211	4	10 ～ 29
2014	10	8 ～ 9	金属棒素材から円柱形状の加工物を旋盤で削り出す作業を行っていたところ、回転中の加工物に作業着の袖（肩付近）が巻き込まれ、作業服により頸部を圧迫され、窒息死した。	151	7	10 ～ 29
2014	10	8 ～ 9	加工を終えたH型鋼を5段積み上げたところ、最上部の鋼材が床面に落下し、別の鋼材を移動させる作業を行っていた被災者の背中から頭部に当たった。	521	4	10 ～ 29
2014	10	13 ～ 14	フォークリフト作業中、フォークの油圧パイプがマストにからまる不具合でフォークが降下しなくなったため、被災者がフォーク下に入り、フォークの油圧パイプ部の修理を行ったところ、油圧パイプ部が破損し、フォークが急降下し、被災者がフォークの下敷きになった。	222	7	10 ～ 29
2014	12	16 ～ 17	L字型鋼材2本を電動台車で運搬していた際、鋼材が工場柱に固定されていた半自動溶接のアームに当たり、横倒しになりかけた際、鋼材が横倒しになり、被災者が鋼材に激突された。	223	6	50 ～ 99
2014	12	11 ～ 12	被災者が、天井クレーンを操作し、仮溶接した鉄骨製の柱を吊り上げ、移動させようとしていたところ、柱の中央側面にあった突起部分が被災者の胸部に激突し、死亡した。	211	6	10 ～ 29
2014	12	19 ～ 20	被災者が製品搬送用トラックの誘導をしていたところ、トラックの後方で倒れていた被災者が発見された。	221	6	1～ 9
2013	11	11 ～	会社の作業ヤードにて、4名で鉄板の加工作業を行っていた際、作業場が狭くなったことから、移動テントを動かすため、被災者はこれを固定していたチェーンブロックをはずす作業を行っていたところ、運転手がホイ	211	7	1～ 9

		12	ト式橋型クレーン（吊り上げ荷重2.8T）を走行させたため、クレーンの脚部とテントの建地の部材の間に挟まれ、死亡した。			
2013	3	9 ～ 10	工場内で一斗缶に廃材を入れて暖を取るため、被災者がシンナーを注いだところ、体に燃え移り全身火傷となった。	512	16	1～ 9
2013	7	10 ～ 11	被災者は、フォークリフトを運転し、切断機用の電源を運び出すため、鉄構工場に向っていた。鉄構工場の床は約0.58m高いため、フォークリフトが上がるためのスロープ（勾配約8度）があった。被災者は、スロープを上ったが、旋回半径内に製品が置いてあったため、それを避けようとした運転操作をした際、スロープ近くの段差から転落した。	222	1	100 ～ 299
2013	6	10 ～ 11	工場内の岸壁付近に設置したクローラクレーンを使用し、木製パレットに鉄板約10枚（1枚の重さ20～50kgの鉄板を積み重ねた状態）等を載せた荷を、岸壁に接岸していた貨物船の船倉に降ろすため巻下しの作業を行っている際、木製パレットに載せてあった鉄板が落下し、合図を行っていた被災者に当たった。	212	4	30 ～ 49
2013	3	16 ～ 17	被災者が1人で、2段に積み上げられたH鋼（高さ80センチメートル、幅30センチメートル、長さ8メートル90センチメートル）の傍らで、グラインダで研磨作業を行っていた際、H鋼が崩れ下敷きとなって死亡した。	521	4	1～ 9
2013	3	17 ～ 18	工場内にて、被災者は「レベラー（金属板の歪み取り機）」のローラーの洗浄（ウェスでローラーに付着している鉄粉等の拭取り）作業中、ローラーに右手から右肩までを巻き込まれた。	159	7	10 ～ 29
2013	7	13 ～ 14	工場内で、鉄骨加工作業をしている際、H鋼の柱材を天井クレーンで移動しようとして、横に置いてあったH鋼と天井クレーンで吊ったH鋼に胸部を挟まれた。	211	7	1～ 9
2013	9	15 ～	工場内において、被災者ほか1名は共同してホイスト式天井クレーン（定格荷重5t）2基を運転し、共吊りにより角型鋼管（建築資材用）2本をハッカーで玉掛けを行い移動させた。被災者は、吊り荷（地上から約1.	372	4	1～

		16	7 m) の下に入り、枕木として使う栈木を拾っていたところ、吊り荷が落下し下敷きになった。			9
2013	6	7 ～ 8	被災者は、鋳物製品（ポンプのケーシング直径35cm・自重18.7kg）のバリ取りのため、卓上グラインダーを用い研磨作業を行っていたところ、砥石が割れ、その破片が被災者の胸部に当たった。	153	4	1～ 9
2013	11	12 ～ 13	20トン天井クレーンを用いて、積み重ねた鋼板5枚（約5トン）の上に置き、玉外しを行ったところ、降ろしたに鋼板とともに積み荷（鋼板約14枚）が崩れ、玉外しのために側にいた労働者2名が、崩れてきた荷と隣にあった荷（積み重ねられた鋼板）に挟まれた。	521	5	50 ～ 99
2013	11	12 ～ 13	20トン天井クレーンを用いて、積み重ねた鋼板5枚（約5トン）の上に置き、玉外しを行ったところ、降ろしたに鋼板とともに積み荷（鋼板約14枚）が崩れ、玉外しのために側にいた労働者2名が、崩れてきた荷と隣にあった荷（積み重ねられた鋼板）に挟まれた。	521	5	50 ～ 99
2013	7	17 ～ 18	仕事を終え帰宅途中、会社の近くで倒れている被災者を通行人が発見、救急搬送されたが、熱中症により死亡した。	715	11	30 ～ 49
2013	6	11 ～ 12	被災者（工場長）を含めて数名で、工場外壁と周辺にある草、蔓を除去していた。作業後、被災者は、工場のスレート屋根を踏み抜いて墜落した。尚、被災者が、スレート屋根に上った理由は不明であるが、以前からスレート屋根からは雨漏りが発生していた。また、工場の外側には、移動式のはしごが立て掛けられていた。	415	1	10 ～ 29
2013	12	11 ～ 12	被災者は、焼鈍炉の補修作業を行うために炉内に入った。その後、炉の入口より約18メートルの地点において、台車の上で熱中症により倒れている被災者が発見された。	715	11	300 ～ 499
2013	3	10 ～	被災者は、工場出荷場所において、台車に乗ったH鋼上に盤木を設置し、天井クレーン（定格荷重5t）で鉄骨梁製品H鋼（長さ7.3m、重量約1.4t）を吊上げその上に設置する作業を行った後、吊り具のハッカー	211	4	1～



		11	を外す作業を行っていた。その際、ハッカーが完全に外れていない状態でクレーンを被災者側の方向に操作したため、当該H鋼が落下して被災者の胸部に激突した。			9
2013	5	8 ～ 9	両頭側面フライス盤による金型プレートの切削加工を行っていたところ、同フライス盤端のフレーム部分と可動中の主軸に挟まれ、窒息死した。	152	7	10 ～ 29
2013	7	15 ～ 16	橋形クレーンを用いてH鋼を荷降ろしをしていたところ、2段重ねに仮置きされたH鋼が、被災者の胸部に崩れ落ち下敷きとなった。	521	5	30 ～ 49
2013	10	11 ～ 12	天井クレーンで吊られたリフティングマグネットを用い、金属スクラップを移動させていたところ、スクラップの一部が被災者の頭部に落下したとも推測される。尚、現認者はいない。	372	4	30 ～ 49
2013	5	15 ～ 16	トラックからの荷卸し作業を行うため、フォークリフトを移動させ敷地内の通路を走行中、通路の端に寄りすぎたためフォークリフトの車輪が15センチ下の田に落ち、フォークリフトが転倒し、被災者が地面とフォークリフトの間に挟まれた。	222	2	10 ～ 29
2013	7	14 ～ 15	被災者は、テーブルの上に乗せた鉄骨部材を携帯用研削盤で研磨していたところ、研削箇所から2m離れた場所に置いてあった引火性物質のシンナー缶（蒸気の漏れ等を防ぐため缶上部にシートを被せてある）に火花が入り缶内が燃えたため、缶を持って建屋出入口付近に缶を移動させたところ、突如火柱が上がり炎が服に着火し、全身火傷により死亡した。	512	16	10 ～ 29
2013	3	9 ～ 10	国道交差点で、製品の運搬のため、高岡市方向へ走行していた被災者運転の1.2トントラックが、信号待ちをしていた大型タンクローリー車に追突。病院に搬送されたが、死亡した。	221	17	50 ～ 99
2013	12	8 ～ 9	屋外作業場において、4.8tホイスト式橋形クレーンを用い、山留め鋼材を所定の置き場に運搬し玉外した後、ホイストを横行させたところ、予め積み上げられた山留め鋼材（高さ約3.5m）の上部に鍵手状の玉掛用具が接触し、山留め鋼材1本（1.1t）が落下、高さ約1mの鋼材上に	521	4	1～ 9

			いた被災者の頭部を直撃した。			
2013	7	19 ~ 20	工場内において、片脚橋型クレーン（つり上げ荷重2.8t）を使用し、架台（重量約600kg）をつり上げて移動中、つりクランプが同架台から外れ、荷の下でかがんでH鋼の溶接作業を行っていた被災者に落下した。尚、つりクランプは横つり用クランプを使用し、2点つりをしてい	372	4	10 ~ 29
2013	10	18 ~ 19	屋内の脱脂室で、被災者は、雨どい金具が入ったコンテナを手動式の三槽式洗浄装置で脱脂洗浄作業中、クレーンを使用しコンテナを蒸気洗浄槽に入れる際、コンテナがクレーンフックから外れ蒸気洗浄槽に落下した。フックをかけなおそうと当該装置内に立ち上がったところ、粗洗槽に転落し、ジクロルメタンを全身に浴び化学熱傷により死亡した。	514	12	30 ~ 49
2013	5	10 ~ 11	屋外作業場において、被災者単独で建築用鋼材（約730kg）をホイスト式天井クレーンでつり上げ、出荷するための所定場所に積み上げる作業を行っていたところ、1.8メートルの高さの上に積み上げた鋼材が落下し、被災者が鋼材の下敷きとなった。	521	4	1~ 9
2013	3	9 ~ 10	被災者は、横中ぐり盤（NC機械）を使用して搬送機の金属部品の加工作業を行っていた。部品の加工寸法の採寸をしていた際、被災者の衣類が当該機械のバイトに巻き込まれ、被災者の声を聞いて近くで作業していた労働者が非常停止ボタンを押したが、既に左腕及び両足ひざ下中央付近から巻き込まれていた。	159	7	10 ~ 29
2013	12	12 ~ 13	被災者は、旋盤を使用して自動車部品工作機械の部品の表面処理加工をしていたところ、身体の一部が巻き込まれ、当該機械に強打した。	151	7	10 ~ 29
2013	2	16 ~ 17	被災者は、ゴミ箱に飲料水の空きボトルを捨てようとしたところ、レールに沿って自動で移動するNCガス穴開機の接近に気づかず、NC穴開機付属の制御盤と、ゴミ箱の隣に設置されていた消火器ケース（木製）との間に体を挟まれた。	159	7	100 ~ 299

2013	7	16 ～ 17	被災者は、空輸された部品を取りに行くため、会社所有の軽トラックを運 転し、県道を走行中、対向車線に進入し、対向車線を走行していたワゴン 車と正面衝突した。	221	17	～  299
2012	9	15 ～ 16	ベルトコンベアの架台の側面（鉄骨製高さ2.6m、長さ9.3m）を解体する作 業中、この側面が倒壊し、その下敷きとなり死亡した。なお、被災者は、 ベルトコンベア架台の端の上部をガス切断機により切断作業を行っていた ところ、側面がぐらついたことにより飛び降りた。そこへ側面が倒れ、下 にあった別の鋼材と倒れてきた側面の鋼材に挟まれた。	419	5	1～ 9
2012	9	8 ～ 9	自動溶接機械のスチール棒溶接箇所に入り作業をしていたところ、スチー ル棒引き込み装置に挟まれ被災した。	339	7	10 ～ 29
2012	11	3 ～ 4	LPGタンク内部の手直し作業が終了し、外に出るため内部階段を上がって いたところ、資材搬入等のために一部床（グレーチング）を取り外した状 態の踊り場の開口部から、約10m下のタンク底部に墜落した。	413	1	～  299
2012	8	11 ～ 12	製品（クレーンのサドル部品：600～700kg）を2.8tホイストクレー ンで反転させようとしたところ、自分の背中に製品が激突した。	211	6	1～ 9
2012	2	10 ～ 11	工場内で作業中の作業者が「ドーン」という音を聞き、工場入口のシャッ ターの外を見たところ、屋外の管台（製作した配管の置き台）の間の通路 に、帯状に炎が上がるのが見え、少し離れた場所で服の火を消そうとする 被災者の姿が見えた。帯状の火の一方の端にゴミを燃やしたペール缶があ り、反対側の端付近にシンナーの一斗缶が、上ふたが外れた状態で転がっ ていた。	512	11	1～ 9
2012	8	15 ～ 16	被災者はタンク（重量約0.8t）のマンホールを上にして架台上に設置（ア ングルで固定）し、単独でショットブラストにより表面処理を行っていた ところ、他の作業者にタンクのマンホールと架台の間に挟まれている状態 で発見され、救急搬送先の病院で死亡した。	521	5	10 ～ 29
			工場敷地内において、労働者単独で、加工前の金属製材料の入ったケース			

2012	11	5 ～ 6	約50個（1ケース重量約15kg）を積んだカゴ台車を、倉庫から工場建屋内に運搬する作業を行っていたところ、カゴ台車と工場外周の金網フェンスとの間に体を挟まれた。	362	7	30 ～ 49
2012	7	7 ～ 8	被災者が出勤してこないため、社員宿舎に上司が様子を見に行ったところ、被災者が居室のドアノブに洗濯ロープを掛けた状態で縊死していた。	921	90	50 ～ 99
2012	2	11 ～ 12	ポンプの金属部品（重量1.4 t）を溶接加工していた際、仮止めしていた溶接箇所が外れて当該部品が落下し、被災者が下敷きとなり死亡した。	521	4	10 ～ 29
2012	5	12 ～ 13	工場内の水銀灯交換のため、フォークリフトにパレットを13枚を重ね、その上に被災者が乗ってマストを上げ電球の交換作業をしていたところ、被災者がパレットから、約7m転落した。	222	1	30 ～ 49
2012	7	8 ～ 9	取引先へ商品を納入するため高速道路を走行中、ガードレールに激突し死亡した。	221	17	1～ 9
2012	9	8 ～ 9	作業開始直後の1個目の製品を加工する時は、計測作業のために安全柵の中に入る必要があり、災害発生時、産業ロボットのサイクル停止操作を行い、定位置で停止させてから安全柵の入口に設置している安全プラグを抜き、2重の停止操作を行ってから安全柵の中に入って計測作業をしていた。この際、原因は不明であるが、産業ロボットが動き出し製品と産業用ロボットのアームとの間に胸部が挟まれた。	167	7	50 ～ 99
2012	11	17 ～ 18	製品置き場において、作業員が3段に積み重ねた金属製の空箱（高さ約1.5m）を所定場所まで人力で移動させていたところ急に傾き、隣にあった網籠（高さ約3.5m）に3段目の空箱の角の一部が引っかかってしまった。作業員単独で引っかかりを外すため空箱をゆすっていたところ、網籠が3段目から崩れ、補助に来た被災者に激突した。	611	5	50 ～ 99
			被災者は加工物を自動投入するショットブラストの作業を行っていた際、			

2012	3	8 ～ 9	同機械の稼働中にその投入口前まで入ったところ、自動運転中の投入用バケットと、投入口のフレームに胸部を挟まれ死亡した。なお、当該機械の立ち入りについては、開けると停止する扉が設置されていたが、災害発生時は同安全装置がテープで留められており機能しなかった。	159	7	1～ 9
2012	3	19 ～ 20	被災者はアルミ製品を洗浄する水槽（深さ約7m）の底に落ちたホースの部品を取るため、縄ばしごを使用して降りる途中、縄ばしごの先端のフックを取り付けていた枠受け台の溶接部分が破断し、縄ばしごとともに約5m下の地面に墜落した。	371	1	100 ～ 299
2012	7	21 ～ 22	被災者は、被災前日から当事業場に派遣されていたが、被災当日、帰宅時に会社駐輪場でバイクの下敷きになって倒れているところを発見された。	715	11	50 ～ 99
2012	1	10 ～ 11	被災者はコンベアと当該コンベアの上方に設置されたモーター架台との間に挟まれ、そのままその隙間をコンベアで運搬され、コンベアの折り返しとなる排出口付近でうずくまるような形で発見された。	224	7	10 ～ 29
2012	7	9 ～ 10	被災者は鉄板を延ばして巻き取る作業にて、鉄板に付いた付着物の除去のため、鉄板を延ばす機械に近づいたところ、鉄板を機械へ送るローラーに巻き込まれた。	159	7	50 ～ 99
2012	8	16 ～ 17	被災者はショットブラストで鋼材を研磨加工をしていたところ、積み重ねていたH型钢材（長さ約3m、重さ約300kg）が崩れ、この下敷きとなって死亡した。	521	5	10 ～ 29
2012	9	16 ～ 17	被災者はH鋼を別の建屋へ運搬する作業を進めていた。H鋼1本の重量は約200kgで、凹凸部をかみ合わせて10本1組で積み上げられていたが、これら10本のH鋼が崩壊し、これとは別に積み上げられて壁のようになっていた鋼材との間に、被災者が胸から顎にかけて挟まれた。	211	5	1～ 9
2012	12	12 ～ 13	被災者は旋盤を用いて鋼棒を切削加工する作業を行っていたところ、何らかの拍子に着用していた上着が加工中の製品に巻きついた。同僚が巻き込まれている被災者を見出し、病院に搬送するも頸椎圧迫により死亡した。	151	7	1～ 9

2012	6	18 ～ 19	翌週の作業の準備終了後、被災者は製品置き場にあった金属製ラックにぶら下がったところ、ラックが倒れ、その下敷きとなって死亡した。	521	5	30 ～ 49
2012	12	15 ～ 16	被災者は工場内において、金属製部品をシャックル及びフック付ワイヤーロープ、アイボルトで玉掛けし、天井クレーンで高さ約2mにつり上げた状態で塗装（上塗り）の下準備のヤスリ掛けを行っていたところ、片側のアイボルトが外れたため当該部品が落下し、その下敷きになり死亡した。	372	4	1～ 9
2012	8	16 ～ 17	被災者は事業場内で手持ち式のグラインダー（ベビーサンダー）を使用し、鉄パイプの研磨作業を行っていたが、誤って感電し、救急搬送先の病院で死亡した。	153	13	10 ～ 29
2011	2	9 ～ 10	被災者がフランジ付配管（長さ2.5m、外径47cm、重量474kg）を床上操作式天井クレーン（定格荷重2.8t）を運転して、トラックに積み込み作業中、つり上げていた配管がずり落ち、被災者の頭部に激突したものの。	211	6	10 ～ 29
2011	8	14 ～ 15	プレス機械に金型をセットするため、フォークリフトにて敷台を移動中、横に置いてあった治具（円筒形芯金：長さ2m、直径0.25m）に敷台の先端部分が接触し、これが動き、プレス機械の横に居た被災者の足に当たった。両足骨折にて療養中のところ、9月4日、容体急変し、死亡した。司法解剖によると、死因は足にできた血栓が肺に詰まったことによる肺塞栓症とされた。	222	6	30 ～ 49
2011	11	21 ～ 22	3名で翌日配送する鉄筋4束（9トン）を13トン積みトラックに積み込み、被災者は、2人を帰して、荷の積み込み状態の確認作業を行っていた。翌日出勤してきた労働者が、トラック横の地面で仰向けに倒れていた被災者を発見した。	221	1	10 ～ 29
2011	4	10 ～ 11	生コンプラントにおいて、ミキサー内部に付着したコンクリートをミキサー開口部側から削岩機を使用して除去する作業を行っていたところ、ミキサーの開口部が上昇しないよう固定していた木製ストッパーが折れ、その反動でミキサー開口部が上昇して、ミキサーと投入ホッパーの間に顔面	162	7	1～ 9

			をはさまれ、出血性ショックにより死亡したもの。			
2011	8	8 ～ 9	工場内で被災者が、建屋の鉄骨に立てかけてあった製作中の歩廊（長さ5.4m・幅2.3m・厚さ0.2m・重さ約1t）を天井クレーン（定格荷重2.8t）で塗装場所に移動させるため、同僚の指示でクレーンのフックにワイヤーロープを掛けようと歩廊に足をかけて上ろうとしたところ、歩廊が倒れ、胸付近より下部が下敷きとなった。また頭部も地面で強打し、心臓破裂・脳挫傷により死亡した。被災者は保護帽未着用。	521	5	1～ 9
2011	10	13 ～ 14	トラックで搬入されてきた材料（約2t）の荷を倉庫へ運搬するため、被災者はリーチフォークリフト（最大荷重1.57t）でトラック荷台上の荷をフォークに積み、後方へ下がってフォークを下に下げたところ、後輪が浮き上がって前方に傾いた。被災者は後方に飛び降りたが、フォークが地面に激突し、その後荷がフォークから外れて車体が元に戻ったため、被災者は車体の下敷きとなり死亡した。	222	7	100 ～ 299
2011	3	10 ～ 11	当該工場内でトレーラーから角鋼（長さ12メートル、重量1500キログラム）の荷卸しを行っていた際、2台の天井クレーンで共づりをしていた片側のつり具（ハッカー）が何らかの原因により外れ、運転者が角鋼の下敷きになり死亡したもの。	211	4	10 ～ 29
2011	3	10 ～ 11	被災者が単独作業にて天井クレーン（定格荷重2.8トン）を用いて玉掛作業中、荷の鋼板（幅1メートル、長さ2メートル、厚さ4.5ミリメートルの鋼板31枚の束、総重量約2トン）をハッカーにてつり上げた際、荷が滑り、被災者が滑った荷と隣接して積み上げられていた鋼板との間に腹部を挟まれたもの。	372	4	10 ～ 29
2011	3	13 ～ 14	鋼製コイルを裁断するため、切断機に鋼製コイルをセットする段取りをしていたところ、当該コイルは3束で梱包されているため、開梱したところ2束が倒れ（1束355kg）、下敷きになったもの。	611	5	10 ～ 29
2011	7	15 ～ 16	工場内にて検収台製作中、はしごの途中2m程から足を踏み外し転落した。災害発生以後意識はあったが、8月19日に容態が急変し死亡した。	371	1	10 ～ 29

2011	9	15 ～ 16	旋盤を使用して金属の切削加工の作業を行っていた。加工材は円筒形のステンレス材で、直径14センチ、長さ405センチ、重さ約250kgのものを毎分126回転させ、直径を13センチまで切削加工する作業中に旋盤と加工材との間に巻き込まれ、入院加療中であったが10月6日に死亡したもの。	151	7	10 ～ 29
2011	12	不明	2tトラックで自社製品を納品するため取引先工場に早朝5時45分頃到着し、7時20分から始まる荷卸しまでの間に一人で荷解き作業を行っていた被災者が、積荷の固縛ロープを外そうとして誤って荷台から転落し、頭部を強打した。被災者はそのまま作業を継続して荷卸し完了し、9時には取引先を出発したが、11時半以降連絡が途絶え、20時に取引先から50m程先の路上に停車したトラックの運転席から遺体で発見された。	221	1	
2011	12	10 ～ 11	天井クレーンでH型鋼材を移動させ、クランプを外してフックを巻き上げたところ、クランプがH型鋼材に引っ掛かりH型鋼材が倒れ、隣の同種鋼材との間に胸部を挟まれた。	211	5	10 ～ 29
2011	6	10 ～ 11	工場内で鋼管製の橋脚の製造を行っていた被災者が、外径110cm、長さ82cm重さ約1tの鋼管をH鋼に車輪を上向きに2カ所取り付け付けた設置台2本を並べた上にクレーンで横向きに載せ、周溶接を行うための裏当て金を取り付けていたところ（推定）、当該鋼管が設置台からずれ落ち半回転する形で倒れたため、鋼管の内面にドーナッツ型に取り付けられていたスチフナー等に上半身を挟まれた。	521	5	1～ 9
2011	8	9 ～ 10	被災者は半自動抵抗溶接機にて鉄筋を格子状にスポット溶接する作業を行っていた。足下のフットスイッチにより起動させた後、溶接の状況を確認するために機械の稼働範囲内に入ったところ、溶接した鉄筋を引き出すための金属製アームと溶接機の間で挟まれたもの。フットスイッチを踏むとすぐに鉄筋の溶接は行われるが、アームが動き出すまでには2秒かかる。	339	7	10 ～ 29
			被災者は、架台にH型鋼（25×100×480センチ、重量約2トン）をその短辺を下にして並べた状態で、防錆塗料の塗装作業を行っていた。			



2011	11	10 ～ 11	被災者が天井クレーン（つり上げ荷重2.8トン）を操作した際に、フックに取り付けられていた吊りクランプがH型鋼に引っ掛かったため倒れ、隣のH型鋼との間で胸部を圧迫されたもの。直ちに病院に搬送され療養中であったが、1週間後に死亡した。	211	5	1～ 9
2011	8	15 ～ 16	会社敷地内において、被災者は一人で塗装作業が終わった耐震用外壁材（362センチ×200センチ×2センチ+補強材 重量1.5～1.8t）をホイスト式橋形クレーン（無線操作式 つり上げ荷重5t）を使用して移動させていた。16:00頃、被災者が作業を行っていた場所から大きな音がしたため、同僚が駆けつけたところ、耐震用外壁材の下敷きになった被災者を発見した。	372	4	1～ 9
2011	11	9 ～ 10	建材の塗装の前処理を行う作業場において、洗浄槽のメンテナンスのため、洗浄槽の内部に入り、噴射ノズルを外す作業を行っていた被災者が、洗浄槽から出ていく際にリフトとカウンターウエイトの間に挟まれ胸部を圧迫された結果死亡したものの。	169	7	50 ～ 99
2011	9	2 ～ 3	大型トレーラーに廃棄自動車（プレス済）を積載し、市内の国道を走行中、左コーナーを曲り切れず横転、多発外傷により死亡したものである。	229	17	30 ～ 49
2011	6	10 ～ 11	被災者所属事業場から町内に在る取引先に社用車を運転し向かう途中、道路の合流地点において、ガードレールに接触しそのはずみで対向車線に飛び出した。この際、反対車線を走行していたトレーラーに正面衝突しトレーラー運転手は負傷、被災者は死亡したものの。	231	17	100 ～ 299
2011	3	13 ～ 14	（092）天井クレーン（つり上げ荷重4.87t）で荷（「コンポデッキ」約400kg）をつり上げ、ハッカーによる1点吊りの状態で荷を移動中、荷がハッカーから外れ落下し、被災者に激突した。	372	4	1～ 9
2011	4	11 ～ 12	作業架台を解体作業において、作業開始時、架台の脚部に掛けていた倒壊防止用の玉掛け用布ロープを外した状態で架台の天板を確認していたところ、架台が作業側側に倒れ、腰を挟まれ内臓破裂により死亡した。	521	5	1～ 9

2011	6	14 ～ 15	被災者は2トントラックで、自社からタンク架台を工場内に運搬した。架台をフォークリフトでつり上げて降ろすため、労働者がフォークリフトをトラックの荷台に寄せて、荷台によじ登りフォークに繊維ベルトを掛けてシャックルで固定していたところ、シャックルを地面に落した。被災者がトラック荷台から降りてシャックルを拾おうとしたとき、架台が倒れて被災者の顔面を直撃した。	611	5	10 ～ 29
2011	7	17 ～ 18	被災者は、災害発生時、プレス機で空き缶をつぶす作業に従事していたが、空き缶をプレス機に投入するために使用していたフォークリフトのマストとプレス機の壁の間に挟まれて死亡していたものである。	222	7	1～ 9
2011	4	15 ～ 16	カーポート新築工事の着工時期が近づいた3月に東日本大震災が発生したため材料の入荷がストップし、会社としてこの工事の施工を断る連絡をした。しかし、この工事を担当していた被災者は施工要請を断り切れず、事業主にも話せないまま水面下で施工の話を継続していて、施工日当日の朝に失踪し、後日、自殺（縊死）しているのが発見された。	921	90	
2011	10	15 ～ 16	被災者は、午前中は工場内で鉄材の錆び取り等の軽作業を行い、午後からは同工場内で製作されたバイオディーゼル燃料タンク5台（内容量1.9KL）を塗装するため、屋外の塗装場に搬送する作業に従事していた。2台目の搬送作業中に午後3時の休憩時間（15分）となった。午後3時8分頃、搬送作業中のタンクの傍らで倒れているのを通りかかった同僚が発見したもの。災害時の目撃者はいない。	417	2	10 ～ 29
2010	12	14 ～ 15	1000tプレス（鍛造プレス）の上部を清掃するためフォークリフトのアタッチメント（鍛造品をはさむクランプ）の上に乗リアタッチメントを上昇中、フォークリフトの運転手がアクセルを踏み込んだ際、フォークリフトが前進し、テルハのレール（1ビーム）とフォークリフトのバックレストとの間に腰部分がはさまれた。	222	7	30 ～ 49
2010	12	11 ～ 12	被災者は、上司2名と関係数社に年末の挨拶にまわっている途中、道路沿いの歩道を歩いていたところ転倒した。転倒の際に顔面と頭部を強打し、病院へ搬送されたが、頭部の負傷により約1週間後に死亡した。	417	2	100 ～ 299

2010	12	9 ～ 10	被災者は、工場内において、天井クレーンで塗装作業用の作業台を吊っていた。作業台を所定の位置に設置後、作業台のバランスが崩れ、作業台が被災者に激突し、死亡したもの。	911	6	30 ～ 49
2010	12	21 ～ 22	トンネルに使用する鋼製セグメントを製造する工程において、塗装する前に鉄筋を結束する場所で、橋形クレーン（つり上げ荷重5 t）によりセグメントをつり上げて、3個のセグメントを縦に並べて、4つ目のセグメントを縦に置いたところ、転倒防止のために支えにしていた鉄筋の強度が不足していたため、当該セグメントが倒れかかり、隣のセグメントに接触し、将棋倒しになった。1つ目と2つ目のセグメントの間で、溶接部のカスを取り除いていた被災者が下敷きになった。クレーン操作者は無資格であった。	211	5	1～ 9
2010	12	13 ～ 14	鋼線を酸洗いする工程において作業中、高さ80 cmの転落防止柵はあったがこれを越えて作業し、硝酸亜鉛、磷酸亜鉛を主成分とする酸（Ph 1、温度80℃）の入った深さ1.6 mの槽に頭から転落した。救出時、他の作業員1名が手を負傷した。	391	11	300 ～
2010	11	10 ～ 11	自社工場内において、被災者は、H鋼（120 cm×117 cm×25 cm、重さ約230 kg）に、最大使用荷重500 kgのつりクランプ2個を用いて玉掛けし、天井クレーン（2.8 t）にて溶接作業場所まで移動させる際、H鋼を立ててクランプのかけ替え作業を行っていた時に、H鋼のバランスが崩れて当該H鋼とともに倒れ、被災者がその下敷きになったもの。	521	5	30 ～ 49
2010	11	9 ～ 10	機械工の被災者が1人作業で、重さ約400 kgの円形の鋼材（名称：外輪）を切削加工機械で切削加工をするために、30 tのクレーンで吊り上げて、外輪を固定するための金具（2箇所）に外輪を仮置きして、クレーンのフックからワイヤーを外したところ、外輪が倒れかかり、被災者が外輪の下敷きとなり死亡した。	521	5	1～ 9
		16	製品をトラック（最大積載量4 t）で取引先に納入し、事業場に帰社する途中、広域農道を走行していたところ、対向車（大型ダンプ）と衝突し、			10

2010	10	～	その弾みで進行方向右側の民家のブロック塀に更に衝突して、運転していた被災者が全身打撲で死亡した。また、大型ダンプの運転手が右足を骨折した。	221	17	～	29	
2010	9	～	被災者は、発注者の工場建屋内で倒れているところを発見され、医療機関に搬送されたが意識不明のまま6日後に死亡した。被災者は送気フードを着用して塗装作業を行おうとしていたものであったが、送気フードのエアースーツが溶接作業時に使用するアルゴンガスの配管に接続されていたためアルゴンガスを吸引し窒息したものと推定される。自動溶接のシール用アルゴンガスのレシーバータンクに送気フード用エアースーツ用のホースを接続することができた。	379	12	1～	9	
2010	9	～	親事業場と構内下請事業場の労働者が混在作業をしている建屋内において、親事業場の労働者が天井クレーン（床上操作式、定格2.8t）を操作したところ、同一ランウェイ上にあるもう1台の天井クレーンの位置を確認していなかったため、同クレーンに接触した。この際、接触された側のクレーンに吊られていた荷（重量約1.7t）が当該荷のそばで溶接作業をしていた被災者（構内下請事業場所属）に激突した。被災者は部材の突起部に顔面が突き刺さり、死亡した。	211	6	1～	9	
2010	9	～	工場内において、天井クレーンのランウェイ付近で作業用通路の設置工事の下見作業を行っていたところ、天井クレーンが被災者に気付かず走行してきたため、天井クレーンのガーダと建屋の柱に挟まれ死亡した。被災者が天井クレーンオペレーターに立入りすることを連絡していなかった。	211	7	10	～	29
2010	8	～	工場のスレート屋根に設置されていた換気用ファン用のモーター取替作業を行っていた被災者が、地上から7.8m上のスレート屋根を踏み抜き、地上に墜落したため、死亡した。歩み板や防網等の危険防止措置が講じられていなかった。	415	1	30	～	49
			コンテナ修理作業場所の移転準備として、新規作業場所を表示するための白線を引く作業（被災者を含め2名がロープの端をそれぞれ持ち直線を出					

2010	8	9 ～ 10	し、これを目安に労働者1名がチョークにより地面（アスファルト）に線引きする）を行っていたところ、隣接する位置にあった空コンテナを移動させようとした他事業場労働者が運転するスプレッド付きフォークリフト（最大荷重7 t）にはねられたもの。	222	6	10 ～ 29
2010	8	11 ～ 12	工場内において、被災者はグラインダーを使用し、金属製品（油圧プレス のタンク）の研磨作業を行っていた、被災者が当該金属製品の側で倒れて いることを、同僚が発見。病院に救急搬送されたが4日後に死亡した。被 災者の左胸及び左脇の下に火傷痕があったことから、グラインダーの金属 ケースから漏電し、感電したとみられている。	153	13	1～ 9
2010	7	16 ～ 17	被災者は、NC旋盤を使用して、断面が六角形の棒材（長さ1.5 m）を 加工してナットの製造を行っていた。その際に棒材を旋盤の側面から突出 （約55 cm）させて加工を行っていたため、その部分の棒材が高速で回 転する過程で遠心力によりたわみ、捻じ曲げられた状態で回転し、その棒 材が被災者の頭部を強打したもの。	151	6	1～ 9
2010	6	19 ～ 20	事故当日の午後、約8%の苛性ソーダを含有する70℃の水溶液が入って いる脱脂槽に、油脂除去の目的で船舶用配管を浸漬する作業終了後、被災 労働者が当該水槽に保温用シートカバーを被せる作業を、天井クレーンを 使用して単独で行っていたところ、当該水槽に誤って転落し死亡した。被 災労働者は、入院加療中であったが、1カ月半後に急死した。脱脂槽の周 囲に転落防止用の手すり等がなく、被災者は玉掛・クレーンの資格を持っ ていなかった。	715	11	10 ～ 29
2010	6	10 ～ 11	シートパイル（長さ12 m）3枚が荷山から崩れ、被災者に激突したた め、被災者はシートパイルとともに約2.5 m下に転落した。玉外し後に クレーンを走行させた際、フックに掛けていたスリングが引っ掛かった か、あるいは、シートパイルが不安定な状態で置かれていたとみられる。	611	5	1～ 9
			工場内の金属製品加工場において容器の部品（鏡板）の開先部分を仕上げ る作業を携帯式グラインダを使用して被災者1人で行っていた。作業開始			

2010	5	8 ～ 9	後約20分後に他の作業者が容器の部品付近で首から血を流して倒れている被災者を発見したもの。被災者は携帯式グラインダにより開先部分の研磨を行っていたものと考えられ、被災者が使用していたグラインダの回転している研削といしが、転倒もしくはバランスを崩した際に被災者の首に接触したもの。	153	8	～ 29
2010	5	12 ～ 13	被災者が1人作業で、7m鋼材を天井クレーンでつり上げて、積み上げられた鋼材の上（高さ129cmまたは173cm）を歩いてペンダントスイッチを操作して移動していたところ、足を踏み外して床に転落し、首の骨を折り死亡した。被災者が昼休みになっても事務所に戻って来ず、不審に思い工場内を見に行った事務員が被災者を発見した。	521	1	1～ 9
2010	4	16 ～ 17	工場内において、被災者が金属加工用丸のこ盤を使用して鋼材（鉄製プレート：72mm×84mmに加工）を切断する作業をしていたところ、鋼材を動力で移動させるバイス（金属製のクランプ）と丸のこ盤の囲い（金属製）との間に頭部を挟まれ、死亡したもの。被災者がバイスを移動させたとみられる。	159	7	1～ 9
2010	3	16 ～ 17	金属パイプを切断する機械で金属パイプ（直径17cm、長さ626cm）を長さ152cmに切断する作業中、切断後の金属パイプを製品取り出し口に自動で運搬している時に、金属パイプを固定して移動させる部分と切断機の台との間に頭部が挟まれたもの。機械を停止せずに作業していた。	159	7	100 ～ 299
2010	3	16 ～ 17	製造ラインの機械のベアリングを停止せずに交換作業中、機械が作動しはさまれたもの。	169	7	30 ～ 49
2010	3	10 ～ 11	工場敷地内の屋外製品置場において、被災者（技能実習生）と同僚は製品の受け台（H形鋼で600mm×200mmを2本並列）の上に置かれている大梁（建築用の大梁のH形鋼、500mm×200mm（14本）を2層に積み上げた状態）に雨がつかないように養生シートを被せ、大梁の下に入り、養生シートを固定するため紐を掛けていたところ、製品の受	521	5	1～ 9

			け台が倒れたため、大梁が40cm下降して挟まれた。			
2010	2	11 ～ 12	自動仮組機の油圧ホースの取替作業中、油圧ホースを取り外したことによる圧力の低下により、自動仮組機のシャフトが降下し、シャフトと地面の間に挟まれたもの。	169	7	50 ～ 99
2010	2	18 ～ 19	H鋼（長さ7m、重量300kg）の片側に玉掛け用チェーン1本が掛けられた状態で、ホイスト式天井クレーン（つり上げ荷重2.8t）で片側がつり上げられており、被災者はその崩れたH鋼付近で発見された。被災者の死因は胸部圧迫による窒息死であった。被災者は玉掛け技能講習及び5t未満クレーン特別教育修了していた。現認者はいないが、発見された状態から、H鋼の片側だけをつり上げ、又は1本づりで平衡を失ったことで、荷がすべって落下したとみられる。	211	4	1～ 9
2010	1	14 ～ 15	工場内の製品出荷場所において、出荷を担当する被災者が、上段の鉄骨が崩れて胸部を鉄骨に挟まれた状態で発見された。被災者は災害発生日の翌日に出荷を行う建築用鉄骨（長さ4.645m、幅0.55m、重さ約2.5t）を橋型クレーンにて上下2段積みで出荷場に並べる作業を1名で行っており、目撃者はいない。発見時、玉掛け用具は鉄骨から外れた状態。使用していたクレーンのつり上げ荷重は10.1t。玉掛けは3.2t用つりチェーンを使用。被災者は資格有。	521	5	30 ～ 49
2010	1	12 ～ 13	トラックの不具合を直すため、高速道路の路肩に停止し、三角表示板と非常点滅灯をつけて車外車両下で作業中、後方から来たトラックが追突し、巻き込まれた。深夜時間帯で周りが暗く、見通しが悪かった。また、路肩での停車で、車体の一部が走行車線にはみ出していた。	221	17	30 ～ 49
2010	1	18 ～ 19	建築物用のH鋼柱（長さ約8m、重量約3.5t）製作作業において、被災者が鋼板の溶接作業をしようとH鋼柱を横にして2台の架台（高さ1.2m）の上に載せ、H鋼柱の仕口（梁を取り付けるために張り出した部分）に手を掛け乗ろうとしたところ、被災者側にH鋼柱が倒れ、その部材の一部が頭部及び腰部に強く当たり死亡した。もう1人の被災者は既にH鋼柱に乗っており、倒れるときに飛び降りて両足を骨折した。架台の上に	521	5	50 ～ 99

			置いたH鋼柱に転倒の防止措置をしていなかった。			
2009	1	9 ～ 10	作業員4人にて2.8t天井クレーンを用いてトラックの荷台（H=1400）から鉄板（1200×2400、t=8）8枚（1.72t）を玉掛用繊維ロープにて2箇所に玉掛けを行い、地面へ降ろしていたところ、つり荷がバランスを崩したことにより、荷が玉掛用繊維ロープからすべるように落下した。被災者は、つり荷のそばで荷降ろし作業の補助を行っていたところ、落下した荷の下敷きとなった。	211	4	1～ 9
2009	12	9 ～ 10	加工場において、被災者が資材置場にある鉄筋（長さ4.5m、直径10mm、1束60本×10束、重量1.512t）をつり上げる準備のため、鉄筋束の片方にワイヤロープ2本を掛けて天井クレーン（つり上げ荷重2.8t）で玉掛け作業中、玉掛けワイヤロープから鉄筋がすり抜けて落下し、つり上げた鉄筋束の下にあった別の鉄筋束に接触し、その反動で被災者側に崩れ落ち被災者の後方にあった鉄筋束との間にはさまれた。	211	4	10 ～ 29
2009	9	16 ～ 17	約1425℃の溶湯13.8tが入った取鍋を作業員Aが電動操作（取鍋と一体化している傾斜装置）で後傾させて作業員Bが温度測定を実施した。取鍋を水平に戻すため押しボタンを押したが動かなかったため何度か押していたところ、突然取鍋が反転し、溶湯が飛散した。	521	11	300 ～
2009	12	13 ～ 14	工場内で、被災者が床上操作式天井クレーン（つり上げ荷重2.8t）を用いて溶接が終わった鉄骨を転回させる作業を行った際、つり荷の鉄骨と工場内に置いてあった別の鉄骨との間で体をはさまれた。	211	6	10 ～ 29
2009	6	8 ～ 9	排ガス管（重量：約877kg）塗装の段取り中、工場内の天井クレーン（定格荷重20/5t）で排ガス管をつり上げる際、片側に使用していた玉掛け用具（ねじ式クランプ）が外れ地上に落下した。落下後、はねて被災者に激突した。その後、入院先にて死亡した。	372	4	10 ～ 29
2009	2	11 ～ 12	鋼製パイプに帯鋼を螺旋状に巻き付け、溶接したフィンチューブを製作するため、工場内において被災者が一人で作業を行っていたところ、装置に巻き込まれた。	121	7	30 ～ 49
			コンクリート圧縮強度試験機（幅70cm、奥行50cm、高さ173cm）の撤去			



2009	1	15 ～ 16	作業において、同試験機の下に単管3本を敷き、同試験機の脚部にワイヤロープを巻きつけ、ブレーカー（機体重量2.17t）のフックに掛けて引っ張り移動させようとしたが、思うように動かなかつたため、被災者がバールを同試験機の下に入れて持ち上げようとしたところ、同試験機が被災者の方へ倒れ、下敷きとなった。	145	6	10 ～ 29
2009	9	18 ～ 19	工場内で、翌日の朝加工する準備のため、鉄板（幅2.2m×長さ8.1m×厚さ19mm×比重7.85=2657kg）をハッカーで2点玉掛けし、ホイスト式天井クレーン（つり上げ荷重2.8t）で移動させていた際、鉄板長手方向の東端でペンダントを操作し、西方向に移動させようとしたところ、操作を誤って東方向に動かしたため、鉄板が被災者に当たり、さらに東壁にある配電盤との間にはさまれた。	211	6	10 ～ 29
2009	7	23 ～ 24	石綿含有の石綿布、耐火被膜剤、断熱材を使用した蒸気配管、タンク類、乾燥炉等の保温・改修・除去工事等の作業を、昭和55年頃より平成14年頃まで行っていた。平成21年4月15日頃から咳込むようになり、1ヶ月後に医院、翌日に総合病院で受診し、その1ヶ月後に手術を行った。その後、再入院したが、死亡した。	514	12	1～ 9
2009	11	16 ～ 17	鉄筋資材置場で雨天に備えて鉄筋材にシート掛け作業中、転倒して鉄筋材の栈木が被災者に激突した。	999	2	1～ 9
2009	5	14 ～ 15	クレーンオペレーターと共に10tトラックに鉄骨の積み込み作業を行っていたところ、同トラック上で作業していた被災者は、鉄骨1本（80kg）とともに地面に崩れ落ちて死亡した。	221	1	10 ～ 29
2009	3	3 ～ 4	事業場は、鉄骨造平屋の工場棟とその東側一部に鉄骨造3階建の事務所と寄宿舎設備で構成されていた。建屋の2階事務所内より出火し、建屋2階及び3階、更に工場棟の屋根一部が焼失した。当時3階にて就寝していた作業員6人が出火に気付き、全員が3階窓から飛び降りた際、うち1人が死亡（他の5人は負傷）した。	911	16	30 ～ 49
		11	鉄骨階段メッキ加工仕上がり品をトラック荷台に積載した後、製品を荷台			10

2009	9	～	に固定する作業中に製品を支えていた2本の支柱のうちの1本が折れ曲がり、製品と荷台の支柱間にはさまれた。	379	5	～	29
2009	1	13 ～ 14	作業者がフォークリフトを後進させて加工場から荷受場に製品を運搬していたところ、鋼管置場の4段積み鋼管の束（長さ4m、高さ約1.7m）の上に仮置していた別の鋼管の束（長さ約5.5m、重さ約600kg）に運搬中の製品が接触して仮置していた鋼管の束が落下した。この鋼管が、空パレットを歩いて取りに行く途中にフォークリフトが通り過ぎるのを鋼管置場の付近で待機していた被災者へ激突した。	222	4	～	30 ～ 49
2009	7	13 ～ 14	プレス工場「梁調査（工事）」において、同工場2階の鉄骨トラス梁の不具合調査を床面からの高さ4.13mの「搬機」下部点検用作業床上で行っていた際、手すりが設置されていない開口部から墜落、さらに床面に設置されていた「リヤフロアセット台」のガイド用突起が身体の一部を貫通し、死亡した。	416	1	1～	9
2009	10	15 ～ 16	金型取り付け板（鉄製550×950×60cm、重さ約250kg）をリフティングマグネット（外部電源式、制限荷重1.2t）をフックに取り付けたクレーン（つり上げ荷重2.8t）にてつり上げ、研磨機のテーブルの上に載せる作業中、金型取り付け板がリフティングマグネットから外れ、被災者に激突した。	211	4	～	10 ～ 29
2009	5	16 ～ 17	工場において、東工場と南工場のすき間（約1m）に屋根（高さ約4m）を設置する作業を被災者一人で行っていた。屋根の梁を組み立て中に墜落した。	415	1	1～	9
2009	9	16 ～ 17	工場の外部に設置されている床上操作式の橋形クレーン（定格荷重2.8t）を用いてH鋼を運搬していた際にクレーンが転倒し、転倒したクレーンにはさまれた。	211	7	～	10 ～ 29
2009	12	～	被災者は、出勤後、工場内にひとりで作業に従事、事業主が旋盤を止めて被災者を救出したが既に意識がなく、病院へ搬送され治療を受けていたが死亡した。旋盤加工の準備のため、ワークをセットして暖気運転していた	151	7	1～	9

		9	時に作業開始前の確認等何らかの作業で接近したところ、回転中のワークに衣服が巻き込まれ被災した。			
2009	9	9 ～ 10	空調ダクトを製造する工場で、ダクトの材料となるロール状に梱包された亜鉛鉄板コイル（L1.85m、φ0.88m、重量約2.4t）を天井クレーンにて、玉掛け用具を介しつり上げ移動させたところ、荷が玉掛け用具から外れ、クレーンを操作していた被災者に落下した。	211	4	30 ～ 49
2009	6	7 ～ 8	社員の運転する自家用乗用車で、宿泊先から工場へ移動するため当該乗用車の助手席に乗車していた際、交差点で相手車両と側面衝突し、死亡した。	231	17	10 ～ 29
2009	10	8 ～ 9	つり上げ荷重15.2tの橋形クレーンで移動した2つのH型鋼材（H=1,000×400×12×32（mm）L=15,000（mm）、重量4.5t）の間に被災者が入り、H型鋼材のケレン作業を行っていたところ、事業場の代表者が運転する橋形クレーンの剛脚の補柱がH型鋼材に接触し、H型鋼材が被災者側に倒れ、2つのH型鋼材の間にはさまれた。	521	6	10 ～ 29
2009	6	16 ～ 17	ホイスト式天井クレーン（2.8t）のペンダントスイッチに不具合が生じたため、被災者がスイッチケースの裏ぶたを外し、ドライバーで回路を点検していたところ感電した。	211	13	30 ～ 49
2009	1	19 ～ 20	アルミサッシの枠を製造するためのダイスとボルスターを自動搬送する設備において、被災者がボルスターと搬送機のクランプの間にはさまれた。	229	7	300 ～ 499
2009	2	10 ～ 11	プロテクター(板状の鋼材、重量1.7t)につりピースを溶接により仮付けし、シャックルをつりピースに取り付け、繊維ロープで天井クレーンにより1本つりの状態で、縦に起こしたところ、つりピースの溶接箇所が破断して、プロテクターが倒れて被災者が下敷きになった。	521	5	30 ～ 49
2009	2	17 ～ 18	材料試験用設備解体のため、天井クレーン（20t、無線操作式）でH鋼を2点つりでつり上げて約7.2m下に移動させようとしたところ、玉掛けワイヤーの片側がフックから外れて一本つりになり、その勢いでもう1本の玉掛けワイヤーが切れてH鋼が落下した。その際、つり荷の下にいた被災者がH	372	4	1～ 9

			鋼に付いていたワイヤロープに叩かれ、2.4m下に墜落した。			
2009	1	10 ～ 11	建築用資材であるH鋼の組立工程において、天井クレーンでH鋼を立てたところ、H鋼が荷ぶれを起こし、逃げ場のなかった被災者側に倒れ下敷きになった。	372	5	10 ～ 29
2008	6	14 ～ 15	工場の構内で被災者を含む作業員5名は鉄骨製のラック(2.7×2.3×5.5m)の組み立て作業を行っていた。被災者は脚立(H=1.15m)に載りボルト締め作業を行い、脚立を降りる際に足を踏み外して転落して周辺の鉄骨材に身体を強打し死亡した。	371	1	10 ～ 29
2008	3	11 ～ 12	工場内で、抽伸機（鋼管を伸ばす機械）を操作して鋼管の加工作業を行っていた。被災者は鋼管の加工に不具合が生じたため、引き伸ばし途中の鋼管を切断して切断した鋼管を拾うために抽伸機の下へもぐり込んだ。その際、引き伸ばした鋼管を支えるアームが作動して当該アームと鋼管受け台の間にはさまれた。	159	7	100 ～ 299
2008	10	10 ～ 11	バルブ（重さ約2t）の製造工程において、被災者は、バルブを運搬するためにホイスト式天井クレーン（つり上げ荷重5t）を操作したところ、荷台にあったバルブが被災者へ激突してバルブと別の機械との間にはさまれ死亡した。	211	7	30 ～ 49
2008	7	17 ～ 18	被災者は、集じんダクトを塗装するために屋外で手持ち式グラインダー等によるケレン作業に従事していた。作業終了後、車で帰宅途中に交差点で停車中の車両と追突事故を起こした。追突後、被災者が追突車両の相手と話している途中、口から泡を吹き出し倒れて死亡した。	715	11	1～ 9
2008	5	16 ～ 17	被災者が、天井クレーン（定格荷重2.8t）を用いて鉄板（200cm×120cm×厚さ2.8cm、重量約520k）をトラックに積み込む作業中、玉掛用具（リフティングマグネット、最大使用荷重500kg）から鉄板が落下して鉄板の下敷きになり死亡した。	372	4	1～ 9
2008	3	10 ～	300tジブクレーンの組立て作業のため、高所作業車の作業床に乗り当該クレーンの基部上の機械室底部のボルト締めを行っていたところ、作業床の	146	7	100 ～

		11	操作盤のガードとボルト締めを行っていたH型鋼との間にはさまれて死亡した。			299
2008	7	8 ～ 9	I型鋼材（歩道橋の主桁、重量約1t）のひずみ取りの作業中、架台に立てていたI型鋼材が被災者に倒れてきた。被災者は当該I型鋼材に押し倒されて、被災者の後方に立てて置かれていた鋼材（歩道橋の横リブ）に身体を打ちつけて死亡した。	521	5	30 ～ 49
2008	6	9 ～ 10	鉄筋加工場内で被災者は鉄筋切断作業を行っていた。その際に、鉄筋切断機の端部にある鉄筋のストッパー用の突起に身体を打ちつけて負傷して死亡した。	159	3	1～ 9
2008	2	13 ～ 14	工場内で鉄板の束（4束、8t）を無線操作の天井クレーン（20t）で被災者が操作して荷積み作業中、片方のハッカーが外れていないまま荷下ろし後に巻き上げたため、積んだ荷が片側だけ持ち上がり、被害者が背後の荷との間にはさまれた。	211	4	50 ～ 99
2008	7	15 ～ 16	つり上げ荷重1.5tのホイスト式天井クレーンを使用していたところ、当該クレーンの横行用キャブタイヤケーブルが近くにあった可動式半自動溶接機のヒンジ部に引っかかり断線した。その後、被災者が断線部を補修するためにクレーンガーダにまたがり補修作業を行っていたところ感電した。被災者はクレーンの電源を切断したものと思っていたが、別の電源を切断していた。	211	13	50 ～ 99
2008	7	10 ～ 11	バンドソー（鋼材切断機）によるH鋼の切断作業終了後、H鋼（長さ9m、幅30cm、高さ30cm、重量837kg）をローラーテーブル上から天井クレーン（つり上荷重2.8t、無線操作）でつり上げたところ、把持していたつりクランプ（2本づり）が外れ、H鋼が被災者に激突して死亡した。	372	4	10 ～ 29
2008	11	10 ～ 11	スタッカークレーンの撤去工事において、掃除機を使用して周囲の清掃作業を行っていた際、解体途中であった鉄骨製のラック（高さ483cm、幅227cm、重さ推定100kg）が倒れて被災者が下敷きになった。	418	5	1～ 9
		15	被災者は、溶接作業を行うにあたり、熱中症を予防するために圧縮空気を使用して身体を冷却する装置（個人用冷却器）を装着した。被災者は、装			10

2008	7	～ 16	着した個人用冷却器に圧縮酸素のホースを接続させて溶接作業を行ったところ、溶接の火花が飛散して、被災者の衣服が燃えた。	332	16	～ 29
2008	3	14 ～ 15	コイル状の鉄線材スクラップ（線材コイル）の回収作業を同僚と2名で行っていた。線材コイルをフォークリフトのフォークに掛けドーナツ状に結束する方法で作業中、すでに結束を終えてフォークから外して立て掛けてあった線材コイル（高さ約1m、重量約1.5～2t）が倒れ、フォークについた線材の結束作業をしていた被災者に当たり、両方のコイルの間にはさまれて死亡した。	611	7	30 ～ 49
2008	4	18 ～ 19	工場内の製品ストックヤードで4.8tの天井クレーンを使用して並べてある製品（鋼材）の上で選別作業を行っていた。被災者は、仮置きしてあった製品（H700×200mm、長さ8.3m、重量0.9t）にクランプを掛けようとした際にバランスを崩し、高さ1mの箇所から後方に倒れた。その際、天井クレーンの押し釦を押したため、クレーンが移動して仮置きした製品にクランプが引っ掛かり製品の下敷きになった。	521	2	100 ～ 299
2008	1	15 ～ 16	資材置き場で塗装をされた柱材（重量約1.2t）を納品するため、作業員2名と運送会社作業員2名で積載形トラッククレーンを使用して荷台へ柱材の積み込み作業をしていた。3本目の柱材を1本目の柱材の上に重ね、柱材の座り具合を確認していたところ、突然バランスが崩れて柱材が回転し、玉外し作業をした被災者が逃げ遅れて柱材の下敷きになりトラックのあおりとの間にはさまれた。	611	6	1～ 9
2008	12	13 ～ 14	被災者は一人で資材置場の鋼製の柱（50×50×1200cmの四角柱、重量約8.7t）を、橋形クレーンを用いて、1本つりの状態で90度回転させる作業を行っていた。その際、柱を回転するために使用していたチェーンが切れてその反動で柱が転がり、被災者に激突した。柱に激突された被災者は、その衝撃で、後部にあったクレーンの脚部分に身体を強打した。	372	4	30 ～ 49
		17	鉄工所の工場内において、製作中の機械装置（ステンレス製、長さ4.9m、幅1.5m、厚さ0.5m、重量約6t）内部の溶接作業中（被災者は、上半身を機			

2008	8	～ 18	機械装置の中に入れ作業していた)、機械装置を45度くらいに傾けるために油圧ジャッキ装置に立てかけてチェーンブロック(1t用)で固定していたが、そのチェーンが切れたため、立てかけていた油圧ジャッキ装置が移動して機械装置が倒れはさまれて死亡した。	391	5	1～ 9
2008	6	10 ～ 11	建築工事に使用するH型鋼材をショットブラストに掛けるため、長さの違う(1.8～4.8m)H型鋼材を11本(約1.9t)積み重ねてて玉掛け用チェーン(長さ約5.5m、リングサイズ(長さ6.7cm、幅4.2cm、太さ1.4cm))をH型鋼材の中央部一箇所に掛けて天井クレーン(つり上げ荷重2.8t)でつり上げて移動していたところ、つっていたH型鋼材がずり落ちて下敷きになった。	372	4	10 ～ 29
2008	12	13 ～ 14	被災者は、円形の鉄板とリングをシャコ万力で仮止めした材料(約400kg)に穴あけの作業を行う際、つり上げ荷重2.8tの片脚橋形クレーンを使用して当該材料を反転させるため、玉掛用ワイヤロープをシャコ万力に玉掛けを行い、材料をつり上げたところ、玉掛けを行ったシャコ万力が材料から外れて材料が被災者に当たった。	379	4	1～ 9
2008	12	11 ～ 12	鋼材のコイルの巻きグセを直すレベラー機械の裏側に配置されたシャフト周辺のグリス油を拭き取る作業を行っていたところ、機械を停止させていなかったため、シャフトに巻き込まれた。シャフトは、上3本・下4本で構成されていて各隙間は3.5cm、シャフト周囲には、安全のための囲いや覆いがなかった。	121	7	30 ～ 49
2008	4	9 ～ 10	つり上げ荷重5tの天井クレーンで、ハッカーを用いて重さ約3tの鉄板を移動させる際、その鉄板の上に乗って地切りしたところ、つり上げた鉄板とともに落下して鉄板に激突された。	211	6	10 ～ 29
2008	3	13 ～ 14	4tトラックにスキット(スチール梱包材)4枚(約194kg×3、約318kg×1)を2.8tクレーンで積み、スキット上で玉掛ワイヤロープを外していたところ、最上段のスキットが滑り落ちて、トラックの横を歩いていた被災者に激突し、隣に積まれていた鉄板との間にはさまれて死亡した。	521	5	1～ 9
			塗装を終えた製品(金属製フレーム重さ約200kg)をフォークリフトを用			

2008	11	8 ～ 9	いて4tトラックの荷台に積み込んだ後、荷台上で作業員4名とトラックの運転手1名の計5名で製品を回転させたところ、高さ約1mの荷台の端から被災者が後ろ向きに墜落して死亡した。	221	1	10 ～ 29
2008	11	17 ～ 18	つり上げ荷重2.9tの積載形トラッククレーンを使用して、その荷台にあった重量約2tのトラック（最大積載量2500kg）をつり上げて旋回しようとしたところ、トラッククレーンが被災者側に倒れてきて、隣にあった別の2tトラックとの間にはさまれた。	212	6	10 ～ 29
2008	9	11 ～ 12	工場内において、天井クレーンで鋼板20枚（長さ4.4m、幅1.5m、厚さ4.5mm14枚、長さ3.8m、幅1.5m、厚さ4.5mm6枚）をL字型ハッカーを使用して運搬作業中、荷が振れて鋼板が飛び出すように崩れ、下から2枚の鋼板が被災者に激突して下敷きになった。	211	4	1～ 9
2008	8	9 ～ 10	事業場ヤード内において高さ約1.8m程度の鋼材上で草刈作業中に鋼材から墜落した。	521	1	1～ 9
2008	6	11 ～ 12	出張作業中に作業所内において石炭ホッパーの塗装作業を脚立上で行っていたところ、地上へ墜落して死亡した。	371	1	10 ～ 29
2008	4	13 ～ 14	工場内で配管の溶接作業をしていたところ、仮置きしてあった別の配管によって作業場所が狭隘となっていたため、この配管を移動させ作業場所を確保しようとして、工場内に設置してあるつり上げ荷重1t以下の天井クレーンを使用して当該配管をつり上げたところ、玉掛用ワイヤロープの先端に取り付けてあるフックが外れて配管が落下し、直撃して死亡した。	372	4	1～ 9
2008	8	22 ～ 23	スパイラルシーム鋼管を転がして仮置き場所に移動させようとして歯止めを外したところ、鋼管（径0.9m、長さ28.04m）が被災者の方に転がり、鋼管と別の鋼管との間にはさまれ、その直下にあった深さ約1.7mのピットに墜落した。	521	7	1～ 9
			同僚と2名で鋼管の面取り作業の際、同僚が橋形クレーンで鋼管（直径			



2008	1	9 ～ 10	2.5m×長さ11m×厚さ12.7mm×重量8.7t) をつり上げてターニングローラー（鋼管回転機）にセットしようと微調整を行ったところ、荷が振れて玉外しのため待機していた被災者が鋼管と酸素ガスガードルの間にはさまれて死亡した。	211	7	～ 49
2008	3	16 ～ 17	被災者は5.1tクレーンでH鋼（長さ10m、重さ1t）を移動させていたところ、積み上げてあったH鋼が崩れて被災者に落下した。災害発生当時、被災者は1人でクレーンおよび玉掛け作業を行っていた。	521	5	10 ～ 29
2008	9	17 ～ 18	社屋内の一側面が開放されている休憩所（喫煙所）で休憩している時、休憩所の脇を流れている水路（段差1.4m、幅1.8m、水深0.2m）に転落して死亡した。	418	1	10 ～ 29
2008	10	11 ～ 12	工場内において、H型鋼材（約1.36t）の清掃作業中にH型鋼材につりクランプ1個を取り付けてつり上げたところ、H型鋼材がつりクランプから外れて落下して下敷きとなった。	372	4	1～ 9
2007	5	11 ～ 12	工場内で、建築部材である鋼製の梁（縦約2m、横約10m、重さ約700～800kg）の組立て溶接作業中、作業台の上に縦置きしていた当該梁をクレーンでつり上げる直前に、当該梁が倒れ、逃げ遅れた被災者に当たった。	521	5	50 ～ 99
2007	2	8 ～ 9	作業員2名で、NC旋盤を用い鉄の棒（直径20mm、長さ1.65m）の先端にネジ山加工を行うため、1名が旋盤の操作を行い、被災者が旋盤から突き出した棒（約50cm）の振れ止めを行っていた。徐々に、旋盤の回転を上げたところ突き出した棒の振れが大きくなり、被災者が支えていた部分から、棒が曲がり、横で棒を支えていた被災者に、曲がった鉄の棒が直撃した。	151	6	1～ 9
2007	7	9 ～ 10	天井クレーンの走行レール上において作業を行い、作業終了後、地上に下りるため、作業場所から通路を通り、さらに通路から天井クレーン点検通路に渡ろうとしたところ、バランスを崩し、天井クレーンのガーダとガーダの間から約6.6m下の地上に墜落した。	418	1	10 ～ 29
			工場内において、集じん機ダクトエキスパンション（鋼製、円筒形（内径			

2007	2	13 ～ 14	2.63m、外径3.13m、高さ1.06m、重量約1t)を、天井クレーン(つり上げ荷重2.8t)2台でつり、反転させた後、荷を降ろしているときに一方のスリングベルトが切断してつり荷が落下し、付近にいた被災者がつり荷と作業定盤の間にはさまれた。	372	4	10 ～ 29
2007	7	17 ～ 18	被災者は鋼材(714kg)の開先作業を行っていた。鋼材の裏面の手入れをするために、鋼材の穴につり具のフックを引っ掛けてクレーンでつり上げ、反転させる作業の際に、フックが穴から外れ、支えを失った鋼材が被災者に倒れ掛かって激突した。	521	6	10 ～ 29
2007	12	13 ～ 14	工場で加工した物を納品のため、4tトラックを運転して国道を走行中、渋滞のため停車していた最後尾のトラックに追突した。	221	17	1～ 9
2007	8	15 ～ 16	被災者は出荷待ちの装置の位置を天井クレーンでつって動かすため、はしごを立てかけ、同装置に上り玉掛けをした。被災者は同装置上に乗ったままペンダントでクレーンを操作し、少し浮かせた状態にし、地上に残っていた作業員2名が同装置を手で約15cm押したところで同装置をおろした。その後被災者ははしごを降りていたところ墜落した。	371	1	1～ 9
2007	5	17 ～ 18	H鋼(H200×B200×T12×L4150、重量約165kg)をホイスト式天井クレーン(床上操作式、つり上げ荷重2.8t)を用いて出荷のため10tトラックに積み込み作業を行っていたところ、つりクランプから荷が外れクレーンを操作していた被災者に当たった。荷はつりクランプ1個を用いた1点づりであった。	372	4	1～ 9
2007	5	14 ～ 15	加工センターにおいて、異形棒鋼(1本50.4kg)を15本まとめたものをつり上げ荷重2.8tの橋形クレーンでつり上げ、運送会社のトラックの荷台に乗せる作業中、荷をつり上げた際に一端のワイヤロープがクレーンのフックから外れ、地面に落ちた反動で他端が跳ね上がり、跳ね上がった異形棒鋼の先端部分が被災者に激突した。	611	6	10 ～ 29
		9	H鋼を製造している工場内において、被災者は矯正機(自動送給装置つき)にH鋼を置いて矯正を行う作業を行っていた。その際、矯正が終わっ			10

2007	10	～ 10	たH鋼の状態を検査していた被災者に、後ろから送り出されたH鋼がぶつかり、被災者がH鋼とコンベヤーの間にはさまれた。	169	7	～ 29
2007	1	～ 23	被災者は、ジクロルメタンを洗浄液に用いた自動洗浄装置を用いて金属製品の洗浄作業に従事していた。被災者が業務を終えないため、作業の様子を見に来た他の作業者が洗浄装置の前で倒れている被災者を発見した。	514	12	～ 49
2007	10	13 ～ 14	工場テスト場において、ボール捕集機（1300kg）より、テストフランジ（1600kg）を外すためにエアークラッシュで締結されたナットを緩めていたところ、テストフランジがボール捕集機より重く、バランスを崩して倒れ、床面とボール捕集機との間にはさまれた。	391	5	30 ～ 49
2007	10	14 ～ 15	600KN疲労試験機の作動油の配管にスラッジ等がたまり汚れていたため2週間程度かけて分解掃除をしていた。被災者は機械の最終の油漏れのチェックをしていたところ、機械本体上部の配管から作動油が漏れていたため、その配管のナットを増し締めすることにし脚立に乗ってハンマーとレンチを使用していたところ、配管がはずれ作動油が噴出するとともに、外れた配管が被災者を直撃し脚立から転落した。	169	6	1～ 9
2007	3	16 ～ 17	機械加工工場において、軽量H鋼加工作業中、ホイスト式天井クレーン（定格荷重2.8t）を無線操作していたところ、クランプによりつり上げていた軽量H鋼がラック（高さ約2.58m）に積み上げていたフラット鉄板に接触し、当該フラット鉄板2枚（重量1枚160kg）が落下したため、直下にいた被災者に激突した。	211	4	50 ～ 99
2007	2	22 ～ 23	被災者は、浸炭処理後、鋼球を炉の前の水槽内に設けられている球受けカゴに入れようとし、作業床と同じ位置にある水槽の扉を開けようとした。扉は観音開きになっており、一方の扉を被災者が開き、もう片方を同僚の者が開けていたことに被災者は気付かず、その扉の上に足をかけてしまい、水槽内に転落した。水槽は、炉の前方にあるため、水温は高温になっていた。	391	11	30 ～ 49
			被災者がステンレス製のスクリーンを切断していたところ、スクリーンを			

2007	10	18	円形に保持するために張力をかけていたワイヤロープの先端が突然スクリーンからはずれ、はずれたワイヤロープがはねて被災者を直撃した。なお、ワイヤロープの先端はシャックルを付け、スクリーンを油圧ではさみ込んでいただけであった。	521	6	50 ～ 99
2007	2	15 ～ 16	被災作業者が長さ11.5m、重さ約2tのH鋼を床上操作式天井クレーンを使用してつり上げたところ、玉掛用具として使用したクランプ2つから鋼材が外れ落ち、被災者の上に落下した。	372	4	10 ～ 29
2007	9	9 ～ 10	グラインダーで金属加工を行っていた被災者が、壁に設置されていた換気扇の羽根に接触した。	391	6	1～ 9
2007	3	17 ～ 18	定格荷重2.8tの床上操作式天井走行クレーンの運転をしていたが、同クレーンのキャプタイヤが止め具から外れて垂れ下がっていたため、設置されていた工作機械の上部（高さ3.4m）にあるモーターに引っかかった。被災者は、引っかかりを取り除くため、同工作機械の一部であるラック（重量300kg超）に手をかけて上部に昇降していたところ、ラックが外れ、ラックとともに墜落し、ラックの下敷きとなった。	159	1	10 ～ 29
2007	1	10 ～ 11	工場棟に設置されたエレベーターを使用して、1階から3階へ使用済パレットを搬送し、3階から階下に移動しようと同エレベーターに乗り込んだところ、同エレベーターの床面が抜けて7.9m下の一階ピット部分に墜落した。	214	1	10 ～ 29
2007	3	13 ～ 14	熱処理作業場において硝石洗浄湯槽（W1,000mm×D1,000mm×H350mm、湯温約70℃）の端部に躓き、同湯槽の中に、後ろ向きに転倒した。	519	11	300 ～ 499
2007	5	11 ～ 12	被災者は、蒸気洗浄機の蒸気槽から廃液（トリクロルエチレン）をバケツで一斗缶に移し替える作業を行っていたが、洗浄機にもたれかかっているところを発見された。	514	12	10 ～ 29
		8	NC旋盤にて鍛造機械用ボルトの切削作業を行っていた被災者が、ねじ切り作業終了後、ねじの切削箇所のみ取り作業を行っていたところ、			10

2007	5	～	9	回転していた主軸に巻き込まれた。NC旋盤の扉のリミットスイッチを解除（操作盤に切替キースイッチがある）し、扉を開けた状態でばり取り作業を行っていた。	151	7	～	29		
2007	3	18	～	19	ロールの局部焼き入れするための治具（円筒形の籠ステンレス鋼、長さ1.3m、直径45cm重量40kg）にロール2本（材質SS材、1本190kg、長さ2.3m、直径12cm）を入れて、設置していたところ、ロールが入っている治具が倒壊し、被災者が下敷きとなった。	521	5	50	～	99
2007	9	9	～	10	溶射室において、溶射機（アセチレンガスと酸素ガスを使用）を用いて溶解させたステンレスを金属材料に溶射する作業を行っていたところ、爆発した。	513	14	10	～	29
2007	7	15	～	16	鉄製台座（約4t）を床上操作式天井クレーン（定格荷重30t）でつり上げて移動中、床に積んであった鉄製台座と荷の間にはさまれた。	211	7	1	～	9
2007	2	8	～	9	被災者は工場内にてフォークリフトのカウンターウエイト下にはさまっていたスクラップ材（スチール製ホイール）を、ハンマーで取り出そうとしていた。そこへ取引業者のトラックが後退してきたため、被災者にトラックの荷台後部が激突し、フォークリフトのカウンターウエイトとの間にはさまれた。	212	6	10	～	29
2007	3	12	～	13	NCフロアボーリング盤により工作機械フレーム（W1000×D1000×H2000約2t）の穴あけ作業を行うため、フレームをNCフロアボーリング盤にセットし、油圧ジャッキを用いてフレームを乗せている架台の調整を行っていたところ、当該フレームが被災者に向かって倒れ、その下敷きとなった。	521	5	100	～	299
2007	1	14	～	15	溶接加工を終えた搬送機械の鋼製架台（長さ4m、高さ1m、重さ470kg）を天井クレーン（5t、つり具はチェーン）でつり、仕上げ場所へ移動中、つり荷が落下した。	372	4	10	～	29
					作業台（高さ60cm）上にH鋼（高さ80cm、長さ12.8m）を3					

2007	9	16 ～ 17	本に並べて開先加工中、天井クレーン2.9t（床上操作式クレーン）でH鋼を反転させる作業を行った後、H鋼の間で被災者が巻上操作をしたため、真ん中に設置したH鋼のへり部分に、クランプが引っ掛かりH鋼が倒れ、H鋼の間に被災者がはさまれた。	211	5	1～ 9
2007	7	16 ～ 17	学校などで使用する耐震補強材を作成中、次の補強材を作成するための材料であるH鋼（250×250×1700mm：約120kg）をクレーンにて移動させ4本ずつ積み上げていたところ、バランスを崩したH鋼の荷（8本）が被災者側に倒れた。	521	5	1～ 9
2007	2	17 ～ 18	被災者は、資材置場内に置かれていた「I型鋼」の上で作業等を行っていたところ、転落した「I型鋼」と隣に置かれていた「I型鋼」の間にはさまれた。	521	5	100～ 299
2007	10	14 ～ 15	鋼材を切断加工するスリッターラインの終端にある巻き取りロールの下部で作業していた被災者が当該ロールに巻き込まれた。	159	7	10～ 29
2007	2	13 ～ 14	工場内の天井クレーン（5t）が故障し全ての操作ができなくなったため、被災者1人が、ガータの歩道上または走行レール桁上で点検を行っていたところ、約7m下の鉄板敷きの床上に墜落した。	417	1	1～ 9
2007	12	11 ～ 12	工場敷地内にある駐車場の鉄骨接合ボルト部分（梁部分）を、はしごの上で塗装していた時、はしごが急に滑動したため、被災者ははしごから墜落した。	371	1	10～ 29
2007	1	11 ～ 12	工場内で、つり上げ荷重2.8tの床上操作式天井クレーンを使用して、重さ約1tの長方形の鉄骨製荷台を繊維ベルトで1本づりをして移動させ、同荷台を床に付け平面状に倒そうとしたところ、荷がぶれて繊維ベルトが切れたため、クレーンを操作していた作業者の方向に倒れ、下敷きになった。	372	5	1～ 9
2007	3	9 ～ 10	被災者は顧客に軽ワゴン車で商品配送した帰路、交差点に進入したところ、右側から走行してきたトラックが軽ワゴン車右側面に激突し、被災者が死亡した。	221	17	1～ 9

2007	8	13 ～ 14	トラックの荷台から屋根上の大工へ板金を渡すため、被災者がトラックの荷台に乗せてある架台足場（高さ約2.4m）に上がり、架台足場に積んである板金を屋根の上へ押し上げる作業を行っていたところ、バランスを崩し架台足場から転落した。	416	1	1～ 9
2007	1	13 ～ 14	倉庫において、床上クレーンを用いて鋼材の束を整理する作業中、積上げられた鋼材の束が崩れて下敷きとなった。	521	5	10 ～ 29
2007	1	3 ～ 4	高速自動車道の追い越し車線側を走行中、スピンし、走行車線側のガードロープに接触後、追い越し車線に跳ね返ったところ、後続の大型自動車 が追突した。道路上には若干の降雪があった。	231	17	10 ～ 29
2007	9	14 ～ 15	工場内において、建設用鉄骨材（長さ9m、高さ0.9m、幅0.4m、重さ約4t）を天井クレーン（つり上げ荷重5t）で製品仕上げ場まで運搬し、玉掛け用クランプを外したところ、当該鉄骨材が倒れ、被災者が隣 にあった鉄骨材との間にはさまれた。	521	6	10 ～ 29
2006	8	21 ～ 22	鉄スクラップ処理業を営む同社工場構内の床面において、出血し意識不明 状態でうつ伏せに倒れているところを同僚に発見された。救急車により病 院へ搬送されたものの、その後死亡した。	921	90	10 ～ 29
2006	11	16 ～ 17	被災者は、レベラーライン（コイル状の鉄板を切断し積み重ねる工程）の パイラー（テーブルリフターが下降することにより鉄板を積み重ねる機 械）の業務中、テーブルリフターを下ろした状態でスキッド（製品の破損 を防止するため等のすのこ状の木製品）をテーブルリフト上にセットし、 同リフトの自動運転上昇ボタンを押した。その後、自動上昇中のテーブル リフトとパイラー本体サイドガイドに挟まれた。	214	7	50 ～ 99
2006	11	17 ～ 18	工事終了後、身体の汚れを落とす為、風呂場に行き浴槽に入ろうとした 際、浴槽にはまり、全身を火傷した。	713	11	1～ 9
			被災者外1名で、工場内で建築用の鉄骨の溶接作業を行っていた。溶接し			

2006	12	15 ～ 16	ていた鉄骨（H型鋼、重量約1.5トン）は2階建て建屋の角部分の柱で、1階及び天井部分の梁が二方向についていた。この鉄骨を横向きにして2本の架台に乗せ、被災者らが溶接後のバリ取り作業を行っていたところ、鉄骨が倒れ、床にうつぶせに倒れた被災者が、鉄骨の梁の先端部と床に挟まれた。	521	5	10 ～ 29
2006	11	13 ～ 14	工場へ製品を配送途中、標識点検工事のため車線規制で渋滞し停車していた車両に追突した。	221	17	30 ～ 49
2006	11	8 ～ 9	工場内において、被災者と同僚の2名で梁材（I型鋼：長さ13.75m、高さ1m、重さ4.66トン）の補強板（リブ）を本溶接するため、同僚が床上操作式天井クレーン4.8トンで梁材を移動した後、クランプを外した。被災者が溶接の準備のため梁に接近していたところ、作業に必要なクレーンを移動すべく、同僚がフックを巻き上げた際、クランプの突起部が梁に引っかかり、梁が被災者側に倒れ下敷きとなった。	211	5	1～ 9
2006	10	13 ～ 14	製造ラインの中のバケットエレベーター（原料を低所から高所へ搬送させるための設備）の腐食した部分を取替える作業において、移動式クレーンを使用して取替える部分を床に荷降ろしし、当該クレーンで保持した状態で被災者が荷に上がって作業を行っていたが、クレーンのフックを外したところ、荷が倒れ、荷と建物とに挟まれた。	521	5	1～ 9
2006	10	15 ～ 16	工場内において、鉄製の胴板（直径約4000mm、長さ2200mm、重さ約55トンの筒状のもの）を移動させるため、ワイヤロープ二本で玉掛けし、天井クレーンで吊り上げ走行させていたが、荷の状態が不安定になったことから、一時的に降ろそうとした。荷を降ろす箇所にバタ角を敷こうと、被災者が荷の直下に立ち入った時に荷が落下し、被災者が荷の下敷きとなった。	372	4	100 ～ 299
2006	9	18 ～ 19	コイル状の鋼材を所定の幅とするため、一旦コイルをほどき鋼材の長手方向の両端を切断する機械装置において、発生する切り屑（長さは最大でコイルの長さ）を巻き取る機械装置に巻き込まれた。	163	7	50 ～ 99



2006	8	10 ～ 11	カットオフマシンと呼ばれる金属を切断する機械の修理中に、突然当該機械の鋸フレームが下降し被災者が挟まれた。	159	7	10 ～ 29
2006	9	14 ～ 15	旋盤にてリング状の加工物を加工していたところ、突然チャックから外れ、被災者に撥ね当たった。加工物は鋼製で、直径150mmのリング状で重さ5.1kg。	151	4	10 ～ 29
2006	9	15 ～ 16	海上ブイの塗装作業を行っていた被災者が、同僚労働者の操作する伸縮ブーム型式の高所作業車に搭乗し、横置きしたブイ上部にバケットを近付けて乗り移ろうとしたところ、突然バケットが水平に左90°回転し、バランスを崩した被災者が約6m下の地面に墜落した。	146	1	1～ 9
2006	9	9 ～ 10	工場内において機械加工の終わった金属製品（約1.5m×3m×0.7m／重さ約1.5トン）を3本の玉掛ワイヤで吊り、クレーンを使用して出荷位置に移動させた。3本のワイヤのうち1本だけ長く、ワイヤの長さをそろえるために荷の下部において使用していたシャックルのピンを外したところ、荷の一方が落下し、被災者がはさまれた。	372	4	1～ 9
2006	9	15 ～ 16	被災者が台車のフレームをひっくり返そうと天井クレーン（つり上げ荷重2.8t）で吊り上げたところ繊維ロープが切れ当該フレームとコンクリート床面に被災者がはさまれた。	372	4	1～ 9
2006	9	13 ～ 14	被災者は、クレーン（つり上げ荷重2.8t）2台を使用し、積み重なっているH型鋼5本（400×200×8／13、総質量約2t）をつり上げ、別のH型鋼（450×210×9／14）の上に置こうとしたところ、吊り荷のH型鋼の内一番下を除く4本が落下し、被災者が下敷きになった。	211	4	10 ～ 29
2006	3	9 ～ 10	旋盤により円筒形のシリンダーの研削作業を一人で行っていた被災者が、回転していたシリンダーに巻き込まれた。	151	7	1～ 9
2006	7	0 ～	被災者は在庫を確認するために2階休憩室を出て、事務所へ戻る途中、階	413	1	100 ～

		1	段より転落し病院で治療していたが、死亡した。			299
2006	5	15 ～ 16	自社製作のプレス機械で金型交換後に試し打ちをしているときに、プレス機械の本体の一部が破損し、隣で作業していた被災者を直撃した。	154	15	50 ～ 99
2006	7	4 ～ 5	行程計画係の担当者が荷の仕掛かり状況の確認に行ったところ、声が聞こえたため探したところ、結束機出側コンベア上で結束されたパイプ束とコンベアローラー、操作盤の間に挟まれた被災者を発見した。	224	6	100 ～ 299
2006	6	4 ～ 5	真空洗浄機のフィルターを清掃するため、2. 1 m下のピットに垂直はしごを下りていたところ転落した。フィルター清掃を行った後、休憩室の椅子に座っていたが、床に倒れたため救急車で病院に搬送したが、死亡した。	413	1	30 ～ 49
2006	5	20 ～ 21	被災者は工場内の金属表面処理工程において、摂氏50℃から60℃に保温された工業用アルカリ洗剤の薬液が注入されている深さ283センチの脱脂槽に転落し、槽の縁にかけてあったシートと共に浮かんでいたところを、出勤してきた同僚に発見された。	418	1	10 ～ 29
2006	5	10 ～ 11	被災者は敷地内にある車庫内から構内運搬車（立った姿勢で運転）を前進させた際、車庫出入口（高さ1. 8 M）にぶつかり、構内運搬車荷台のガードと車庫のシャッターボックスとの間に挟まれた。	229	7	10 ～ 29
2006	3	11 ～ 12	工場内で、ドリルマシン（NC制御加工機）を操作中、服の袖がドリルに巻きつき、腕も一緒に巻き込まれた。	159	7	1～ 9
2006	3	16 ～ 17	鉄骨材を荷台に積み、貨物自動車（最大積載荷重3 t）にて構内加工工場から同構内資材置場に運搬し、被災者が荷解き作業を行っていた時、突然鉄骨材が崩れだし被災した。	521	5	10 ～ 29
2006	2	14 ～	架台組み立てを請け負っていた他社の作業員が、天井クレーンを用い、架台の天板（重量約284 kg）を所定の位置まで移動させた。その際、玉掛け用具が天板の重量で取り外せない状況であったため、被災者が協力し	418	1	1～

		15	てバールを使って天板を持ち上げていた際、約4.9m下の床面に墜落した。			9
2006	2	15 ～ 16	ベローズ成形機（加工物を回転させ溝を付ける機械）でステンレス管の溝付け作業を行っていたところ、回転軸に附属するネジ（約1cm突起）に、上着が引っかかり体ごと巻き込まれた。	169	7	1～ 9
2006	2	8 ～ 9	出先作業所からトラックで無人の工場に行き、作業に使う工具を運んでくるよう指示された被災者が、近所の住民に工場内で倒れているところを見られ、病院に収容されたが死亡した。	371	1	1～ 9
2006	1	11 ～ 12	被災者は図面に従ってH鋼に穴あけの位置をケガキする作業を行っていた。被災者がクレーン（つり上げ荷重2.8トン）で吊り上げたH鋼（長さ750センチ、幅90センチ、重さ1742キロ）を回転させようとしたところH鋼がクランプからはずれ被災者に激突した。	372	4	10 ～ 29
2006	2	7 ～ 8	出勤後、事務所棟2階で作業服に着替え、1階職場へ移動中、階段から転落した。	413	1	10 ～ 29
2006	2	1 ～ 2	被災者がボックス状鉄骨材（1666*75*75cm、14.8t）をつり上げ荷重10tの片脚橋型クレーンを使用してつり上げ移動していたところ、玉掛け用ワイヤロープ（径20mm、長さ6m）2本が破断し、落下する当該鉄骨材に激突された。	372	4	10 ～ 29
2006	1	0 ～ 1	レーザー加工機の操作担当労働者である被災者が、午後の作業開始予鈴が鳴っても作業場所へ現れないため、同僚が工場内を探したところレーザー加工機の材料供給装置の搬機（高さ89cm）の横の床面に被災者が座り込むように倒れているのが発見された。	159	1	10 ～ 29
2005	6	15 ～ 16	鉄骨構造の2階建て社屋建設のため、移動式クレーンを使用して鉄骨の組立て作業中、2階の梁の上で作業していた被災者が玉外しをした後、3m下の地上に墜落した。	415	1	10 ～ 29
		8	鉄骨トラス梁をハッカーを用いて天井クレーンでつり上げて起こし、溶接			50

2005	4	～	を行っていたところ、ハッカーが外れたため当該梁が倒れ、下敷きとなっ	211	5	～
		9	た。			99
2005	9	8	船舶用の電気スイッチボックス（1個7kg）18個を段積パレットにてつり	211	4	10
		～	上げ、2階の作業場より1階へ下ろしていたところ、クレーンの荷振れによ			
		9	り、つり荷の一部が落下し、そのうちの1個が下で作業していた被災者を直			29
			撃した。			
2005	3	0	鉄製の箱（重さ0.6トン）に入った金属スクラップ（重さ1トン）をトラッ	211	7	10
		～	ク荷台へ移すため、天井クレーン（定格荷重1トン）を操作中、鉄製の箱と			
		1	荷台のあおりとの間に挟まれた。			29
2005	12	14	メッキラインに部品を投入するため、運搬装置に被メッキ物を入れ、メッ	229	7	50
		～	キラインのホッパーに専用の運搬装置のバケットから材料を投入しようと			
		15	したところ、運搬装置のバケットとメッキラインのホッパーとの間に挟ま			99
			れた。			
2005	10	15	鉄骨柱の溶接作業中、ホイスト式天井クレーン（定格荷重10トン）を使用	372	6	30
		～	して鉄骨柱（重量2トン）の向きを変えるため、クランプ1個を中心に掛け			
		16	てつり上げようとした際、つり荷が被災者の方に移動し激突した。			49
2005	1	10	金属製品の先端を研削する大型グラインダ（直径50cm）の調整作業で、グ	364	3	30
		～	ラインダのシャフトを締めるために、パイプレンチの柄に丸パイプを挿し			
		11	込み建屋の外から作業していた被災者が跳ね飛ばされた。			49
2005	5	10	工場内にある床上操作式天井クレーンで金属製パイプの束をつり上げ移	211	4	10
		～	動させていたところ、付近に積んであった養殖いけす用の金属製栈橋に玉			
		11	掛け用の繊維ロープが接触、金属製栈橋が2.5mの高さから落下し、付近で			29
			溶接作業をしていた被災者に激突した。			
2005	4	10	ボール盤の電気配線作業中、空荷で移動してきた天井クレーンのフックに	211	6	10
		～	掛けていた玉掛用のハッカーが当該ボール盤を引っ掛け、倒れてきたボー			
		11	ル盤が被災者に激突した。			29
		9	工場内において、不要になった鉄板を立て掛けておく整理枠と鉄板の撤去			30

2005	4	～	作業中、被災者が立て掛けてあった鉄板と鉄板の間に立ち入ったところ、	521	5	～
		10	鉄板3枚（1枚の重さ200kg）が突如倒れ、これに挟まれた。			49
2005	3	～	作業に必要なH形鋼の上に置かれていたH形鋼をクレーンで移動させようと	211	4	30
		11	していたところ、H形鋼が落下し、被災者が落下物と床面との間に挟まれ			49
2005	2	～	アルミの鋳物製品の研磨作業を行う作業場所で、突然爆発火災が発生し、	511	14	30
		11	被災した。			49
2005	2	～	アルミの鋳物製品の研磨作業を行う作業場所で、突然爆発火災が発生し、	511	14	30
		11	被災した。			49
2005	11	～	鋼材をトラックの荷台へ搬入するため、トラックの荷台にて鋼材の積込み	221	1	1～
		15	作業をしていたところ、荷台から転落した。			9
2005	12	～	工場内において、天井クレーンを操作してブリキ板を巻いたコイル	211	4	10
		14	（800kg）をCフックを用いてつり上げ、移動させようとしたところ、コイ			29
			ルが落下し被災者に激突した。			
2005	7	～	鉄骨加工工場内において工場床に積み上げられた建築用鉄骨の上で、ホイ	211	7	10
		10	スト式天井クレーンでつり上げられた建築用鉄骨の柱部分に挟まれた。			29
2005	6	～	洗浄機のピット内でストレーナーのフロートを交換していたところ倒れ	999	99	100
		11	た。			299
2005	5	～	工場土間上で作業中、架台から製作途中の鉄製の柱（重さ4.5トン）が落下	521	4	1～
		20	し、下敷きとなった。			9
		8	チャンバーという水門の部材を仮組立て後、解体して搬送する際に、仮止			300

2005	9	～	めしていたボルトを抜いたため、一部の部材が倒れてその下敷きとなっ	612	6	～
	9		た。			
2005	7	～	パソコンを使用して作業中、椅子より転げ落ちた。	921	90	～
	10					49
2005	8	～	自動焼入れ機において、焼入れが終わり、パレットに自動で搬送された製	167	7	～
	14		品を整理するため、被災者が上半身をパレット内に入れた状態で製品を平			50
	15		らにしていたところ、次の製品を運んで来たマグネット搬送機とパレット			～
			内の製品との間に挟まれた。			99
2005	1	～	シールドマシン部品をクレーンでつり、台上に置いたもう一つの部品と位	211	7	300
	15		置合わせし、当該結合部をボルトで結合する作業を行っていたところ、突			～
	16		然クレーンが作動し、つっていた部品ごと50cm程移動して、中で作業して			
			いた被災者が部品と台との間に挟まれた。			
2005	6	～	トレーラートラックの荷台に積まれた山留材を、橋形クレーンでつり上	521	6	10
	16		げ、工場敷地内の所定の鋼材置場に移動させる作業中、荷が被災者に激突			～
	17		した。			29
2005	8	～	天窓用窓枠に開閉用のアームを、治具を使って組み付けようとしたとこ	364	6	10
	13		ろ、その治具がアームから外れてアームが戻り、被災者に激突した。			～
	14					29
2005	6	～	H形鋼（重さ2.1トン）の溶接を行う作業場において、作業台の上に倒して	211	5	10
	13		あったH形鋼をクレーンを使用して起こし、つり具を外した後、次の作業			～
	14		として隣にあった別のH形鋼へクレーンを移動する際に、H形鋼が作業台か			29
			ら外れて倒れ、その下敷きとなった。			
2005	2	～	屋外ピッキング場所で作業に取りかかった際、凍結した路面に足をとられ	719	2	10
	8		転倒した。			～
	9					29
	10		鍛造機の部品加工作業において、作業を中断した際に回転している中ぐり			10

2005	2	～ 11	盤の歯部に巻き込まれた。	152	7	～ 29
2005	2	13 ～ 14	天井クレーンによりボックス柱（重さ8トン）を移動中、台車とともにボックス柱が倒れて被災者に激突した。	521	6	100 ～ 299
2005	5	14 ～ 15	鋼矢板を橋型クレーンを使用して搬出中、鋼矢板に咬ませていた角材が折れ、この拍子に上に積んであった鋼矢板8枚（重さ10トン）が滑り落ちて被災者を直撃した。	521	7	1～ 9
2005	4	14 ～ 15	変圧器用タンクカバーの溶接作業に際し、設置位置の台を修正するため、カバー（重さ3.5トン）を天井クレーンでつり上げたところ、ワイヤロープ（径9.3mm）が破断し、当該カバーが倒れ、その下敷きとなった。	372	4	10 ～ 29
2005	11	15 ～ 16	歯車製造工程の熱処理工程において使用する温水洗浄機のメンテナンス作業中、70℃の湯が溜まっていた洗浄機内部に転落した。	391	1	100 ～ 299
2005	2	11 ～ 12	金属スクラップ圧縮機の監視及びその周辺作業を行っていた被災者が、圧縮機内に入ったところ、圧縮機の上蓋が閉まり、圧縮機のピットと上蓋との間に挟まれた。	159	7	1～ 9
2005	3	14 ～ 15	バックで工場内に進行してきたトラックに激突され、鉄骨との間に挟まれた。	221	6	1～ 9
2005	6	8 ～ 9	トンネル用鋼板部材のセグメント（重さ3トン）の溶接かすの除去作業を行っていたところ、倒れてきた当該セグメントに挟まれた。	372	5	10 ～ 29
2005	12	13 ～ 14	トラックから床上操作式クレーンを使用し、鉄板8枚（重さ2.6トン）の荷降ろし作業をしていたところ、鉄板が玉掛け用具から外れて落下し被災者に激突した。	372	4	10 ～ 29
		9	建築用鉄骨鋼材の溶接部の欠陥を補修をするため、鋼材上に乗って準備作			10

2005	1	～ 10	業中、鋼材の一部に左足が引っ掛かり、転倒した。	521	2	～ 29
2005	3	～ 11	床上操作式クレーンを用い、トラック荷台よりH型鋼材（重さ130kg）を降ろす作業中、鋼材をつっていた玉掛用クランプが外れて鋼材が落下し、クレーン操作者に激突した。	372	4	1～ 9
2005	1	～ 1	現場で使用する鉄筋を自社工場で加工し、小型移動式クレーンにより、大型トラックに積み込む際、小型移動式クレーンが傾き、被災者に激突した。	212	6	10 ～ 29
2005	10	～ 15	H形鋼（長さ10m、重さ1.7トン）を3段に積み上げる作業において、3段目の1本目のH形鋼をクレーンで移動後、玉掛けワイヤのクランプを外しクレーンのフックを巻き上げたところ、クランプがH形鋼に引っかかり、逃げた被災者の上にH形鋼が落下した。	211	5	100 ～ 299
2005	4	～ 14	レール（重さ300kg）を天井クレーンによりつり上げ、床上1mまで巻き上げたところ、クランプよりレールが外れ、運転操作していた被災者に落下した。	372	4	30 ～ 49
2004	5	～ 16	雨水幹線築造付帯工事現場において、移動式クレーンによりスリングベルト2本つりで玉掛けした金属製扉を雨水管ピット部（深さ約2m）よりつり出す作業をしていた被災者が当該つり荷とピット壁面の間に挟まれた。	212	6	1～ 9
2004	11	～ 16	鉄工所内で、鋼材を溶接で組み合わせた長さ8.6m、幅1.5m、重さ290kgの建設資材を製作中に、被災者が作業台の上に上がり、この資材を床上操作式天井クレーン（つり上げ荷重1t）でつり上げていた時、フックから資材が外れ、資材とともに被災者も転落し、その下敷きになった。	211	4	1～ 9
2004	12	～ 14	圧力能力1500tの油圧プレスで鉄板の曲げ加工中、上金型を取り付けているボルト8本（直径3cm）全てが破断し、スライド部から外れた上金型が、材料を保持していた作業員2名に倒れかかり、逃げ遅れた作業員1名がその下敷きとなった。	154	5	1～ 9
			工事に使用されている敷鉄板の入出荷に伴い、トラックへの敷鉄板の積			



2004	3	16 ～ 17	み卸しおよび敷鉄板の補修作業を行っていたところ、積み重ねられた敷鉄板（高さ約1.4m、1枚の厚み22mm、大きさ約1,500×6,000mm）とホイスト式橋形クレーン（つり上げ荷重4.87t）のサドル上に取り付けてある配電盤に挟まれた。	211	7	1～ 9
2004	9	10 ～ 11	4tトラックの荷台に積んであった金属製角パイプ4束をトラックの荷台から降ろすため、束に金属製バールを差し込む作業をしていた時、バールが滑り、バランスを崩して荷台からコンクリート床面に墜落した。	221	1	10 ～ 29
2004	9	15 ～ 16	鍛造プレスでシャックルに使用する六角ボルトを鍛造中、上型と下型に挟まれた。	159	7	10 ～ 29
2004	10	11 ～ 12	鋼構造物（クレーンや橋梁）のショットブラスト作業場にて、排砂作業（作業場に飛散したショット玉を回収する作業）を行っていた被災者が、バケットコンベア入側にあるスクリューコンベアの回転軸と溝の間に挟まれた。	224	7	100 ～ 299
2004	8	16 ～ 17	荷置場において、つり上げ荷重35t移動式クレーンで建築用鋼材を貨物自動車に3本を2段で水平に積み込む作業で、上段の鋼材を積み込んでいたところ、下段の鋼材上でつり荷の収まる位置を確認していた被災者が約2.8m下の地面に墜落した。	221	1	1～ 9
2004	7	16 ～ 17	国道を3tトラックで走行中、センターラインをはみ出して対向車のトラックと接触し、次に後続のトラックと衝突した。	221	17	1～ 9
2004	10	14 ～ 15	船舶エンジン用台座（重量1.5t）を、油圧式テーブルリフター2基で支持して1.5mの高さに上昇させ、その台座の下で溶接部の検査を行っていたところ、片方のテーブルリフターから脱落した台座の下敷きになった。	391	4	10 ～ 29
2004	2	14 ～ 15	ポールトレーラーが工場から出庫しようとした際、ポールトレーラーの荷が工場内に積んでいたH鋼に接触し、H鋼3本が落下し、近くにいた被災者に激突した。	521	4	10 ～ 29

2004	11	16 ～ 17	アスファルトの合材サイロに設置された製品供給用の搬送装置が停止したため再起動させようと、高さ約16mの位置で機械の状態の確認作業を行っていたところ、当該搬送装置が突然動きだしたため、バランスを崩し作業床から足を滑らせ墜落した。	229	1	1～ 9
2004	7	13 ～ 14	鋼板の平面加工を行うレベラーの取扱い鋼板を長尺の物から短尺の物に切り替えるため、金具の取外し作業を行っていた時に、金具と連動していたセンサーが金具を外す際に解除され、それに連動したコンベアが降下し挟まれた。	159	7	1～ 9
2004	5	15 ～ 16	トラックの荷台よりスクラップにする機械（重量約2t）を荷下ろしするため、当該機械のフックにワイヤロープをかけクレーン運転手に合図しつり上げ、トラックの後部に移動したとき、つり上げていた機械のフックの片方のボルトが折れ機械が宙づりとなり傾き、当該機械とトラックの荷台に挟まれた。	211	7	1～ 9
2004	4	11 ～ 12	工場内で、8個のフライヤーを有する高速筒型撚線機の全枠替作業を行うにあたり、（つなぎ目ロスを抑える為）所定の4個のボビンについてまず先に載せ替え作業を行い、その後、連結シャフト部前でレバーを操作し、載せ替えた4本のストランドのつなぎ目を所定位置に寸動で停止させる作業を行っていたところ、連結シャフトに巻き込まれた。	159	7	100 ～ 299
2004	4	19 ～ 20	会議終了後、2階会議室から1階の事務所へ移動するために階段を降りる際に、階段より転落した。	413	1	30 ～ 49
2004	2	19 ～ 20	事業場から50m離れた駐車場へ書類を取りに行く途中、後方から走行してきた原動機付自転車に追突された。	231	17	50 ～ 99
2004	3	11 ～ 12	立抗掘削時に使用する鋼管ケーシングの製作過程において、鋼管ケーシングを回転させるターニングロールにケーシングを載せ、ケーシングジョイント用の穴あけのため寸法取り作業中、当該ケーシングが倒れ、作業中の製缶工がケーシングの下敷きになり死亡した。	521	5	1～ 9

2004	1	8 ～ 9	配管のフランジを製造するため、ステンレス製円形材をプレス機で打ち抜いていたが、材が下型から離れなかったため、プレス機から下型を外し、ガスバーナーで温めた後、材をハンマーでたたいていたところ、材が勢いよく外れ飛び、作業を近くで見守っていた被災者を直撃した。	379	4	10 ～ 29
2004	10	13 ～ 14	台風で破損した工場の屋根を修理するため、屋根の上で補修作業を行っていたところ、屋根（防水シート、防水ゴム、ベニヤ板の3層構造）を踏み抜き、約7.5m下のコンクリート床に墜落した。	415	1	1～ 9
2004	2	15 ～ 16	建築型枠用セパレーターを製造する機械を操作中、部材を投入するホッパー部分に取り付けてある回転軸に、着用していたエプロンの一部が巻き込まれた。	159	7	10 ～ 29
2004	4	14 ～ 15	ミニバイクで走行中、交差点に赤点滅信号で進入したところ横から来た乗用車と衝突した。	231	17	1～ 9
2004	9	4 ～ 5	アルマイト処理工程において、熱湯の入った槽にまたがり、ハンガー掛けた自動車部品を水道水（ホース）を使用して洗浄していたところ、足を掛けていた当該湯槽の縁のカバーが外れ、足を踏み外して湯槽内に転落した。	341	1	10 ～ 29
2004	4	8 ～ 9	精鋼工場においてコイル材の表面処理を行っていたところ、被災者が操作していた天井クレーンのペンダントスイッチが、近接した他のクレーンつり具に引っかかり、石灰槽の中へ落ちてしまった。このため被災者はペンダントをとるために慌てて石灰槽の縁に上ったところ、ペンダントに通電しクレーンが動き出し、被災者は石灰槽へ転落した。	341	1	100 ～ 299
2004	5	8 ～ 9	エアコンのコンプレッサーの部品であるスクロールの硬さを検査（ロックウェル硬さ試験）するために、左手でスクロールを持ち、右手で手持ちグラインダーを持ち、スクロールの表面を研削しているときに、誤って手持ちグラインダーで切った。	153	8	10 ～ 29
		10	組立工場エレメント置場のスレート葺屋根で、雨漏りの修繕作業終了後、			100

2004	3	～ 11	屋根を移動しているときに、明り取り用に設けた塩化ビニール製の板を踏み抜き、約5mの高さから墜落した。	415	1	～ 299
2004	9	16 ～ 17	屋外に保管したファブデッキにはしごで登り、ブルーシートをかけなおす際に、高さ3.15mのファブデッキ上部より墜落した。	611	1	10 ～ 29
2004	9	17 ～ 18	工場内で、ホイスト式天井クレーンを用いて、荷（鉄パイプの束、約800kg）を荷置き場に移動し、下ろそうとしたところ、リモコン操作（無線式）を誤り、つり上げていた荷が被災者に激突した。	211	6	10 ～ 29
2004	4	4 ～ 5	グレーチング（側溝に被せる鋼製の格子蓋）の製造工程において主部材（格子になる鋼帯）とらせん状の綱棒を圧接（加圧して電気溶接）する機械を管理する被災者が何らかの理由により圧接部と圧接された製品を引き出す台車との間に入っていたところ、製品を引き出した台車が圧接部に戻ってきたため、圧接部と台車の間に挟まれ死亡した。	159	7	10 ～ 29
2004	9	10 ～ 11	工場内において、つり足場の解体作業を行っている際に、バランスを崩して約7m下の地面に墜落した。	411	1	1～ 9
2004	8	16 ～ 17	工場内の壁際に設置してあったベンダー（プレスブレーキ）を建物の外に出すため、ハンドリフトを使用中に、ベンダーが倒れ、作業中の被災者が隣にあった旋盤との間に挟まれた。	362	6	1～ 9
2004	7	15 ～ 16	H鋼を加工する作業場において、クレーン運転士が、H鋼を移動させた後、巻上げと移動を同時に行ったところ、つり具の先端がH鋼に引っかかり、H鋼を加工するために線引きをしていた被災者の上に落下した。	211	4	30 ～ 49
2004	7	10 ～ 11	工場内で、平面仮組立されていた橋梁斜材を解体作業中、ボルトで緊結されていたH形鋼のボルトを地上に立って取外した後、H形鋼のバランスが崩れ、被災者の上に落下し、被災者が下敷きとなった。	372	4	10 ～ 29
2004	1	12 ～	業務終了後、帰宅するため更衣室において着替えていた際、突然倒れて意識不明となり、救急車にて病院へ搬送された。	911	90	50 ～

		13				99
2004	8	13 ～ 14	鋼鉄製材料（重量870kg）を塗装する為、材料の両端にアイボルトを、さらにそのアイボルトに専用のつり下げ治具を付け、天井よりつり下げた状態で、被災者がエアーサンダーで表面の目粗し作業を行っていたところ、アイボルトの一つが破断し材料が落下したため、下敷きとなった。	379	4	30 ～ 49
2004	8	14 ～ 15	工場内において、3名で2階屋根下のダクトのガイド取り付け作業中、1階屋根を歩行している時、スレート屋根を踏み抜いて約3m下へ墜落した。	415	9	1～ 9
2004	3	14 ～ 15	シートパイル（1枚の長さ約6m、重量約360kg）の端を切断機で揃えるためシートパイルがヤード内に16枚積み仮置きされていたが、仮置き場への移動に使用したチェーンハッカーがシートパイルに掛かったままクレーン操作を行ったことから、16枚のシートパイル（高さ約1m）が被災者側に転倒し、脇に積み重ねていたH鋼（高さ約90cm）との間に挟まれた。	211	5	1～ 9
2004	10	14 ～ 15	工場内で鉄骨階段の製造中、塗装用架台上に並べ置いた鉄骨階段の部分品の間で塗装作業を行っていたところ、同架台上で将棋倒し状に倒れた同部分品（重さ約0.4 t）に挟まれた。	521	5	10 ～ 29
2004	4	15 ～ 16	トラックで輸送されてきた荷の荷卸作業を行っていたところ、フォークリフトのフォークの先に取り付けた玉掛用の部材が外れて、荷台にいた被災者に激突した。	379	6	100 ～ 299
2004	12	9 ～ 10	工場内で鋼材の片付け作業を行うため、鉄製ラックに積まれた角パイプをラックごと天井クレーンでつり上げ、移動し90度荷物を旋回させたところ、角パイプが長手方向に崩れ、ラックもろとも玉掛けチェーンからはずれて落ち、荷の横で補助をしていた被災者が下敷きとなった。	372	4	10 ～ 29
2004	6	15 ～ 16	橋型クレーンで、つりクランプを用いH型鋼をつり上げ移動中、クランプがはずれ落下したH型鋼の下敷きとなった。	372	4	10 ～ 29
		6	接近している台風の被害を防ぐため、事務所の屋根をロープで固定する作			1～

2004	8	7	業を行っていたところ、高さ約3mの屋根上から地面の鉄板上に墜落した。	415	1	9
2004	10	14	トレーラーの積載重量を計量するため車両計測器にトレーラーを移動し、計量後トレーラーを前進させハンドルを左に切ったところ、近くにいた被災者がトレーラー荷台後部と建物の外壁との間に挟まれた。	221	7	10 ～ 29
2004	9	11	天井クレーンでホッパーをつり上げ、車両積載形トラッククレーンの荷台に乗せようとして、荷台にホッパーを降ろそうとした時、つり荷がクランプから外れ被災者を直撃し、その反動で被災者はトラック荷台から転落した。	611	6	10 ～ 29
2004	3	11	錨を製造する工程において油圧プレス機械で鉄板の曲げ加工中、油圧ポンプを操作し材料を押し曲げたところ上部金型が破損し、破片がプレス機械の前方でプレス機械の操作をしていた被災者に飛来した。	154	4	1～ 9
2003	12	11	OAフロア用床材をパレットからベルトコンベヤ上に移しかえる作業中に、産業用ロボットのマニプレータ先端部の吸着器（マグネット）とベルトコンベヤとの間にはさまれた。	167	7	10 ～ 29
2003	12	8	工場2階の物置にグラインダーの砥石を取りに行くためエレベーターに乗り込んで上昇させたときに、搬器と昇降路の鉄骨との間に胴体と頭部をはさまれた。	214	7	1～ 9
2003	12	13	工場1階の銅器吹きつけ作業ライン付近から出火して、木造2階建工場約700m <sup>2</sup> を全焼する火災が発生し、1名が逃げ遅れて焼死した。	512	16	1～ 9
2003	11	13	鋼製の金型を移動させるため5t天井クレーンでつり上げたときに、操作を誤ったため鋼製の金型が頭に当たった。	211	6	10 ～ 29
2003	10	16	大型トラックで鉄くずの回収作業に行き林道を走行中、運転を誤って崖下（高さ5m）に転落した。	221	17	10 ～ 29

2003	10	15 ～ 16	屋外に設置されたホイスト式天井クレーン（運転室付き）が突風により走行レール上を約240m逸走し、走行レールの端から9m下の地面に落下し、その際に運転室が押しつぶされて中の運転士が死亡した。	719	1	100 ～ 299
2003	9	16 ～ 17	直径3.3m、高さ5.5mのタンク上の手すりを溶接しているときに、タンクに引火して爆発してタンクの蓋の下敷きになった。	332	14	1～ 9
2003	9	15 ～ 16	旋盤にチャックを取り付け金属部品の加工を行っているときに、取り付け状態があまくチャックが突然飛び出し顔面に当たった。	151	4	10 ～ 29
2003	9	11 ～ 12	H形鋼のサビ落とし作業中に、H形鋼を載せるローラー付き構台から60cm程離れた場所に2段で積まれていたH形鋼の2段目の端部分のH形鋼（縦60cm×横20cm×長さ9m、1本当たり質量約800kg）3本が崩れ落ち、うち1本が背中に当たってH形鋼と構台との間にはさまれた。	521	5	10 ～ 29
2003	9	14 ～ 15	鉄骨（H形鋼、重さ約1.5t）に鉄板をボルトで固定する作業で、ホイスト式天井クレーン（つり上げ荷重5.07t）で鉄骨をクランプ1本つりで所定の位置に降ろしてクランプを外しフックを巻き上げたときに、クランプが降ろした鉄骨に引っかかったため鉄骨が倒れてきて背中に激突した。	211	5	1～ 9
2003	8	13 ～ 14	鉄骨の柱（長さ約7m、質量約2t）を2.8tの天井クレーンでつるため、柱にあげられた穴にシャックルを取り付けて長さ54cmの玉掛けワイヤロープを通し、その両端を天井クレーンのフックにかけてつり上げたときに、玉掛けワイヤロープが切断して柱が落下し下敷きになった。	372	6	1～ 9
2003	8	10 ～ 11	トレーラーで搬入した鋼板を工場内の天井クレーン（つり上げ荷重10t）で荷下ろしする作業で、荷台上で鋼板7枚（質量11t）をハッカー2点つりで玉掛けして水平移動させたのち向きを変えるため旋回させていたときに、鋼板がハッカーから外れて運転者の頭部に落下した。	372	4	50 ～ 99
2003	8	18 ～ 19	重油バーナーでロールの焼嵌（ば）め作業中に、温度が高くなり仕事に何回も水分を補給していたが、18時頃に会社の駐輪場で倒れた。（熱中症）	715	11	1～ 9

2003	8	13 ～ 14	購入した建設廃材（鉄屑）を建設工事現場へトラックで取りに行き、キャビン上で重機オペレーターに荷台への積み込み位置等を指示していたときに地上に転落した。	221	1	30 ～ 49
2003	8	0 ～ 1	断裁した鉄板を積んだ10tトラックで国道を走行中、非常停車帯に停車していた大型トラックに追突した。	221	17	30 ～ 49
2003	8	7 ～ 8	工場内の鋼板製定盤上で、溶接修理後のドラグ・ショベルのブーム部品を可搬式電気グラインダ（対地電圧100V）を使用して研磨しようと、スイッチを入れたときに感電した。	153	13	10 ～ 29
2003	8	19 ～ 20	切断したアルミを載せるスパーサの供給装置（上下左右に移動し、一次コンベヤに乗せる装置）で、一次コンベヤに乗せられていたスパーサが二次コンベヤに至る前で停止したので、自動運転の状態で供給装置内に入りスパーサの位置を修正していたところ、スパーサの有無を感知する近接スイッチ等が作動したため、供給装置が下降し一次コンベヤとの間にはさまれた。	229	7	300 ～
2003	8	0 ～ 1	飲料缶の上蓋ラインにおいて、高さ85cmの踏み台（踏み面40×41cm）に乗って目視で上蓋の検品作業（不良品の取り除き等）を行っているときに、踏み台から転落して右後頭部を打った。	371	1	30 ～ 49
2003	8	7 ～ 8	従業員送迎用のワゴン車で走行中、信号無視で走行してきたワゴン車が左側後部へ激突した。	231	17	100 ～ 299
2003	7	16 ～ 17	リフティングマグネットをアタッチメントとして装着したドラグ・ショベルで、大型トラック荷台の金属スクラップを取ろうとしたときに、荷台内にいた作業員がマグネットに激突された。	212	6	1～ 9
2003	7	7 ～	構内の資材倉庫の鋼材整理のため、天井クレーン（2.8t）でコラム材2本（250mm×250mm、長さ13m）を高さ1.2mに積み上げた他のコラム材の上に移動させ、玉掛けワイヤロープを外すため片方のアイをフックから外	372	4	50 ～



		8	して上昇させたがワイヤロープが抜けず、コラム材が動いて2本のうちの1本が落下してきて激突された。				99
2003	7	11 ～ 12	50ccのオートバイで工場内にある塗料倉庫で塗料の残量を確認して再びオートバイで作業所にもどる途中、タイヤが道路脇の縁石に接触したため転倒し、オートバイの下敷きになった。	231	2		1～ 9
2003	6	13 ～ 14	工場の中2階に置いてあった鉄筋（質量734kg、番線結束）をトラックに積み込むため、天井クレーン（つり上げ荷重2.8t）でつり上げたときに、つり上げた荷の付近にあった鉄筋（質量231kg、番線結束）がバランスをくずして中2階の開口部から1階に落下し、開口部の直下に置いてあった鉄筋を曲げる機械に当たってはね作業中の者の腹部に当たった。	611	4		30 ～ 49
2003	6	18 ～ 19	建築用鉄骨の角鋼管（70cm角）の選別作業中に、積み重ねた4段目の鉄骨の「はい」（高さ約3m）の上からコンクリート床に墜落した。	521	1		1～ 9
2003	6	16 ～ 17	工場2階において、熱風式循環乾燥炉で塗装された製品（スチール製棚板）を自動乾燥しているときに、突然、乾燥設備が爆発し1名が死亡した。	342	14		10 ～ 29
2003	6	16 ～ 17	工場2階において、熱風式循環乾燥炉で塗装された製品（スチール製棚板）を自動乾燥しているときに、突然、乾燥設備が爆発し1名が死亡した。	342	14		10 ～ 29
2003	5	10 ～ 11	定格荷重5tのホイスト式天井クレーンによりトレーラーから鋼板を荷降しする作業で、最後の3枚（長さ6.11m、幅2.49m、厚さ12mm）をつり上げたときに、鋼版が腹部に激突した。	211	6		1～ 9
2003	5	13 ～ 14	工場内において、タイプレート溶接装置の調整作業を行っていたときに、機械に頸部および胸部をはさまれた。	339	7		10 ～ 29
2003	4	19 ～	納品先の工場内で、製品である架台を仮組してボルト穴の穴あけをする作業のため、フォークリフトの爪にパレットを敷いて穴あけ機とともに乗り	222	1		1～

		20	込み高さ約2.2mの位置までパレットを上げさせたときに、バランスを崩してパレットから墜落した。			9
2003	4	10 ～ 11	工場棟内で、皮膜槽の清掃および再塗装作業のため皮膜槽の側面に設けてある作業構台の端と皮膜ライン1号台車の移動レールの間に立ち上がったときに、皮膜ラインの試験運転のため自動運転していた台車と作業構台との間に身体をはさまれた。	229	7	300 ～ 499
2003	4	14 ～ 15	工場内において、船舶上部工の部材の組立てのため底板にアーク溶接で鉄製の壁部材（2,270mm×2,430mm×10mm、質量約400kg）の仮付けをしていたときに、壁部材が倒れて台座鋼との間に頭部をはさまれた。	521	5	50 ～ 99
2003	4	9 ～ 10	ホイスト式天井クレーン（つり上げ荷重2.83t）で、鉄骨柱（長さ6.8m、重さ約1.9t）を台車の上に運び、縦がり用クランプを外し、2本目を運ぶため天井クレーンを走行させようとしたときに、コントローラーのスイッチを間違えて押したため天井クレーンが反対側に走行し、外した縦がり用クランプが台車上の鉄骨柱に引っかかって鉄骨柱が倒れ下敷きになった。	211	5	1～ 9
2003	4	15 ～ 16	錨(いかり)製造工場において、シャーのベット下部のスタート軸に衣服を巻き込まれた。	156	7	10 ～ 29
2003	4	17 ～ 18	工場内において、建築資材用の鉄骨（H型鋼2本をくの字型に結合させたもの：質量310kg）を2.8tつりの天井クレーンでつり上げ、荷降ろしするために床へ接地させたときに、クランプがつり荷から外れて鉄骨が倒れてきてその下敷きになった。	372	5	1～ 9
2003	3	8 ～ 9	トラックの荷台から9～12mの5本を1組としたH鋼を下ろし、既に積まれている工場のH鋼の上に積み上げる作業で、H鋼とH鋼の間にいったん木を入れ、その後その木を抜くため再度クレーンでH鋼を少し持ち上げ、隙間から入れていた木を取ろうとしたときに、重ねていたH鋼の上3本がくずれて落下し下敷きになった。	211	4	10 ～ 29
2003	3	15	工場内で、鉄製の水門の扉（約1.3t）の芯出しを行うため、つり上げ荷重5.043tの天井クレーンで扉をつり上げたときに、ベルトスリングが切れた	372	4	50 ～

		16	ためつり荷が落下し、作業台とつり荷との間にはさまれた。			99
2003	3	14 ～ 15	コンクリート工場内で、鋼鉄製のコンクリートパイル型枠フランジ部に固化・付着していた油滓をアセチレンガス溶接機を用いて加熱・溶解し、金属ヘラで除去する作業を行っていたところ、何らかの原因でガス溶接機の炎が作業者の作業服背面に引火し、背部・胸部・両手等に火傷を負った。	513	16	1～ 9
2003	3	17 ～ 18	つり上げ荷重5.1tのホイスト式天井クレーンを空荷で移動中、通路上にせり出していたH型鋼（長さ12m）の下をくぐろうとしたときに、クレーンのペンダントスイッチのケーブルがH型鋼に引っかかったためH型鋼が頭部に落下した。	211	4	30 ～ 49
2003	3	14 ～ 15	上下2段重ねにした部品を入れたプラスチックメッシュコンテナを、進行方向へ引張る者と後からコンテナを押す者の2人組で縞板鋼板の床上を滑らせて移動させているときに、上段コンテナが進行方向へ滑り落ちたため、上段の後部縁に手を掛けてコンテナを後から押していた者が前方向へ倒れ込んで額を床で打った。	611	2	30 ～ 49
2003	2	14 ～ 15	機械部品を中ぐり機を用いて加工する作業において、加工を終えた部品の穴の切り粉をエアガンを用いて飛ばす際に、誤って中ぐり機の刃の回転軸に巻き込まれ、体全体が回転し周囲に打ちつけられた。	152	7	10 ～ 29
2003	2	15 ～ 16	出張作業の工場内において、並べて仮置きしてある鉄製型枠材（縦120cm、横378cm、厚さ33cm、質量約2t）を移動させるため、クランプで玉掛けして2.8t天井クレーンでつり上げようとしたが、つり上げることが出来ないため原因を探っていたときに、玉掛けしていない別の型枠材が倒れて下敷きになった。	521	5	100 ～ 299
2003	1	7 ～ 8	早朝、工場内で一人で製品の研磨作業をしていたときに、暖をとるため使用していた焚き火の炎が着衣に引火し、3～4度の全身火傷を負った。	519	16	1～ 9
2002	1	8	工場内において、フィリピン労働者に対して「鉄骨の塗装の仕上がりが悪い」と注意して殴ったところ、腹を立てて近く置いてあった作業用のナイ	719	8	10 ～

		9	フ（長さ約23cm）で胸を刺された。			29
2002	11	15 ～ 16	外注先へ4tトラックで製品を引き取りに行き、トラックに積み込んだ荷の上で荷締め作業を行っているときに、荷が崩れて荷とともに地上に落下し荷の下敷きになった。	611	5	1～ 9
2002	1	15 ～ 16	クレーンで加工母材を搬出するため吊り上げたときに、荷と材料置場に置いていた材料との間に腹部を挟まれた。	211	7	10 ～ 29
2002	11	15 ～ 16	鋼製パイプ（直径1.4m、長さ14m、質量11t）の仕上加工中、パイプの側面に溶接されていた鋼製の矢板部材（直径14cm、長さ9.3mのパイプ）がターニングロールと接触したため、パイプがターニングロール上からずれ落ちて作業員に当たった。	159	6	10 ～ 29
2002	12	15 ～ 16	屋外に設置してあるホイスト式橋形クレーン（吊り上げ荷重2.8t）で鉄骨部材の移動中に、クランプが外れたため地上でペンダントスイッチを操作していた者がクレーン脚部と鉄骨との間に頸部を挟まれた。	372	4	10 ～ 29
2002	12	9 ～ 10	横5.5m、高さ2.3m、幅30cm、重さ1tの建築用梁材を馬（台）に乗せて溶接作業中、馬と梁を固定していたクランプを外して梁の脇にいたときに、梁が倒れてきて別の鉄製台との間に頭部を挟まれた。	521	5	10 ～ 29
2002	6	15 ～ 16	建築用の鉄骨製作で、コラム柱（全長7.5m）をポジショナーにセットするため天井クレーン（5.07t）で反転作業を行っていたところ、先端の母屋ピースが他の部材に引っ掛かったので柱を揺らしながらつり上げて外そうとしているときに、仮付け溶接部分が破断して柱が落下し下敷きとなった。	211	4	30 ～ 49
2002	9	11 ～ 12	スクリーシャフト（長さ11.2m、径45cm、質量約14t）を旋盤からトレーラーに積み込むため、並置された天井クレーン2基（定格荷重40/10tの主巻及び定格荷重40/15tの補巻）を使用して合い吊りし走行運転していたところ、玉掛けスリングベルト2本のうち後方のスリングベルトがスクリーシャフトから抜けて荷が落下し天井クレーン運転士を直撃した。	211	4	1～ 9

2002	7	22 ～ 23	フェリーの車載用タラップの製作で、自動電撃防止装置が取付けられていない溶接機でタラップの内部（高さ60cm、幅130cm）の仮溶接をしていて溶接棒に触れ感電した。	332	13	10 ～ 29
2002	11	8 ～ 9	床上操作式天井クレーン（つり上げ荷重2.5t）で工場で作成した建築部材（梁、質量約317kg、長さ4.58m）をトレーラーに積み込む作業で、クレーンで1点吊りして運搬中にバランスが崩れて運転者に当たったため、転倒してコンクリート床で頭部を打った。	372	4	1～ 9
2002	11	8 ～ 9	作業場に搬入した鉄骨材をトラックに積み込む作業で、鋼材を連結していたボルトを外したときに、鋼材のバランスが崩れて70cm下の地面に落下し、地上でしゃがんだ姿勢で別の鋼材の溶断作業をしていた者の背中に激突した。	521	4	1～ 9
2002	10	15 ～ 16	溶接用ポジショナー（溶接物を溶接しやすい角度に自在に動作させることができる架台）にシールドマシンのカッターヘッド（約7t）を溶接し、ほぼ垂直に傾けて門型クレーンに似た構造の足場を接近させて溶接の準備作業をしていたときに、カッターヘッドが溶接部分から外れ落下した。	159	4	50 ～ 99
2002	10	11 ～ 12	工場内の非常階段の組立で、鉄骨柱に踊り場部分（約250kg）をアーク溶接で仮組みし、踊り場部分を吊っていたクレーンのシャックルをはずして次の作業に取り掛かろうしていたときに、踊り場部分がバランスを失って倒れたため鉄骨柱と踊り場部分との間に挟まれた。	521	7	1～ 9
2002	9	9 ～ 10	重さ187kgの鋼板8枚を定格荷重2.8tの天井クレーンで工場内の加工場から材料置場まで移動中、玉掛ワイヤーがフックから外れたため、吊り荷の下でまくら木の据えつけ作業をしていた者の上に荷が落下した。	211	4	1～ 9
2002	10	9 ～ 10	高速道路用防音壁支柱の溶接作業（長さ約8m、質量337.8kgのH鋼曲り材と長さ52cm、質量21kgのH鋼直材をアーク溶接する）で、H鋼の1辺を溶接した後に他の1辺を溶接するためH鋼の先端に横吊用クランプを取付け天井クレーンでH鋼を起こしたときに、クランプから外れたH鋼が落下して下敷きになった。	372	4	10 ～ 29
		10				100

2002	9	～ 11	最大荷重3tのフォークリフトを運転して灰の計量を行うため後退させていたときに、フォークリフトの後方から歩いて近づいてきた同僚を跳ねた。	222	6	～ 299
2002	9	～ 10	鋼製焼却場の撤去で、高さ2.5mのうまを用いて高さ3.2mの焼却場屋根に上り、壁板を吊り上げるための玉掛け作業を行うため、屋根からうまに乗り降りしようとしたときに足を踏み外して墜落した。	371	1	～ 99
2002	7	～ 18	屋内作業場でエルボ管（水道管の内側に塩化ビニル管を圧着させたもの）のアタッチメントの取り外し作業中、気分が悪くなり救急車で病院に移送したが死亡した。	715	11	～ 99
2002	7	～ 11	フッ素樹脂を入れるステンレスタンク（縦・横1250mm、深さ1690mm）を横に寝かせた状態で、タンク内のバフ掛け作業を行っていて感電死した。	153	13	1～ 9
2002	7	～ 15	エレベーター（積載荷重：600kg）の増設で、最上層の角パイプの胴縁（10cm角、長さ：450cm）を取付けるため梁上で胴縁の片側をボルトで取付けたのち別の側のボルトを取り付けていたときに、バランスを崩して胴縁とともに建屋からせり出し、胴縁の端につかまっていたが力尽きて16m下のコンクリート上に墜落した。	418	1	1～ 9
2002	7	8 ～ 9	コンテナのメンテナンスのため普通ワゴン車で作業ヤードに停車していたときに、最大積載荷重42 tのスプレッダーリフトが輸出用タイヤの入っているコンテナを積載したまま走行してきて、普通ワゴン車に気付かず普通ワゴン車の上にコンテナを降ろしたため押しつぶされた。	222	7	10 ～ 29
2002	4	1 ～ 2	作業を終了し社有車で2名が同乗して宿舎に帰る途中、対向車線からはみ出た車と正面衝突し2名とも死亡した。	231	17	1～ 9
2002	4	1 ～ 2	作業を終了し社有車で2名が同乗して宿舎に帰る途中、対向車線からはみ出た車と正面衝突し2名とも死亡した。	231	17	1～ 9
		7	自宅から工事現場に向かってトラックで走行中、反対車線のトラックが直			10

2002	6	8	～	前で右折したためセンターラインを超えて対向車線側に入り、後方から来た大型タンクローリーと正面衝突して車外に放り出された。	221	17	～	29
2002	6	10	～	休日に、金属製品の脱脂を行うトリクロルエチレンの入った脱脂槽からトリクロルエチレンを排出するため槽の中に入り、中毒症状を起こして翌朝11になって発見された。	514	12	1	～ 9
2002	6	15	～	橋梁用鋼製桁（高さ2.1m、重さ5 t）をハッカーで玉掛けして25 t クレーンで吊上げたところ、作業変更となったので一旦桁を元の位置に降ろしてハッカーを外しクレーンを巻き上げたときに、ハッカーの爪が桁に引っ掛かったためその下敷きになった。	521	5	1	～ 9
2002	6	11	～	アセチレンガス及び酸素を用いて鋼板を溶断するため吹管（バーナー）に点火したところ、漏れていたアセチレンガスに引火し爆発した。	513	14	1	～ 9
2002	6	15	～	砕石プラントのスクリーン（石の大きさを選別する機械）架台の解体作業で、高さ約5mの箇所に設けられている架台（長さ約9.5m）の落下を防止するため移動式クレーンで吊った状態で溶断をしていたところ、接合部を焼き切ったときに吊っていた架台が回転し腹部に当たった。	212	6	1	～ 9
2002	5	11	～	鋼板（2.4m×厚さ9mm、質量約230kg）の錆止めを手刷毛塗りしていて、片面を塗り終えたので2.8 t 天井クレーン（無線操作式）を使用して一点吊りで板材を反転しようとしていたときに、クランプが板材から外れ近くにいた者の頭部に当たった。	372	4	1	～ 9
2002	5	15	～	機材センターで、トンネル用スライドセントルを仮組したのち運搬するための解体作業中、橋形クレーン（吊り上げ荷重4.8 t）でセントルの型枠部材（質量約1.6 t のアーチ形状）を横吊用クランプ2個で吊り上げ、位置を変えて再び地上に降ろしたときに、クランプから部材が外れて頭部を直撃された。	211	6	10	～ 29
2002	5	13	～	鉄工所において、ショットブラストで研磨が終わったH鋼（30cm×60cm、長さ8m68cm、重さ1.25 t）を天井クレーン（5t）で吊り上げて移動させようとしたところ、吊り上げたH鋼が倒れてきて背後に	211	6	30	～

		14	積まれていたH鋼との間に挟まれた。			49
2002	4	16 ～ 17	表面加工を行う部品をバケットに入れ溶液槽に自動搬送（移動、沈浸）していくラインの内部点検のため、液を抜いた漕の内部に入ったがラインが止まっていなかったためにキャリアーに当たって隣の槽まで身体を引きずられ、隣の槽内のバケット上部の取手部分（バレル）との間に挟まれた。	229	7	10 ～ 29
2002	3	8 ～ 9	ユニットハウス（縦2.3m×横7.5m×高2.6m、重さ約1.5 t）床の裏側に断熱材を取り付けるため、組立工場内にある天井クレーン（2.83 t）でハウス上部の四隅にある吊ピースにL字型の金具を取り付け玉掛けワイヤーで高さ約1.8mほど吊り上げ、その下で断熱材を取り付ける作業をしていたときに、吊ピースからL字型の金具が四隅とも外れてハウスが落下し下敷きとなった。	372	4	1～ 9
2002	4	11 ～ 12	発電設備であるガスタービンの鉄製防音カバー（天井部分と側壁2面がボルトにより結合されたもので、質量約1.1t）内側のシート張りと解体作業中、倒壊防止のための補強が不十分であったためカバー倒壊し、中で作業していた2名のうち1名がカバーの下敷きになり死亡し、1名が骨盤、脚を骨折した。	521	5	1～ 9
2002	3	5 ～ 6	ブリキの冷延に使用する鋼製ロール（直径43cm、長さ3.5m）にショットブラストで表面処理を行う作業中、鋼製ロールに付いた油を除去しようとして検査台車の硬製ゴムロールと鋼製ロールとの間に右手を挟まれ、台車から落下したロールに頭部を挟まれた。	159	7	300 ～ 499
2002	1	6 ～ 7	正月休み中に工場2階にある寮に一人で残っていて、自室の電気ストーブから出火した火災のため有毒ガス（一酸化炭素）を吸い込んだ。	911	12	10 ～ 29
2002	3	9 ～ 10	工場敷地内通路を協力会社の作業員が台車を押して歩行していたところ、親企業の作業員が運転するフォークリフトに正面から激突された。	222	6	1～ 9
		16	縦95cm、横60cm、高さ25cmの鉄骨を主軸53.7cmのラジアルボール盤で			10





2001	12	10 ～ 11	立旋盤を使用してフランジ(φ800mm、厚さ22mm、重さ約32kg、材質SM400)の加工を25枚終了したので、立旋盤の中に入り刃の交換作業中に、テーブルが急に回転し、さらに、刃物台が下降したため、テーブルと刃物台との間にはさまれた。	151	7	30 ～ 49
2001	12	9 ～ 10	吊上げ荷重4.8tのクレーンで、塗装済の鉄骨を吊上げて運搬していたときに、工場内に2段に重ねていた鉄骨が突然崩れ、崩れた鉄骨とその脇に置いてあった鉄骨との間に挟まれた。	521	5	10 ～ 29
2001	10	17 ～ 18	トラス(鉄骨建築梁材)の溶接作業のため、吊り上げ荷重2.8tの天井クレーンでトラスを立たせ、玉掛け用具のクランプを外し、クレーン運転者がクランプを巻き上げていたときにトラスに引っ掛かったためトラスが倒れて胸部を直撃した。	521	5	10 ～ 29
2001	9	10 ～ 11	2tトラックで材料を取りに行くため市道を走行中、交差点において標識があったにもかかわらず一時停止を怠って侵入し、左側から走行してきたダンプトラックと衝突した。	221	17	1～ 9
2001	11	15 ～ 16	工場内で鉄骨材(総質量800kg、長さ9m)をトラックに積み込むため、天井クレーン(定格荷重2.8t)で支持していた鉄骨材を一時仮置きしようとして鉄骨材からクランプを外していたとき、玉掛け用チェーンが鉄骨材から外れて鉄骨材が倒壊し、鉄骨材と脇にあったH鋼との間に腹部を挟まれた。	372	5	1～ 9
2001	11	16 ～ 17	鉄骨の柱(重さ約10t)を定格荷重20tの無線式天井クレーンで移動させるため玉掛けしていたところ、鉄骨の柱が台の上から落下してきて玉掛に激突した。	211	4	100 ～ 299
2001	4	9 ～ 10	倉庫横の港湾荷役作業場所を走行していた小型貨物自動車(最大積載量1t)が、岸壁の車止めを乗り越え海に転落した。	221	1	1～ 9
2001	10	20 ～ 21	得意先で配管の耐震強度の点検作業が終了しオートバイで国道を走行中、交差点において右折してきた軽自動車と衝突した。	231	17	100 ～ 299

2001	7	11 ～ 12	パチンコ店の天井裏で、出玉を通すステンレス製の玉路を増設するため アーク溶接機を用いて作業を行っていて感電した。	332	13	1～ 9
2001	10	14 ～ 15	旋盤に丸棒を装着しようとしたときに大腿部が旋盤のスイッチレバーに触 れてレバーを動かしたため、旋盤のチャック部分が回転し完全に装着され ていなかった丸棒がチャックの止め具に引っかかって手前に回転し丸棒で 前頭部を強打された。	151	6	1～ 9
2001	9	16 ～ 17	吊上げ荷重2. 8tのホイスト式天井クレーンを荷の上部まで移動しようとし たとき、クレーンのフックに取り付けた絶縁フックが3段に仮置されていた 最上部のH鋼を引っかけたため、崩れ落ちてきたH鋼に激突された。	211	6	10 ～ 29
2001	10	11 ～ 12	天井クレーン(吊り上げ荷重2t)のホイスト部分の交換で高さ4. 22mの作業 床上で同僚2人と作業を行っていたところ、チェーンブロックで吊り上げた ホイストがぐらついて当たりそうになったので、よけようとして地面に飛 び降り地面に頭を打ちつけた。	416	1	10 ～ 29
2001	9	8 ～ 9	会議に出席するため乗用車で自動車道を走行中、トンネルを出たカーブで 雨のためスリップし、追越し車線のガードレール支柱に激突した。	231	17	50 ～ 99
2001	8	8 ～ 9	製品(ステンレス製、重さ約380kgの板状の物)をシャコ万力で2箇所固定 し、繊維ベルトスリングを介して2. 8t吊の天井クレーンで移動中にシャコ 万力が外れて吊り荷が落下したため吊り荷を支えていた者が逃げきれずに 吊り荷とともに転倒し吊り荷に挟まれた。	372	2	10 ～ 29
2001	7	17 ～ 18	工場において終業準備中に気分が悪くなり、病院に移送されたが熱中症の ため死亡した。	715	11	30 ～ 49
2001	8	1 ～ 2	500t油圧プレスでクーラーの部品の補正(曲げを直す)作業中、金型を固定 しているボルトが切断したため重さ約1. 5tの金型が落ちてきて後頭部に激 突した。	154	6	10 ～ 29

2001	7	11 ～ 12	台に乗せた約12mの鉄骨の加工作業中、継ぎ目の溶接で溶接箇所を上面にするため床上操作式5tクレーンで吊り90度回転させ、位置調整のため右手で玉掛け用具(チェーンフック)を体の方向に引き寄せたとき、鉄骨が頭上に落ちてきた。	521	6	1～ 9
2001	7	10 ～ 11	炉横の油冷槽縁部において、感知センサー発光部の整備作業中に温度84℃の油槽(たて5m×横2m×深さ2m)に転落し、全身の92%に火傷を負った。	341	11	30 ～ 49
2001	7	14 ～ 15	線路の敷板とレールを固定するための「板ばね」を製造する工程で、高温の炉から出てきた製品を検査する担当者が、作業場所で倒れていたのを同僚が発見し病院に移送したが熱中症で死亡した。	715	11	50 ～ 99
2001	7	9 ～ 10	荷(アルミサッシ約500kg)を天井クレーン(テルハ1t)で運搬中にベルトスリングが切断し、下で作業をしていた者に荷が激突した。	372	4	30 ～ 49
2001	6	11 ～ 12	熱間鍛造プレスの金型をガスバーナーで予熱するため上型を上げ、下型上に金属性の「かませ」を置いたところ突然上型を保持しているラムが落下し、かませがプレスから約6m離れた場所にいた者の頭部に激突した。	155	4	10 ～ 29
2001	7	13 ～ 14	工場の換気用窓を開けるためスレート葺の屋根に上がって7枚の窓のうち5枚を開けて移動中、バランスを崩し明かり取り用の半透明波板を突き破り7m52cm下の工場コンクリート床に墜落した。	415	1	1～ 9
2001	6	16 ～ 17	NC中ぐり盤で原子力発電所に使用する扉の部品を加工中、ドリルアーバー軸(ドリル工具と機械本体をつなぐ軸)に作業服(右手部)が工具固定用ネジ(約8mm程度突出)に引掛かり巻込まれた。	152	7	10 ～ 29
2001	6	19 ～ 20	下請工場へ行くため乗用車で走行中、料金所付近でスリップして中央分離帯へ激突、さらに他のワゴン車に衝突し、後続の大型トラックに追突された。	231	17	10 ～ 29
2001	6	11	天井クレーン(0.9ホイストが4基付いたもの)を用いて、アルミ製の型材が載せてあるパレット(鋼製)を積むため本体を旋回させようとして誤って爪	211	4	30 ～

		12	の開閉スイッチを押したため、吊っていた型材(約400kg)が頭に落下した。			49
2001	4	13 ～ 14	事務所のレイアウトを変更するため、3Fにあった事務用机を1Fに下ろそうと簡易リフト(積載荷重240kg)に机等の荷(合計64. 3kg)とともに乗り込んでいたところ、突然、簡易リフトが急降下しはじめ1Fまで落下した。	214	7	10 ～ 29
2001	4	9 ～ 10	曲げ作業で使用するパレットが無くなったので、フォークリフトを使用してラック上のパレットを卸そうとしたがラック前に物が置いてあるためフォークを前に出せなかったため、ラック上部に登りパレットを引き出そうとして足を滑らせ約2. 2m下に転落した。	419	1	10 ～ 29
2001	4	16 ～ 17	自動結束機を用いてコイルの結束作業を行っていて、結束用のシール(留め金)が不足していたので補充するため、コイルとシールホルダーの間に入ったときに、自動結束機のロックが解除されてストラッピングヘッドが動き出し、フープガイド(結束帯の案内板)との間にはさまれた。	169	7	100 ～ 299
2001	5	17 ～ 18	所定の終業時刻を過ぎたので高さ約7. 7mの明かり取りの窓を閉めるため柱と直角に約60cm間隔で設けられている部材を壁伝いに上っていて滑り落ちた。	418	1	30 ～ 49
2001	3	16 ～ 17	工場に材料が届いたのでそれを整理するため、整理棚に立掛け、次の作業場所に移動しようとしたときに、棚が2tの材料とともに倒れ下敷きになった。	521	5	1～ 9
2001	4	13 ～ 14	シャーで配電盤用の鋼板加工を行っていて、壁に立てかけてあった鋼板を選定し抜き取ろうとしたところ、鋼板約50枚(重量約400kg)が倒れてきて鋼板とシャーとの間に挟まれた。	521	5	1～ 9
2001	3	9 ～ 10	事業場資材置場において、屋外に設置されている門型クレーン(吊り上げ荷重2. 8t)の解体作業で、クレーンの上部(高さ約7m)でボルトを外していて墜落した。	211	1	1～ 9
2001	3	16 ～ 17	工場で浴場用ろ過タンクとなる台座(約190kg)の溶接中に、表面の溶接を終え裏面の溶接を行うため天井クレーン(2. 8t)で吊り上げていたときに、麻の吊り上げロープが切れて台座が落下し、頭部を強打された。	372	4	1～ 9

2001	2	14 ～ 15	治具を作るため金属製シャフトを旋盤に取り付けて稼働させ、両手にペーパーを持ってシャフト表面をペーパー仕上げしていたときに左手が機械に巻き込まれ、左手首の切断と顔面を強打されて工場床面に倒れた。	151	7	1～ 9
2001	2	18 ～ 19	高圧養生釜(第一種圧力容器)にコンクリートパイプを入れて蒸気で昇圧中、養生釜の東側のふたが外れて吹き飛び、噴出した蒸気の勢いで養生釜が西側に飛び出し約40m先の厚生棟に衝突して止まったが、噴出した蒸気の側で作業をしていた労働者、厚生棟の前を通行中の労働者など計7名が被災し、そのうち1名が死亡、1名が重体になった。	312	15	10 ～ 29
2001	2	16 ～ 17	ダムスクリーン(流木などをせき止めるためのステンレス製のすのこ)を立てた状態で溶接作業を行っていたときに、スクリーン(質量約1t)が倒れて下敷になった。	521	5	1～ 9
2001	2	14 ～ 15	高所作業車に載って高さ約10mの位置で橋梁部材の間隔を計測中に、高所作業車のバケットから地上に墜落した。	146	1	30 ～ 49
2001	2	14 ～ 15	工場の電動式出入口シャッターが作動しないため、アルミ梯子を巻取り部分(高さ4.73m)まで掛けて昇り、バール2本のうち1本をシャッター巻取り部に差込み、もう1本のバールに足をかけてシャッターを押上げたところ、バールから足が外れたため4.73m下のコンクリート床面に墜落した。	371	1	10 ～ 29
2001	1	10 ～ 11	溶接されたH鋼の製作時に発生するフランジのひずみを矯正する作業中に、次にセットする準備として立てかけてあったH鋼(重さ約3t)が倒れ矯正装置のローラー荷台との間に体をはさまれた。	521	5	10 ～ 29
2000	9	9 ～ 10	バースのエプロンにおいて、海底砂採取船の砂採取装置の鋼製パイプを取り替えるため、パイプを接合しているボルト(24個)をアセチレンガスで溶断してハンマーで叩いて取り除いているときに、溶断せずに残してあったボルト1個が折れ、鋼製パイプ(長さ約8.7m、重量3.2t)が落下して直撃された。	391	4	1～ 9
		10	ターニングローラーの上にフランジを仮溶接した鋼管(径1.73m、長さ1.72m、重さ1.4t)を乗せ、ゆっくりと回転させながら床面に座り込む格			50

2000	7	～	11	好でフランジの本溶接作業を行っていたところ、回転させていた鋼管が徐々に作業位置方向に移動してきて床面にずり落ち、その下敷きになった。	159	4	～	99
2000	4	～	11	10 工場内の床に2段積にされたH鋼(質量約400kg)の上部2段目の手前から2本目を2. 8t吊り天井走行クレーンでクランプを用い吊り揚げたときに、手前から1本目に接触したため鋼材が落下し右大腿部に当たった。	521	4	～	10 29
2000	3	～	18	17 高さ約3. 5mの足場上において、ガス溶接機等を用いて工場内の壁や配管を撤去していた者がコンクリート床に墜落した。	411	1	～	50 99
2000	8	～	18	17 工場から離れた場所にある倉庫で鉄板の切断作業等を行い、作業が終了したので再び工場へ戻るためバイクで移動中に大型トラックと衝突した。	231	17	～	30 49
2000	2	～	8	7 点検のためフライス盤を動かしていたときに、フライス盤のフレームとテーブルとの間に頭を挟まれた。	152	7	～	30 49
2000	8	～	17	16 天井クレーン(定格荷重2. 5t)でボイラーのケーシング(質量約410kg)の運搬作業を行っていて、建屋の壁とケーシングとの間に胸をはさまれた。	211	7	～	30 49
2000	8	～	16	15 制御盤扉の二次加工のため扉の鉄板材料(質量48kg)を並べ替えていて、取り出そうとした鉄板に他の2枚がくっ付いてきたため、支えきれずそのまま後方へ倒れ、鉄板の下敷きになった。	521	5	1～	9
2000	7	～	11	10 圧延加工の終了した鋼板コイル(約1. 3t)を5tホイスト式天井クレーンで一時的保管場所へ移動させて約30cm幅のところに降ろす際に、吊っていたコイルが先に置かれていたコイルに乗り上げて滑り落ちると同時に台付けワイヤーが切れたため、咄嗟に避難しようとして転倒し後頭部を強打した。	372	2	1～	9
2000	1	～	11	11 事務所のごみを工場に隣接する田地で焼却するため灯油をかけ火を着けたときに、燃えているごみの中に倒れ込み全身火傷を負った。	512	11	～	10

		12				29
2000	12	11 ~ 12	工場排水処理装置に使用する浮上分離槽を製造するため直径3.2m、幅3.11mのタンク上で溶接作業中に、タンク上から滑って墜落した。	521	1	1~ 9
2000	10	11 ~ 12	外注先に製品を加工させるため助手席で金型を持って軽トラックで走行中、交差点で右折しようとして直進車と衝突した。	221	17	10 ~ 29
2000	7	15 ~ 16	コイルをクレーンで吊って移動させたときに、別のコイルと一緒に吊り上がりこのコイルが落下して撃突した。	611	4	10 ~ 29
2000	5	18 ~ 19	工場内でローラーコンベアの組立作業で、コンベア枠上に塗料の入った缶を置いてあったことを知らずに近くでアーク溶接を行ったため火花が塗料の缶に引火したので、塗料缶を工場の外へ運び出しているときに通路でつまづき、はずみで缶を床に投げ出したところへ倒れ込んで着衣に引火し火傷した。	512	16	1~ 9
2000	1	14 ~ 15	レベラー加工ライン(ロールの鋼材を板状の鉄板に加工)で、ラフレベラー(ロール状の材料を最初に伸ばす工程)のワークロールに付着したスケール(かす)を機械を動かしたまた鉄のへらを用いて取り除いているときにロールに巻き込まれた。	163	7	50 ~ 99
2000	9	6 ~ 7	土砂採取場に向って小型トラック(最大積載荷重850kg)で走行中、反対車線側のガードロープに衝突し、そのまま走行して側溝に転落した。	221	17	1~ 9
2000	6	11 ~ 12	製作所で切り込みを入れた鉄板をハンマーでくり抜いていたところ、後方に立て掛けられた鉄板(長さ240cm、幅50cm)が倒れてきたため鉄板と台車との間に挟まれた。	521	5	50 ~ 99
		16	通路のひさし(中空のアルミ製、質量約1t)を製作していて、この製品を裏返すため吊り上げ荷重5tの天井クレーンで製品の長手方向2箇所に溶接されて			100



2000	10	17	～	いる玉掛用吊りピースにナイロンスリングを掛けて片側を吊り上げ、製品がほぼ垂直になったときに、玉掛けしていた片方の吊りピースの周りの部材部分が引きちぎれて製品が落下し、頭部を挟まれた。	521	4	～	299	
2000	2	14	～	15	コイル状のプレス加工材を自動供給装置へセットするための搬送機であるコイルカー上に立ててあったコイル(質量500kg)が倒れたためコイルの収納作業中の者が下敷きになった。	521	5	～	99
2000	1	18	～	19	レーザー加工機で金属加工をしていた者が加工機のスライド部と柵との間に挟まれているのを発見したが、既に死亡していた。	159	7	～	29
2000	4	11	～	12	加工製作した質量0.4トンの鉄骨柱の中央部に鋼材専用吊クランプを掛け1点2本づりをし、2.8t天井クレーンでトラックに積み込もうとしたところ、クランプが鋼材から外れて近くにいたクレーンの操作者に当たった。	372	6	1～	9
2000	10	14	～	15	4tトラックの荷台上で、防水シートを掛ける作業を行っていて2.7m下の地面に墜落した。	221	1	～	29
2000	8	9	～	10	工場内で製作中の鉄板製架台(重量約1.2t)を方向転換させるため、天井クレーンを使用し吊り上げその状態を確認するため荷に近づいたときに玉掛用ワイヤーロープが切れ、落下してきた荷が頭部に当たった。	372	4	～	29
2000	1	11	～	12	伸線工程において、鉄線をドラムに巻き取るための伸線機の回転部分とローラの間隙約1cmとの間に巻き込まれた。	159	7	～	49
2000	11	16	～	17	天井クレーンのワイヤー交換作業中に乱巻きワイヤーを直そうとしていた者がワイヤーに右手を挟まれ、そのときにクレーン運転手がワイヤーの巻き上げたため、ワイヤーを巻くドラムに巻き込まれた。	211	7	1～	9
2000	7	0	～	1	工場内のホイスト式天井クレーン(2.8t)で機械等の移設作業中に集電子がトロリ線から外れたため修理しようとしてトロリ線に触れ感電死した。	211	13	～	29

2000	3	11 ～ 12	工場の2階資材置場から天井クレーンで鋼材を降ろす作業をしていて転落した。	416	1	1～ 9
2000	3	11 ～ 12	車のアルミホイールに色付けアルマイト処理の試作品を製作する作業において、封孔処理工程作業中に停電でホイストクレーンが停止したため、6名が電解槽の縁に上り製品を引き上げていたときに、1人がバランスを崩して右腕を純水電解槽(96℃)の中に入れてしまった。	391	11	100 ～ 299
2000	11	11 ～ 12	工場2階休憩室のストーブにポリタンクから灯油を給油し、ポリタンクを1Fの保管場所へ返そうと階段を降りているときにつまずいて転落した。	413	1	1～ 9
2000	9	10 ～ 11	ホイスト式片脚橋型クレーン(4.8t・床上操作式)で建設用鋼製柱を吊り上げて屋外の製品ヤードに積み上げているときに、脇に積み上げられていた別の鋼柱に吊り荷(鋼柱)が接触してその鋼柱が落下して吊り荷(鋼柱)に激突し、さらに、その衝撃でクレーン運転士の胸部に吊り荷(鋼柱)が激突した。	211	6	10 ～ 29
2000	10	9 ～ 10	納品先において、トラックの荷台からフォークリフトでステンレスパイプ計3本(重さ約240kg)を降ろすときに、荷台上荷のバランスが崩れ、誘導者が荷とともに落下した。	222	4	1～ 9
2000	3	0 ～ 1	工場屋根の波板が強風のため破損したので屋根に上り、はずれた波板を留めようとしていて6,75mの屋根上の開口部から墜落した。	415	1	10 ～ 29
2000	11	13 ～ 14	高精度立形マシニングセンタにより半導体用クリーニングプレートの再加工のため、40cm工具の先端部にダイヤモンドバイト2本を取り付け表面加工作業を開始した直後に工具が異常回転を起こし、バイトの一本がアクリル板製ドアカバーをつき抜け左胸に突き刺さった。	159	4	10 ～ 29
2000	11	17 ～	鋼製バンドで梱包された4段の鋼製材の上にあった25個のスキッド(鉄板を敷くための受台重さ500Kg)を天井クレーンで巻上げたところ、吊荷のスキッドが揺れて隣に積んであった7段の梱包された鋼製材に当たったため材が	211	4	30 ～

		18	落下してきて頭を直撃した。			49
2000	6	14 ～ 15	重さ約6tの鋼材を台車に乗せて移動中に、台車が転倒し鋼材の下敷きになった。	521	6	10 ～ 29
2000	4	13 ～ 14	2名でMgとAlの合金地金を粉碎機で砕いていたところ(直径10～20m程度の粒を粉末にする作業)、突然爆発し全身に熱傷を負った。	511	14	10 ～ 29
2000	4	13 ～ 14	2名でMgとAlの合金地金を粉碎機で砕いていたところ(直径10～20m程度の粒を粉末にする作業)、突然爆発し全身に熱傷を負った。	511	14	10 ～ 29
2000	4	13 ～ 14	NCオートドリルマシンで長さ6.5mのH鋼の穴あけ作業中に、H鋼が飛び出してきてオペレーターの背中に激突したため、H鋼とともにローラー台に乗り上げてH鋼とローラー台との間に腰から下肢にかけて挟まれた。	152	7	1～ 9
2000	4	9 ～ 10	鉄骨材(長さ約8.7m、重量約434kg)に補強用のリブを溶接する作業で、架台の上に並べられている2本のH鋼のうち奥にあるH鋼の向きを変えるため4.8t吊り天井クレーンで1本吊りで吊り上げたところ、吊荷のH鋼がぶれて手前のH鋼に当たったため、このH鋼が架台から落下して腹部の上に載った。	211	4	10 ～ 29
2000	4	14 ～ 15	工場床面から走行車最下部までの高さが3.27mある走行車の上で作業して作業後昇降設備を使用せずに降りようとしたときに、80℃の湯が入っている槽(3.38m×0.6m×0.61m)に墜落し全身火傷を負った。	418	1	10 ～ 29
2000	1	11 ～ 12	コラム形の柱に梁を取付けるためのH形鋼を溶接する作業で、柱をH形鋼の台に載せ、仮溶接した梁取付部のH形鋼に足を乗せた途端、鉄骨柱全体が180度回転し、そのはずみで1.42m下に転落し、下のH形鋼に背中を激突させた。	521	1	1～ 9
2000	1	13	レーザー加工機を使用して鉄板の抜き作業中に、側面から機械の内部に体を入れていたところテーブルが後方にストロークしたため、レーザー加工	159	6	30 ～

		14	機の本体とテーブルのストローク端との間に挟まれた。			49
2000	7	15 ～ 16	鋼線の酸洗場において、表面処理促進剤の入っているポリタンク(20?)のキャップを約1.3メートル下の床面に落としたので飛び降りて拾い、再び作業床に戻るため隣接している水槽の端部に足を掛けた登り始めたときに、バランスを崩し墜落した。	391	1	10 ～ 29
2000	4	10 ～ 11	鋼板加工工場の天井走行クレーンの月例点検で、クレーンガーダ上(高さ8.67m)で走行用モーターの作動確認をしていたときにクラブトロリの間(幅約1.3m)から墜落した。	211	1	30 ～ 49
2000	10	9 ～ 10	各種ビン類のアルミ製蓋を製造するラインのスタッカーコンベアを調整する作業で、電源及び空圧を切らずに機械の駆動チェーン内に身を乗り出し作業をしていたため、駆動チェーン部分が下降してきて機械の柵と駆動チェーンとの間に胸部を挟まれた。	169	7	100 ～ 299
2000	12	17 ～ 18	軽食を採るため社員食堂のある棟に向かって横断歩道を渡っていたところ、信号が変わったので右折してきたトラックにはねられた。	221	17	300 ～ 499
2000	11	11 ～ 12	大型のボックスカルバート用型枠の補修作業で、四角柱形の型枠を固定していたボルトを外していたときに型枠(1枚500kg)が倒壊し下敷きになった。	419	5	1～ 9
2000	5	16 ～ 17	2tトラックを運転して会社に戻る途中、S字の緩い左カーブでセンターラインをオーバーし、対向の大型トラックと正面衝突した。	221	17	1～ 9
2000	10	14 ～ 15	建築用鉄骨部材(長さ約10m、重さ約4t)にチェーン1本で玉掛けし、天井クレーン(つり上げ荷重10.2t)で吊上げた瞬間、チェーンが切断したため、荷振れ防止のために鉄骨部材に手を添えていた者が落下した鉄骨部材の下敷きになった。	372	4	100 ～ 299
1999	11	8	工場1階においてH形鋼へペンキ吹付けの準備作業を行っていたときにH形鋼上(長さ7.6メートル、幅0.3メートル、高さ1.23メートル)で転倒し、	521	2	1～ 9

		9	H形鋼の下方に平行して置かれていた別のH形鋼に顔面を強打した。			
1999	12	13 ～ 14	2階にある物置の内部造作のため、ベランダに梱包してある化粧合板(12枚束)の開封作業中にベランダの端から地上に墜落した。	418	1	10 ～ 29
1999	12	8 ～ 9	橋形クレーン(つり上げ荷重10.2t)を用いて鋼材(重量約9.8t)をトラック(最大積載荷重7t)の荷台に載せたところ、トラックがバランスを崩して横転したため、トラックと地面との間に腹部をはさまれた。	221	7	30 ～ 49
1999	12	17 ～ 18	製品の一部の材料であるコネクター(重さ750gのL鋼)を取り出すため、コネクターを入れてあるセットテナ(コネクターを1200枚入れたメッシュの金網状の箱)の3段積みが一番下のセットテナの扉を開けたところ、扉の左右の中間が座屈して崩壊し、下敷きになった。	611	5	50 ～ 99
1999	12	9 ～ 10	廃材を運送するため大型トレーラーで国道を走行中、急な左カーブを曲がりきれず対向車線にはみ出し、ガードレールを突き破って約7m下の河原に転落した。	221	17	1～ 9
1999	11	9 ～ 10	製品検査のため11本並べてあった建築用鉄骨(重量約2t)の4本?8本の鉄骨が将棋倒しに倒壊したため、10本目と11本目間でケレン作業をしていた者が鉄骨間に体を挟まれた。	521	5	1～ 9
1999	12	18 ～ 19	NC旋盤を使用して真鍮製加工材料を切削作業中、加工材料装着の際に用いたストッパーシャフトのシリンダ後部から突き出た部分に頭部から巻き込まれた。	151	7	10 ～ 29
1999	11	15 ～ 16	NCドリル機で鉄骨の穴あけ作業中にその可動部に立ち込んだため、機械を固定している柱と可動部との間に胸部を挟まれた。	159	7	10 ～ 29
1999	11	11 ～ 12	鉄骨造平屋倉庫の新築工事で、鉄骨の上棟のため高さ約4.7mの梁の上でシノをテコにしてボルト穴の調整をしていたところ、シノが外れた反動でバランスを崩し地上に転落した。	415	1	1～ 9
			鍍金工場において、亜鉛メッキしたパイプ主材(2.8t)を2基のウインチで			

1999	9	17	冷却槽(水温68℃～69℃)へ移動させ、冷却中にウインチから2基のホイスト	341	11	100
		18	に掛けかえる作業を行っていたときに、走行させたウインチのシーブケー			～
			スガホイストのワイヤーロープに接触し、ワイヤーロープが壊れたので冷			299
			却槽の縁に上がり直そうとして冷却槽に転落した。			
1999	11	8	鉄骨の穴あけ作業で、鉄骨置台上の鉄骨を5トンの天井クレーン2台を使っ	211	4	50
		9	て90度回転させる作業を行い、クランプを外して鉄骨置台から降りたとき			～
			に、鉄骨が置台上から落ちたため鉄骨と柱との間に挟まれた。			99
1999	9	11	工事現場基礎杭用の円筒形鉄筋カゴ(長さ約8.5m、内径約1.1m)内で	332	13	1～
		12	アーク溶接作業中、溶接棒を取替えたときに、充電部分に左手指が触れ感			9
			電した。			
1999	9	20	バンで取引先へ納品に出かけて帰社するため県道を走行中、道路端のコン	221	17	1～
		21	クリート塀に激突した。			9
1999	10	0	乾燥炉の天井部分に設置されているバーナーの調子が悪くなったので、調	342	1	1～
		1	整のため乾燥炉に常設されている梯子を登ってバーナーの点火部分まで行			9
			こうとしたときにバランスを崩して床面まで墜落した。			
1999	10	22	工場内の蛍光灯を脚立(高さ2m60cm)を使用して、取り替え作業を行なって	371	1	30
		23	いたところ、バランスを崩して墜落した。			～
						49
1999	4	14	空のガソリタンクの解体で、ガス溶断を始めたところタンク内が爆発	391	14	10
		15	し、ガソリタンクのサイドの円形部分とともに吹き飛ばされた。			～
						29
1999	8	15	配電盤枠の製造工場(鉄骨平屋建)の南側裏山が高さ約20m、幅30m(崩壊土	711	5	1～
		16	量約453?)にわたって崩れ、工場内にいた3名、屋外にいた1名が土砂に巻き			9
			込まれ、1名が死亡した。			
1999	10	13	レーザ裁断機のワークシュータ(裁断された鉄板を下に落とす装置)の動き	159	7	1～
		～	が悪くなったので、ワークシュータ真下のエアシリンダーを調整するた			

		14	め、腹ばいになって中へもぐり調整していたところ、急にワークシュータ が下降し、ワークシュータとシュートとの間に頸部を挟まれた。			9
1999	9	17 ～ 18	同僚と2名で鋼管束(6mもの50本、重量819kg及び5mもの50本、重量 682. 5kg)の4束をフォークリフトを使用して積み上げる作業で、最上部の 輪木の位置を直していたところへ、背後から同僚運転のフォークリフトが 近づきフォークを上昇させたときにフォークリフトが前のめりに転倒した ため運搬中の鋼管束が落下し、その下敷きになった。	222	4	10 ～ 29
1999	9	16 ～ 17	鉄板4枚(重量約1. 7t)片端に吊りクランプ(基本使用荷重0. 75トン)1個を かませ、定格荷重2. 8トンの天井クレーンで約3. 8メートル吊り上げて引 きずったところ、クランプから鉄板が外れて落下し、その下を通行してい た者に当たった。	372	4	1～ 9
1999	9	9 ～ 10	新築工事において、トタン板を葺く準備作業中にトタン板を張る下地とな る木毛板を踏み抜いて高さ6. 97m下のコンクリート床上に墜落した。	415	1	30 ～ 49
1999	8	14 ～ 15	3トントラックで鋳物製品を運搬中、前方のトラック(鋼材が積んである)が 停車していたのに気づくのが遅れ追突した。	221	17	30 ～ 49
1999	7	10 ～ 11	圧力容器のタンク内部の研磨作業中、研磨機械に漏電していて感電した。	999	13	10 ～ 29
1999	8	7 ～ 8	屋外に設置されたトリクロルエチレン洗浄槽の中に落ちていた金属製品を 拾うため槽の中に入りゴム手袋、防毒マスク、保護眼鏡、ゴム長を着用し て拾っているときに、意識不明となった。	514	12	1～ 9
1999	5	9 ～ 10	工場内で1つしかない金型のことで口論となり、興奮してきた加害者を周囲 にいた労働者2名で体をおさえて被災者と引き離れたものの、被災者が加害 者に近づいてきたため、加害者が右手で被災者の左頬を殴り、そのはずみ で被災者が仰向けにコンクリート床に倒れ後頭部を強打し、入院先の病院 で死亡したものである。	911	90	30 ～ 49

1999	8	15 ～ 16	金型の納品及び調整に来ていて、休憩時間に手袋を外してジュースを飲むとしたが、金型を天井クレーンで吊り上げたままであったので金型を移動させようと右手でワイヤーロープをつかみ、左手で天井クレーンのペダントスイッチに触れたときに感電した。	211	13	1～ 9
1999	5	16 ～ 17	スクラップヤードの天井クレーンランウェイの一部にボルトを取付けしていたところ、運転室付クラブトロリ式天井クレーン(つり上げ荷重20.52トン)が走行してきて車輪に胴体をひかれた。	211	7	1～ 9
1999	8	16 ～ 17	工場内(60坪)において、仕上がった製品(鉄製の型枠)の寸法をメジャーで確認する作業を行っていたときに、突然うつ伏せになって倒れ、熱中症により死亡した。	715	11	1～ 9
1999	7	13 ～ 14	3階の梁上にいたとび工から「ボルトを取ってくれ」と声をかけられたので、下から手を伸ばしているとび工にボルトの入った箱を渡そうとしたときに、約7メートル下の地面に墜落した。	418	1	1～ 9
1999	7	17 ～ 18	洗浄したばかりのビールタンク内の補修作業を実施する前に、残留している臭いと酸欠が気になったので、純酸素をタンク内に約10分放出させ、その後タンク内に入り純酸素を入れながらアルゴン溶接を行っていたところ、軍手についた火が全身に燃え広がり、全身の80%が1, 2度の火傷を負った。	719	11	30 ～ 49
1999	6	14 ～ 15	休憩時間に所定の休憩場所へ移動するため、溶断した厚鉄板上に足をかけたときに、鉄板とともに97cm下の床上へ転落し、頭を強打した。	521	1	10 ～ 29
1999	3	7 ～ 8	会社の送迎ワゴン車に乗って出勤途中、会社近くの信号機の無い交差点で一時停止したのち直進をしたところ、左側から直進してきた車に激突され、その勢いで工場の塀に激突、さらに民家にも激突した。	231	17	10 ～ 29
1999	6	11 ～ 12	一般家屋のリフォーム工事で、防錆塗装を行った際に塗料が1階玄関の底に垂れ落ちたため、梯子を用いて拭き取り作業を行っていたが、梯子の足元が盛土の上だったため滑り、梯子が倒れ、地上2mの位置から梯子と共に墜	371	1	1～ 9



			落とし、前の道路に後頭部を打ちつけた。			
1999	6	8 ～ 9	吊り上げ荷重5tの床上操作式天井クレーンでH鋼をクランプ一本で吊り移動していたところ、吊りクランプからH鋼がはずれ、その下敷きになった。	372	4	10 ～ 29
1999	4	14 ～ 15	午前中にホイスト式片脚橋形クレーンの地上側走行ストッパーの補強のための溶接を溶接工が行ったが、その日の午後に溶接部分が気になってストッパー付近にいたときに、トラックに製品である鉄骨を積み込むため走行してきたクレーンの脚部分とそのストッパーとの間に頭部を挟まれた。	211	7	10 ～ 29
1999	1	16 ～ 17	工場の床材に使用されるH鋼に付けられた鉄板の一面を塗装し、その後、裏面を塗装するため床上操作式3トンクレーンを用いてH鋼を裏返そうとしたときに、鉄板がシャックルから外れ、その下敷きになった。	372	6	1～ 9
1999	4	14 ～ 15	船のファナーの補修で、10.4tジブクレーンで地面に降ろす際、煙突の台座の片側を下げるため台座4隅に繊維ロープを通し、地面から約50cmのところではチェーンブロックをかける作業を行っていたときにの台座が横倒しになり煙突と船台との間に挟まれた。	211	6	1～ 9
1999	4	16 ～ 17	塗装鋼板工場のカラーラインの出側のルーパーピット内において、ロールに付着した異物を除去しようとして右手をロールに入れたときに巻き込まれ、上体がロール側面と架台との間に引き込まれた。	163	7	300 ～ 499
1999	3	10 ～ 11	工場において、約800kgの機械をトラックパネルに乗せて移動しようとしてジャッキアップしていたときに、機械が倒れその下敷きになった。	361	5	1～ 9
1999	3	15 ～ 16	溶鉱炉内の地金をアーク溶断していて、作業衣に着火し火傷を負った。	332	11	1～ 9
1999	3	10 ～ 11	自動溶接されたH型鋼の歪み取りのため、「矯正機」を使って作業していたときに、ローラーコンベアー上を流れてきたH型鋼と立入禁止用のパイプとの間に頸部をはさまれた。	224	7	100 ～ 299

1999	1	14 ～ 15	塗装ブース内で静電塗装による吹付け塗装作業中、突然発火し、それが業者に燃え移った。	359	11	30 ～ 49
1999	2	13 ～ 14	ストックヤードに仮置きしたH型鋼4本を2.8トンホイストクレーンに玉掛し地切りしたときに、玉掛したH型鋼の下にあったH型鋼1本が転げ落ち、それをよけた拍子に後方に積んであったH型鋼に頭部を強打した。	521	2	1～ 9
1999	1	10 ～ 11	月例会議に出席するため社用車で会社を出発したところ、踏切で電車と衝突し全身を打撲した。	231	17	100 ～ 299
1999	1	8 ～ 9	鋼材を運搬してきたトレーラーを工場構内へ誘導するため道路上で後続車の停車誘導をしていたとき、工場とは関係なく道路上をまっすぐに後退してきたトレーラーの右後輪に腹部を轢かれた。	221	17	1～ 9

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.html](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html)(職場のあんぜんサイト)

[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311\\_01.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.html)に戻る。